

2026年度

大学院医学研究科
博士課程教育要項

（一般大学院／社会人大学院）

東京医科大学
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY

2026年度　大学院医学研究科博士課程教育要項

目　　次

大学院医学研究科長のメッセージ …… 1
博士課程各ポリシー …… 2
大学院学則 …… 4
大学院医学研究科博士課程学科目および単位数 …… 25
大学院医学研究科博士課程履修系統図 …… 26
研究指導計画に基づく学位審査までの流れ …… 27
大学院医学研究科博士課程単位履修要項 …… 28
学位論文申請 …… 32
加入保険等 …… 34

共通科目

ステップ１ …… 39
ステップ２
国際発信のための論文執筆とプレゼンテーション …… 42
医学研究における法と倫理 …… 44
医療データサイエンス …… 46
グラント申請の書き方・研究資金の確保 …… 48
アドバンストプログラム
研究推進人材育成プログラム …… 50
医療データサイエンス講究 …… 52

コースワーク

コースワーク講義・演習および実習の概要
① 神経系コースワーク …… 57
② 生体防御系コースワーク …… 60
③ 腫瘍系コースワーク …… 63
④ 器官系機能解析コースワーク …… 68
⑤ 分子・細胞機能解析コースワーク …… 72
⑥ 社会・情報・教育系コースワーク …… 75
コースワーク別大学院特別講義 …… 78

専門科目

形態系

人体構造学 …… 82
組織・神経解剖学 …… 84
人体病理学 …… 86
分子病理学 …… 88
微生物学 …… 90

機能系

細胞生理学 …… 92
病態生理学 …… 94
生 化 学 …… 96
薬 理 学 …… 98

免 疫 学 …… 100
免疫制御学 …… 102

社会医学系

公衆衛生学 …… 104
健康増進スポーツ医学 …… 106
法 医 学 …… 108
医療の質・安全管理学 …… 112
医療データサイエンス …… 114

内科系

血液内科学 …… 118
呼吸器内科学 …… 120
循環器内科学 …… 122
糖尿病・代謝・内分泌内科学 …… 124
リウマチ・膠原病内科学 …… 126
神 経 学 …… 128
消化器内科学 …… 130
消化器内視鏡学 …… 132
内 科 系（代謝内科学／消化器内科学／腎臓内科学／臨床感染症学） …… 134
精神医学 …… 144
小児科・思春期科学 …… 146
皮膚科学 …… 150
放射線医学 …… 152
臨床検査医学 …… 154
高齢総合医学 …… 158
腎臓内科学 …… 162

外科系

呼吸器・甲状腺外科学 …… 164
乳腺科学 …… 166
心臓血管外科学 …… 170
消化器・小児外科学 …… 172
消化器外科学 …… 174
消化器外科・移植外科学 …… 176
整形外科学 …… 178
眼 科 学 …… 182
泌尿器科学 …… 184
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 …… 186
産科婦人科学 …… 190
麻酔科学 …… 192
脳神経外科学 …… 194
口腔外科学 …… 196
形成外科学 …… 200
救急・災害医学 …… 202

大学院医学研究科長のメッセージ
ディプロマ・カリキュラム・アドミッション　ポリシー
大学院学則
大学院医学研究科博士課程学科目および単位数
大学院医学研究科博士課程履修系統図
研究指導計画に基づく学位申請までの流れ
大学院医学研究科博士課程単位履修要項
学位論文申請
大学院医学研究科博士課程年間予定表
加入保険等

大学院医学研究科長のメッセージ

研究科長　横山　詩子

大学院とは、大学や社会で培った知識を基盤に、さらに専門的な研究を深める場です。研究生活は、人生のターニングポイントとなりうる刺激的な経験であり、新たな価値を創造する能力を養う機会でもあります。しかし、日本ではこの 20 年ほど大学院進学率が低下しており、皆さんは“少数派”として、就職や臨床の道とは異なる選択をされました。その決断は、間違いなく正しいものです。なぜなら、研究は高度職業人としてのキャリアにおいて極めて重要な役割を果たすからです。

研究の重要性は、近年の科学技術の進展を見れば明らかです。遺伝子編集技術は遺伝病の治療法の可能性を広げ、免疫チェックポイント阻害剤はがん治療を劇的に変革しました。AI の発展により医療画像診断やビッグデータ解析が進み、予防医学への応用が広がっています。また、COVID-19 のパンデミックでは mRNA ワクチン技術が実用化され、ワクチン開発のスピードが飛躍的に向上しました。この成功により、新しい臨床試験の設計が進められ、さらなる社会の変革が生まれています。これらはすべて、未知の課題への挑戦が成し得た成果です。

これまでの学びでは、知識を習得し、それを適切に運用することが求められ、常に「答え（らしいもの）」がどこかに存在していました。しかし、これからは「未だ解明されていないこと」を明らかにするという、大きな思考の転換が求められます。答えが存在しない状況の中で、自身の研究が正しいと証明するには、論理的思考力、確かな技術と専門知識、他者との連携力、成果を適切に表現する能力、そして高い倫理観が不可欠です。大学院での研究を通じて、これらのスキルが総合的に高められ、最終的には世界初の知見として論文を世界に向けて発信することができます。

大学院では、研究を支える多様な知識やスキルを習得するための講義が開講されています。特に本年度から「研究推進人材育成プログラム」と「医療データサイエンス講究」の2つの専門プログラムが開講します。研究倫理、医学英語、論文執筆、プレゼンテーション、情報科学、医療データサイエンス、グラント申請、トランスレーショナルリサーチ、臨床研究など、専門領域を超えて学べる環境を整えており、学内では分野横断的な指導体制や交流の機会が提供されています。

最後に、哲学者ラルフ･ワルド･エマーソンの言葉を紹介します。

"Do not go where the path may lead. Go instead where there is no path and leave a trail."

「道があるところに行くのではなく、道のないところに行き、足跡を残しなさい」

大学院での研究は、まさにこの言葉の通り、未知の領域に足を踏み入れ、新たな道を切り拓く営みです。ぜひ、「答えのない世界」を楽しんで、これまでと違った景色を見てください。

【博士課程】

■ディプロマ・ポリシー

国際的視野と専攻領域における高度な専門的知識を有し、研究者としての高い倫理観と論理的思考のもとで、医学・医療の高度化に寄与し、新たな学理を拓く研究を自立的に実践できる能力を有する者に学位を授与する。

学位授与に際しては以下の条件を満たす必要がある。
大学院医学研究科が定める所定の期間在学し、開講されている授業科目を履修し修了要件以上の単位数を修得し、研究科が行う最終試験および博士論文審査を受け、医学研究科委員会で合格と認定された者。
また、最終試験では下記の項目を審査する。

1．研究の背景・目的の意義を論理的に説明できる。
2．内外の専攻分野の普遍的および最新の知識が十分である。
3．研究方法の科学的な正当性をよく理解し、説明できる。
4．研究結果を論理的に解釈し、考察、結論できる。
5．医学研究を自ら計画し、研究倫理に則り主体的に取り組むことができる。
6．論理的に思考し、質疑応答する能力がある。

なお、博士論文は、申請者が筆頭著者として公表する査読付き原著論文であり、かつ原則的に英文で記載されたものとする。

■カリキュラム・ポリシー

「専門科目」と「共通科目」、「コースワーク」および「大学院特別講義」を体系的に展開することにより、責任ある研究行為を実践し、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力が修得できるように教育課程を編成する。

1．「専門科目」では、担当研究指導教員との協議により研究テーマを設定し、専攻領域と研究テーマに即した先端知識・技術を修得し、日々の討論と内外の学会・研究会の参加を通して、論理的、科学的思考が定着するよう編成する。
2．「共通科目」では、研究遂行に不可欠な医学・研究倫理、医療統計、医学英語のプレゼンテーションスキル、英語論文作成、グラント申請能力などを修得できるよう編成する。
3．「コースワーク」は、「神経系」、「生体防御系」、「腫瘍系」、「器官機能解析系」「分子・細胞機能系」、「社会・情報・教育系」の 6 領域から構成され、学生が研究テーマに即した領域を選択することで、（専門分野の研究室枠を越えて）研究遂行に必要とされる研究手法・技能を修得できるよう編成する。年 2 回開催される「コースワーク別研究発表会」では、原則として、第 1 学年では研究テーマに関する「目的、背景、研究方法」等を発表し、第 2、3 学年では「（進捗状況）中間報告」を行う。第 4 学年では「東京医科大学医学会総会」で研究成果に関するポスター発表を英語で行う。
4．「大学院特別講義」は、先端医学・医療の講義を通して、専攻分野にとらわれない研究者としての幅広い視野と科学に共通する思考・アプローチ法を修得できるように編成する。
5．「東京医科大学医学会総会」（年 2 回開催）、「コースワーク別研究発表会」を含む学内外の学会、研究会で、自らが行った研究内容を発表すると共に、他の学生や研究者の発表を聴講し討論することで科学的・論理的思考が定着するよう編成する。「医学会総会」のポスター発表では、研究成果を英語で行うことにより、英語による総合的なプレゼンテーションスキルを高める。

■アドミッション・ポリシー

本学の校是である「正義・友愛・奉仕」の精神をもち、自ら積極的に学び(自主自学)、本学のミッションの実現のもとで高度先進医学・医療を推進するため、以下のような人を求める。

1．国際的視野で、医学・医療の発展に貢献する意欲の有する人
2．高い倫理観を有し、積極性・協調性・コミュニケーション能力が優れている人
3．次世代の医学・医療に対して深い関心をもち、能動的な学びを実践する能力を有する人
4．医科学情報の収集・解析・発信のためのスキルとしての英語力を有する人
5．科学的な思考と公正な評価ができる人

東京医科大学大学院学則

第１章　総　則

（目　的）

第１条　東京医科大学大学院（以下「本大学院」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、先端的な研究の高度化を推進し、新しい時代に即応した人材を育成することを目的とする。

（課　程）

第２条　本大学院に、次の研究科及び課程を置く。

研究科	課程
医学研究科	修士課程 博士課程
看護学研究科	修士課程

２　医学研究科修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的とする。

３　医学研究科博士課程は、学術の理論及び応用を教授し、創造性、活力、人間性豊かな総合判断力かつ国際的な視点を有し、医学の発展を通して人類に貢献・寄与しうる指導力を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。

４　看護学研究科修士課程は「高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人の養成」を担うべき人材養成機能とし、「高度な看護実践能力、基礎的な教育研究能力を備えた看護職の養成」を主たる教育上の目的とする。

（研究科の組織及び目的）

第３条　本大学院の医学研究科及び看護学研究科に次の専攻を置く。

研究科	課程	専攻
医学研究科	修士課程	医科学
	博士課程	医学
	博士課程 (令和6年度入学者迄)	形態系
		機能系
		社会医学系
		内科系
		外科系
		社会人大学院・臨床研究系
		社会人大学院・研究系
看護学研究科	修士課程	看護学

⑴　医科学専攻

医科学専攻は、基礎医科学分野の知識を統合的に習得させ、医科学研究を実践することで、多様な医学･医療関連の分野で活躍できる医学研究者及び医学研究に関連する業務に携わる人材を養成する。

⑵　医学専攻

医学専攻は、共通科目による高い倫理観と論理的思考の涵養、基礎・社会医学系分野と臨床系分野が融合して構成されるコースワークおよび専門科目による体系的な高度な知識と能力の修得を通して、新たな学理を拓く研究を実践し、医学の発展、人類の福祉に貢献する人間性豊かな研究者ならびに研究指導者を養成する。

⑶　形態系専攻

形態系専攻は、人体構造学、組織・神経解剖学、人体病理学、分子病理学及び微生物学の５分野からなり、人体の臓器、組織の解剖学的研究、疾患に対する病理学的アプローチまで主に形態学的観点から人体の構造と病態の解明に取組み、基礎及び臨床医学の発展に寄与できる能力を有する人材を養成する。

⑷　機能系専攻

機能系専攻は、細胞生理学、病態生理学、生化学、薬理学、免疫学及び免疫制御学の６分野からなり、薬物の生体に与える作用機序の解明、中枢神経系への生理学的アプローチ、免疫反応の仕組など生体機能、生体防御に関わる研究を行い、研究指導者や大学等の教員となりうる人材を養成する。

⑸　社会医学系専攻

社会医学系専攻は、公衆衛生学、健康増進スポーツ医学、法医学、医療の質・安全管理学、医療データサイエンス及び医学教育学の６分野からなり、疫学的研究、心身の健康維持、医療事故の現状と予防対策を構築できる人材を養成するとともに、新しい教育の開発や導入、教育活動の改革を促進できる能力を養成する。

⑹　内科系専攻

内科系専攻は、血液内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、糖尿病・代謝・内分泌内科学、リウマチ・膠原病内科学、神経学、消化器内科学、消化器内視鏡学、内科系、精神医学、小児科・思春期科学、皮膚科学、放射線医学、臨床検査医学、高齢総合医学及び腎臓内科学の 16 分野からなり、各分野の医療を実践できる専門医認定医と高度な水準の医学研究に基づいた研究マインドと指導力を兼ね備えた研究指導者を養成する。

⑺　外科系専攻

外科系専攻は、呼吸器・甲状腺外科学、乳腺科学、心臓血管外科学、消化器・小児外科学、消化器外科学、消化器外科・移植外科学、整形外科学、眼科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、産科婦人科学、麻酔科学、脳神経外科学、口腔外科学、形成外科学及び救急・災害医学の 16 分野からなり、疾病に対して観血的手技を用いて人体の回復を図ることが中心と

なる。したがって、外科学的な基本知識と技能を学び、その知識、技能を基に実践につながる応用力、未解明分野を研究する臨床医及び研究指導者を養成する。

⑻　社会人大学院・臨床研究系専攻

社会人大学院・臨床研究系専攻は、血液内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、糖尿病・代謝・内分泌内科学、リウマチ・膠原病内科学、神経学、消化器内科学、消化器内視鏡学、内科系、精神医学、小児科・思春期科学、皮膚科学、放射線医学、臨床検査医学、高齢総合医学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺外科学、乳腺科学、心臓血管外科学、消化器・小児外科学、消化器外科学、消化器外科・移植外科学、整形外科学、眼科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、産科婦人科学、麻酔科学、脳神経外科学、口腔外科学、形成外科学及び救急・災害医学の 32 分野からなり、優秀な人材を求めるため広く社会に門戸を開き、優秀な臨床医及び研究指導者を養成する。

⑼　社会人大学院・研究系専攻

社会人大学院・研究系専攻は、人体構造学、組織・神経解剖学、人体病理学、分子病理学、微生物学、細胞生理学、病態生理学、生化学、薬理学、免疫学、免疫制御学、公衆衛生学、健康増進スポーツ医学、法医学、医療の質・安全管理学、医療データサイエンス及び医学教育学の 17 分野からなり、優秀な人材を求めるため広く社会に門戸を開き、優秀な医学教育者及び研究指導者を養成する。

⑽　看護学専攻

建学の精神「自主自学」と教育ビジョン「社会に出てからも永く活躍できる人材の育成」に基づき、基礎教育で身につけた能力を更に深化させ、高度な看護実践能力および基礎的な教育研究能力を備え、実践現場から看護の質向上に貢献する人材、将来教育研究者として看護学の発展に貢献できる人材を養成する。

（学生定員）

第４条　医学研究科及び看護研究科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	課　程	専　攻　名	入学定員	収容定員
医学研究科	修士課程	医科学専攻	10 名	20 名
	博士課程	医学専攻	68 名	272 名
	博士課程 （令和６年度 入学者迄）	形態系専攻	10 名	40 名
		機能系専攻	10 名	40 名
		社会医学系専攻	４名	16 名
		内科系専攻	10 名	40 名
		外科系専攻	10 名	40 名
		社会人大学院・臨床研究系専攻	20 名	80 名
		社会人大学院・研究系専攻	４名	16 名
		小計	68 名	272 名
	合計		78 名	292 名
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	６名	12 名

第２章　修業年限、在学年限、学年及び学期等

（修業年限）

第５条　医学研究科における標準修業年限は、修士課程にあっては２年、博士課程にあっては４年とする。

２　看護学研究科における標準修業年限は、修士課程にあっては２年とする。

（在学年限）

第６条　医学研究科における在学年限は、修士課程にあっては４年を、博士課程にあっては８年を超えることはできない。

２　看護学研究科における在学年限は、修士課程にあっては４年を超えることはできない。

（長期履修）

第６条の２　看護学研究科においては、学生が入学時に考慮すべき事情により第５条第２項に規定する標準修業年限を超えて一定期間にわたり計画的に履修し修了すること（以下、「長期履修」という。）を申し出た場合にはその計画的な履修を認めることができる。

２　前項の長期履修を認められた場合には、第６条第１項の規定に係わらず６年を限度として在学できる。

３　長期履修制度に関し必要な事項は、別に定める。

（学年、学期及び休業日）

第７条　学年、学期及び休業日は、東京医科大学学則（以下「大学学則」という。）第 16 条、第 17 条及び第 18 条の規定を準用する。

第３章　教育方法、授業科目及び単位並びに履修方法等

（教育方法）

第８条　本大学院における教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行うものとする。

２　看護学研究科においては、学位論文の作成に替えて課題研究に対する指導を含むものとする。

３　大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例により、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第８条の２　授業は、講義、演習、実験、実習及びこれらの併用により行うものとする。

２　文部科学大臣の別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる事ができる。

（授業科目及び単位）

第９条　医科学専攻の授業科目及び単位等は、別表１のとおりとする。

２　第３条第２号　医学専攻の授業科目及び単位等は、別表２の１のとおりとする。

３　第３条第３号から第９号までの各専攻の授業科目及び単位等は、別表２の２のとおりとする。

４　看護学研究科修士課程の授業科目及び単位等は、別表３のとおりとする。

（履修方法等）

第 10 条　本大学院における研究指導の内容及び履修方法等は、別に定める。

（成績の評価）

第 11 条　成績の評価は、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの４種とし、Ａ・Ｂ・Ｃを合格、Ｄを不合格とする。

（他の大学院等における授業科目の履修）

第 12 条　本大学院の教育上特に有益と認めるときは、他の大学院、研究所等の長と協議のうえ、学生に当該大学院､研究所等における授業科目の授業又は研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程の学生については、当該研究指導を受けさせることができる期間は、１年を超えないものとする。

２　前項の規定により修得した授業科目及び単位については､修士課程においては４単位を超えない範囲で､博士課程においては８単位を超えない範囲で､本大学院において相当する授業科目及び単位を修得したものとみなすことができる。

第４章　課程修了要件及び学位

（課程の修了要件）

第 13 条　修士課程の修了要件は、本大学院修士課程に２年以上在学して 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学年数に関しては、優れた研究業績を上げた者については、１年以上在学すれば足りるものとする。看護学研究科高度実践看護師コースについては修士論文に代えて、課題研究の審査を課すものとする。

２　博士課程の修了要件は、本大学院博士課程に４年以上在学して 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学年数に関しては、優れた研究業績を上げた者については、３年以上在学すれば足りるものとする。

（課程修了の認定及び成績評価）

第 14 条　医学研究科における課程修了の認定は、医学研究科長が行う。

２　学位論文の審査及び最終試験の成績評価は、第 49 条に定める医学研究科委員会の審査に基づいて、研究科長が行う。

３　科目試験、学位論文の審査及び最終試験の成績評価の基準は、医学研究科委員会の定めるところによる。

第 14 条の２　看護学研究科における課程修了の認定は、看護学研究科長が行う。

２　学位論文または課題研究の審査及び最終試験の成績評価は、第 49 条に定める看護学研究科委員会の審査に基づいて、研究科長が行う。

３　科目試験、学位論文または課題研究の審査及び最終試験の成績評価の基準は、看護学研究科委員会の定めるところによる。

（学位授与）

第 15 条　学長は、医学研究科修士課程を修了した者には、修士（医科学）の学位を授与する。

２　医学研究科博士課程を修了した者には、博士（医学）の学位（甲種－課程博士）を授与する。

３　医学研究科博士課程を所定単位取得後退学後、３年以内に博士論文の審査及び最終試験に合格した者にも、博士（医学）の学位（甲種－課程博士）を授与する。

４　看護学研究科修士課程を修了した者には、修士（看護学）の学位を授与する。

第 16 条　医学研究科博士課程においては、第 13 条第２項及び第 14 条（修士課程に係る部分を除く。）の規定により学位を授与される者と同等以上の内容を有する論文を提出し、その審査及び試験等に合格した者に対しても、博士（医学）の学位（乙種－論文博士）を授与することができる。

第 17 条　学位の授与に関して必要な事項は、別に定める。

第５章　入学、再入学及び転入学

（入学資格）

第 18 条　医学研究科修士課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

⑴　大学を卒業した者

⑵　専修学校の専門課程を修了した者で、高度専門士の称号を授与されたもの

⑶　外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者

⑷　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者

⑸　我が国において､外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

⑹　昭和 28 年文部省告示第５号をもって文部科学大臣の指定した者

⑺　学校教育法第 68 条の２第４項の規定により学士の学位を授与された者

⑻　研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達したもの

２　医学研究科博士課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

⑴　大学（６年制の医学、歯学、獣医学又は薬学の課程。以下この項において同じ。）を卒業した者

⑵　修士の学位又は専門職学位を有する者

⑶　外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

⑷　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し､修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

⑸　我が国において､外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

⑹　国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第１条第２項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

⑺　昭和30年文部省告示第39号をもって文部科学大臣の指定した者

⑻　平成元年文部省告示第118号をもって文部科学大臣の指定した者

⑼　研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

第18条の２　看護学研究科修士課程研究コースに入学することのできる者は、保健師・助産師・看護師のいずれかの資格を有し（入学時までに資格取得見込みを含む）、次のいずれかに該当する者とする。

⑴　大学を卒業した者及び入学時までに卒業見込みの者

⑵　大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者及び入学時までに学位を授与される見込みの者

⑶　外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び入学時までに修了見込みの者

⑷　外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の16年の課程（文部科学大臣指定外国大学日本校）を修了した者及び修了見込みの者

⑸　文部科学大臣が外国の大学相当として指定した外国の学校の課程を修了した者及び入学時までに修了見込みの者

⑹　外国の大学等において、就業年限が３年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者及び入学時までに学位授与される見込みの者

⑺　専修学校の専門課程（文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び入学時までに修了見込みの者

⑻　本研究科において個別の入学資格審査により大学を卒業した者と同等の学力があると認めた者

２　高度実践看護師コースに入学することができる者は第１項及び第１項⑴～⑻のいずれかに該当する者で、入学時点で各専門分野における看護実務経験を３年以上有する者

（入学の時期）

第19条　入学の時期は、原則として学年の始めとする。

（入学の出願）

第20条　本大学院の入学志願者は、所定の入学願書に所定の入学考査料及び別に定める書類を添えて、指定する期日までに本学に願い出なければならない。

（入学者の選考）

第21条　入学者の選考は、論文審査、面接、その他の方法による。

２　その他入学者の選考について必要な事項は、別に定める。

（入学手続）

第 22 条　前条の選考に合格した者は、指定する期日までに、入学金及び授業料を納入するとともに所定の書類を添えて入学の手続を完了しなければならない。

（入学の許可）

第 23 条　学長は、前条の手続を完了した者につき、入学を許可する。

（再入学）

第 24 条　本大学院を中途において退学した者で、再び同一専攻に入学を志願する者には、退学後２年以内に限り、これを許可することがある。

２　再入学した者の在籍年次、既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、所属の研究科委員会において決定する。

（転入学）

第 25 条　他の大学院の学生が本大学院に転入学しようとするときは、当該大学院設置の大学の学長又は所属研究科長の紹介状を添えて、学長に転入学願を提出しなければならない。

２　前項の願い出があったときは、欠員ある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

３　転入学した者の在籍年次、既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、所属の研究科委員会において決定する。

第６章　休学、転学、退学及び除籍等

（休　学）

第 26 条　疾病その他やむを得ない事由により、引き続き３か月以上修学できない見込みの者は、所定の手続により、学長の許可を得て休学することができる。

２　疾病等のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

（休学期間）

第 27 条　休学の期間は１年を超えることができない。ただし、やむを得ない事由があるときは、許可を得て更に１年以内に限り、期間を延長することができる。

２　休学の期間は、修士課程にあっては通算して２年、博士課程にあっては通算して３年を超えることができない。

３　休学の期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

（復　学）

第 28 条　休学期間が満了するとき及び休学期間中であっても、その事由が消滅した場合には、保証人連署のうえ、所定の復学願を学長に提出し、各研究科委員会の議を経て学長の許可を得なければならない。

２　疾病が治癒して復学する者は、原則として休学開始時と同一の医師の診断書を提出し、学生・職員健康サポートセンターの医師の面談を受けなければならない。

3　疾病以外の理由で休学し復学する者は、その事由が解消された証明書又は理由書を添付しなければならない。

（転　学）

第 29 条　本大学院から他の大学院へ転学しようとする者は、所定の手続により、学長に願い出て許可を受けなければならない。

（退　学）

第 30 条　退学しようとする者は、その事由を付して、保証人連署のうえ、所定の様式により学長に願い出て、許可を受けなければならない。

2　前項の規定にかかわらず、学長は、学生が疾病その他の事由で成業の見込みがないと認めたときは、退学を命ずることができる。

（除　籍）

第 31 条　次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

⑴　学生納付金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

⑵　第６条に定める在学年限を超えた者

⑶　第 27 条第２項に定める休学の期間を超えてもなお修学できない者

⑷　長期間にわたり行方不明の者

⑸　死亡した者

第７章　専攻の変更

（変　更）

第 32 条　博士課程の専攻の変更は、原則として認めない。ただし、特別の事情がある場合は、学長が専攻の変更を許可することがある。

第 33 条　専攻を変更した後の在学すべき年限及び既修得単位の認定等については、当該学生の履修状況等を勘案して、学長が決定する。

2　前項により修業年限を変更された場合であっても、第６条第１項及び第２項に定める博士課程の在学年限を超えることができない。

第８章　表彰及び懲戒

（表　彰）

第 34 条　学長は、学業及び操行が優秀で他の学生の模範となる学生を表彰することができる。

（懲　戒）

第 35 条　学長は、学生が大学院学則その他の規程に違反し、若しくは秩序を乱し、又は学生の本分に反する行為があったときは、当該学生を懲戒することができる。

2　懲戒は、情状により戒告、停学及び退学とする。

3　前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

⑵　学業劣等で成業の見込みがないと認められる者

⑶　正当の理由なくして出席常でない者

⑷　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4　停学の期間は、在学年限に算入し、修業年限には算入しないものとする。ただし、停学期間が３か月未満の場合は、修業年限に算入することができる。

5　懲戒に関する手続きは、別に定める。

第９章　研究生、専攻生、聴講生、委託生及び外国人留学生

（研究生及び専攻生）

第 36 条　本大学院博士課程において、特定の課題について研究することを志願する者があるときは、大学院の教育研究に支障のない限り、選考のうえ、研究生及び専攻生として入学を許可することがある。

2　研究生及び専攻生を志願することのできる者は、大学（６年制の医学、歯学、獣医学又は薬学の課程）卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3　その他、研究生及び専攻生に関して必要な事項は、別に定める。

（聴講生）

第 37 条　特定の授業科目の聴講を願い出る者のあるときは、教育に支障がない限り、聴講生として入学を許可することがある。

2　その他、聴講生に関して必要な事項は、別に定める。

（委託生）

第 38 条　官庁又は公共団体等から１学期以上を在学期間とし、学修する授業科目を指定して教育の委託の願い出のあるときは、選考のうえ、委託生として入学を許可することがある。

2　その他、委託生に関して必要な事項は、別に定める。

（外国人留学生）

第 39 条　外国人で、大学において教育を受ける目的で入国し、本大学院に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可する。

2　その他、外国人留学生に関して必要な事項は、別に定める。

第 10 章　入学考査料及び学生納付金

（入学考査料及び学生納付金）

第 40 条　入学考査料及び学生納付金の額は、別表４のとおりとする。

2　学生納付金は、次の前期の所定の期日までに全納するか、又は次の２期の所定の期日までに等分して納入しなければならない。ただし、特別の事情がある場合には、期限を定めて納入の延期を認めることがある。

前期　　４月 30 日まで

後期　　10 月 31 日まで

3　停学の懲戒を受けた者に係る学生納付金は、停学期間中であってもこれを徴収する。

4　休学を許可された者に係る学生納付金は、事情により減免することがある。

５　前項の減免に当たっては、各研究科委員会の議を経て、学長が決定する。

６　学年の中途において退学し、転学し、又は退学を命ぜられた者であっても、当該年度の学生納付金を納めなければならない。

７　学生納付金の滞納者は、納入後でなければ単位認定のための試験を受けることができない。

（免除等）

第 41 条　学業優秀である者又は経済的理由によって納付が困難な者に対しては、学生納付金の一部又は全部を免除することがある。

２　再入学者の入学金は、免除することがある。

（研究生、専攻生、聴講生及び委託生の入学考査料及び学生納付金）

第 42 条　研究生、専攻生、聴講生及び委託生の入学考査料及び学生納付金の額は、別表５のとおりとする。

（授業料等の返還）

第 43 条　納付した入学考査料及び学生納付金は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学辞退を届け出た者については、入学金又はこれに相当する金額を除き授業料等を返還することがある。

（奨学生）

第 44 条　品行方正で学力優秀な学生で、他の学生の模範となると認められた学生を奨学生とすることがある。

２　奨学生に対しては、授業料の額の一部を給付するものとする。

３　その他、奨学生に関して必要な事項は、別に定める。

第 11 章　職員組織

（研究科長、専攻主任、教育職員等）

第 45 条　本大学院の研究科に、研究科長を置く。

２　医学研究科長は、医学研究科を統括する。

３　看護学研究科長は、看護学研究科を統括する。

４　研究科長は、学長がこれを兼ねることができる。

第 46 条　医学研究科及び看護学研究科の各専攻に、専攻主任を置く。

２　専攻主任は、当該専攻を統括する。

第 47 条　本大学院における授業及び研究指導は、東京医科大学大学院医学研究科教員選考基準の定めた研究指導教員、研究指導補助教員が行う。

２　本大学院における授業は、東京医科大学大学院医学研究科教員選考基準の定めた授業担当教員が行う。

（事務職員）

第 48 条　本大学院の事務を処理するため、事務職員若干名を置く。

第 12 章　運営組織

（研究科委員会）

第 49 条　医学研究科に、医学研究科委員会を置く。

2　医学研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり審議し、意見を述べるものとする。

⑴　大学院学則その他大学院に係る規程等の制定、改廃に関する事項

⑵　本大学院の組織の設置及び改廃に関する事項

⑶　入学、転学、退学、休学及び留学等学生の身分に関する事項

⑷　課程の修了及び学位の授与に関する事項

⑸　入学試験に関する事項

⑹　学生の試験及び評価に関する事項

⑺　教育課程の編成に関する事項

3　医学研究科委員会は、前項に規定するもののほか、教育研究に関する次に掲げる事項について審議し、学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

⑴　学生の表彰及び懲戒に関する事項

⑵　学生の厚生補導に関する事項

⑶　本大学院に係る教育職員の選出に関する事項

⑷　学生納付金の減免に関する事項

⑸　その他本大学院の教育・研究に関する学長の重要事項

4　その他医学研究科委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

第 49 条の２　看護学研究科に、看護学研究科委員会を置く。

2　看護学研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり審議し、意見を述べるものとする。

⑴　大学院学則その他大学院に係る規程等の制定、改廃に関する事項

⑵　本大学院の組織の設置及び改廃に関する事項

⑶　入学、転学、退学、休学及び留学等学生の身分に関する事項

⑷　課程の修了及び学位の授与に関する事項

⑸　入学試験に関する事項

⑹　学生の試験及び評価に関する事項

⑺　教育課程の編成に関する事項

3　看護学研究科委員会は、前項に規定するもののほか、教育研究に関する次に掲げる事項について審議し、学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

⑴　学生の表彰及び懲戒に関する事項

⑵　学生の厚生補導に関する事項

⑶　本大学院に係る教育職員の選出に関する事項

⑷　学生納付金の減免に関する事項

⑸　その他本大学院の教育・研究に関する学長の重要事項

４　その他看護学研究科委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

（委員会）

第 50 条　医学研究科委員会は、必要に応じて委員会を設けることができる。

２　看護学研究科委員会は、必要に応じて委員会を設けることができる。

３　医学研究科委員会及び看護学研究科委員会に置く委員会に関する事項は、別に定める。

第 13 章　研究指導施設

第 51 条　本大学院に、学生研究室及び演習・実験実習室を置く。

２　学部及び附属施設の施設は、必要に応じ本大学院の学生の研究及び指導のために用いる。

第 14 章　補　則

第 52 条　この学則に定めるもののほか、この学則の実施のために必要な規程等は、別に定める。

別表１（第９条関係）

教　育　課　程　表

医学研究科医科学専攻（修士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習
専門科目	医学特論Ⅰ（総論）	１前	1			○		
	医学特論Ⅱ（生命倫理）	１前	1			○		
	医学特論Ⅲ（医学英語）	１前	1			○		
	医学特論Ⅳ（医科学一般）	１前	0.5			○		
	基礎生命科学特論	１前	0.5			○		
	分子細胞生物学特論	１前	1			○		
	分子病態学特論	１前	1			○		
	生体機能医学特論Ⅰ（分子生理学）	１前	1			○		
	生体機能医学特論Ⅱ（分子病理学）	１前	1			○		
	生体機能医学特論Ⅲ（神経解剖学）	１後	1			○		
	生体機能医学特論Ⅳ（分子薬理学）	１前	1			○		
	生体機能医学特論Ⅴ（感染症学）	１前	1			○		
	生体機能医学特論Ⅵ（分子免疫学）	１前	1			○		
	医療データサイエンス特論	１後	1			○		
	医学会総会発表	１～２	1				○	
	生体病態医学特論Ⅰ（リウマチ膠原病・神経学）	１後		0.5		○		
	生体病態医学特論Ⅱ（法医学）	１後		0.5		○		
	生体病態医学特論Ⅲ（循環器病学）	１後		0.5		○		
	生体病態医学特論Ⅳ（呼吸器・甲状腺学）	１後		0.5		○		
	医療安全管理学特論	１後		0.5		○		
	医学教育学特論	１後		0.5		○		
	人体構造学特論	１後		0.5		○		
	学内医学講演会（４回以上）	１～２		0.5			○	
	医科学特別研究	１～２	15				○	
合計		—	29	4	0	—		

修了要件及び履修方法

30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

別表２の１（第９条第２項関係）

教　育　課　程　表

医学研究科医学専攻（博士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			備考
			必修	選択	講義	演習	実験実習	
専門科目	医学専攻 人体構造学	１～３	6		○	○		専門科目は１科目 20 単位以上取得
		１～３	14				○	
	組織・神経解剖学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	人体病理学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	分子病理学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	微生物学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	細胞生理学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	病態生理学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	生化学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	薬理学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	免疫学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	免疫制御学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	公衆衛生学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	健康増進スポーツ医学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	法医学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	医療の質・安全管理学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	医療データサイエンス	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	医学教育学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	血液内科学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	呼吸器内科学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	循環器内科学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	糖尿病・代謝・内分泌内科学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	リウマチ・膠原病内科学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	神経学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	消化器内科学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	消化器内視鏡学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	内科系	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	精神医学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	小児科・思春期科学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	
	皮膚科学	１～３	6		○	○		
		１～３	14				○	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験実習	備考
専門科目	医学専攻	放射線医学	1～3	6		○	○		専門科目は1科目20単位以上取得
			1～3	14				○	
		臨床検査医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		高齢総合医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		腎臓内科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		呼吸器・甲状腺外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		乳腺科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		心臓血管外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		消化器・小児外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		消化器外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		消化器外科・移植外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		整形外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		眼科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		泌尿器科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		産科婦人科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		麻酔科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		脳神経外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		口腔外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		形成外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		救急・災害医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		小計　（1科目）	—	20		—			
コースワーク		コースワーク講義・演習	1～3	3		○	○		コースワーク別研究発表及び講義、特別講義出席、医学会総会発表及び出席
		コースワーク実習	1～3	2				○	
		小計　（2科目）	—	5		—			
共通科目		ステップ1	1	1		○	○		講義
		ステップ2							
		国際発信のための論文執筆とプレゼンテーション	1～3	0.5		○	○		
		医学研究における法と倫理	1～3	1		○	○		
		医療データサイエンス	1～3	2		○	○		
		ｸﾞﾗﾝﾄ申請の書き方･研究資金の確保	1～3	0.5		○	○		
		アドバンストプログラム							
		研究推進人材育成プログラム	1～4		2	○	○		
		医療データサイエンス講究	1～4		2	○	○		
		小計　（7科目）	—	5	4	—			
合計　（10科目）			—	30	4	—			

修了要件及び履修方法
専門科目20単位以上、コースワーク5単位以上、共通科目5単位を修得し、計30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。 なお、アドバンストプログラムを履修した場合、当該科目の単位認定は可能であるが、修了要件に定める修了単位数には算入しないものとする。

別表２の２（第９条第３項関係）

教　育　課　程　表

（医学研究科博士課程）　　令和６年度入学者迄

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験実習	備考
専門科目	形態系専攻	人体構造学	１～３	6		○	○		専門科目は１科目 20 単位以上取得
			１～３	14				○	
		組織・神経解剖学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		人体病理学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		分子病理学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		微生物学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
	機能系専攻	細胞生理学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		病態生理学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		生化学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		薬理学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		免疫学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		免疫制御学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
	社会医学系専攻	公衆衛生学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		健康増進スポーツ医学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		法医学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		医療の質・安全管理学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		医療データサイエンス	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		医学教育学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
	内科系専攻	血液内科学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		呼吸器内科学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		循環器内科学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		糖尿病・代謝・内分泌内科学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		リウマチ・膠原病内科学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		神経学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		消化器内科学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		消化器内視鏡学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		内科系	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		精神医学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		小児科・思春期科学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	
		皮膚科学	１～３	6		○	○		
			１～３	14				○	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			備考
				必修	選択	講義	演習	実験実習	
専門科目	内科系専攻	放射線医学	1～3	6		○	○		専門科目は1科目20単位以上取得
			1～3	14				○	
		臨床検査医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		高齢総合医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		腎臓内科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
	外科系専攻	呼吸器・甲状腺外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		乳腺科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		心臓血管外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		消化器・小児外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		消化器外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		消化器外科・移植外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		整形外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		眼科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		泌尿器科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		産科婦人科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		麻酔科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		脳神経外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		口腔外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		形成外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		救急・災害医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
	社会人大学院・臨床研究系	血液内科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		呼吸器内科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		循環器内科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		糖尿病・代謝・内分泌内科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		リウマチ・膠原病内科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		神経学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数		授業形態			備考
				必修	選択	講義	演習	実験実習	
専門科目	社会人大学院・臨床研究系	消化器内科学	1～3	6		○	○		専門科目は1科目20単位以上取得
			1～3	14				○	
		消化器内視鏡学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		内科系	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		精神医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		小児科・思春期科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		皮膚科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		放射線医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		臨床検査医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		高齢総合医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		腎臓内科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		呼吸器・甲状腺外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		乳腺科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		心臓血管外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		消化器・小児外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		消化器外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		消化器外科・移植外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		整形外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		眼科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		泌尿器科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		産科婦人科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		麻酔科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		脳神経外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		口腔外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		形成外科学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		救急・災害医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験実習	備考
専門科目	社会人大学院・研究系	人体構造学	1～3	6		○	○		専門科目は1科目20単位以上取得
			1～3	14				○	
		組織・神経解剖学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		人体病理学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		分子病理学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		微生物学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		細胞生理学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		病態生理学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		生化学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		薬理学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		免疫学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		免疫制御学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		公衆衛生学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		健康増進スポーツ医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		法医学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		医療の質・安全管理学	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		医療データサイエンス	1～3	6		○	○		
			1～3	14				○	
		医学教育学	1～3	6		○			
			1～3	14				○	
		小計　（1科目）	—	20		—			
コースワーク		コースワーク講義・演習	1～3	3		○	○		コースワーク別研究発表及び講義、特別講義出席、医学会総会発表及び出席
		コースワーク実習	1～3	2				○	
		小計　（2科目）	—	5		—			
共通科目		ステップ1	1	1		○	○		講義
		ステップ2							
		国際発信のための論文執筆とプレゼンテーション	1～3	0.5		○	○		
		医学研究における法と倫理	1～3	1		○	○		
		医療データサイエンス	1～3	2		○	○		
		ｸﾞﾗﾝﾄ申請の書き方･研究資金の確保	1～3	0.5		○	○		
		アドバンストプログラム							
		研究推進人材育成プログラム	1～4		2	○	○		
		医療データサイエンス講究	1～4		2	○	○		
		小計　（7科目）	—	5	4	—			
合計　（10科目）			—	30	4	—			

修了要件及び履修方法

専門科目20単位以上、コースワーク5単位以上、共通科目5単位を修得し、計30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
なお、アドバンストプログラムを履修した場合、当該科目の単位認定は可能であるが、修了要件に定める修了単位数には算入しないものとする。

別表３（第９条第４項関係）　省　略

別表４　入学考査料及び学生納付金（第 40 条関係）

課程	専　攻　名	学年	入学考査料	学生納付金		計
				入学金	授業料	
修士課程	医科学専攻	—	10,000 円	—	—	—
		１年次	—	100,000 円	400,000 円	500,000 円
		２年次	—	—	400,000 円	400,000 円
	看護学専攻	—	35,000 円	—	—	—
		１年次	—	300,000 円	1,000,000 円	1,300,000 円
		２年次	—	—	1,000,000 円	1,000,000 円
博士課程	医学専攻		10,000 円	—	—	—
		１年次	—	100,000 円	400,000 円	500,000 円
		２年次	—	—	400,000 円	400,000 円
		３年次	—	—	400,000 円	400,000 円
		４年次	—	—	400,000 円	400,000 円
	形態系専攻、機能系専攻、社会医学系専攻、内科系専攻、外科系専攻、社会人大学院・臨床研究系専攻、社会人大学院・研究系専攻（令和６年度入学者迄）		10,000 円	—	—	—
		１年次	—	100,000 円	400,000 円	500,000 円
		２年次	—	—	400,000 円	400,000 円
		３年次	—	—	400,000 円	400,000 円
		４年次	—	—	400,000 円	400,000 円

備考１：看護学研究科修士課程看護学専攻において高度実践看護師コースは別途、実習費 100,000 円（年額）を徴収する。

備考２：医学研究科博士課程医学専攻において、アドバンストプログラムを履修する場合は、別途実習費（年額）を徴収する。

別表５　大学院の研究生、専攻生、聴講生及び委託生に係る入学考査料及び学生納付金（第 42 条関係）

区　分	入学考査料	学生納付金	
		入学金	授業料
研　究　生 専　攻　生	20,000 円	150,000 円	年額 300,000 円
聴　講　生	10,000 円	100,000 円	月額 20,000 円
委　託　生	10,000 円	100,000 円	月額 20,000 円

備考１：本学を卒業した者の研究生及び専攻生の入学金は、100,000 円とする。

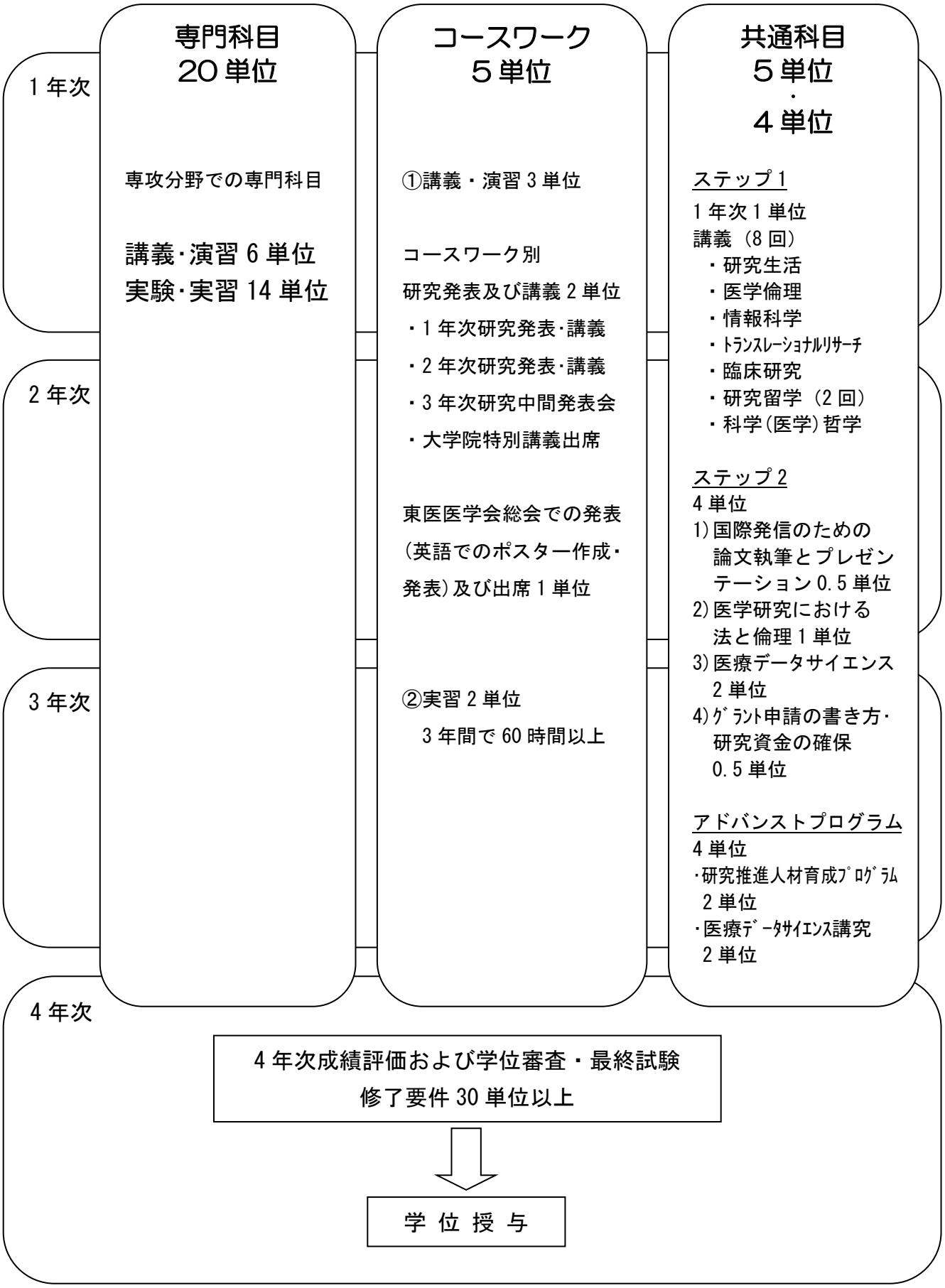
備考２：上記の学生納付金のほか、実習費として別途徴収することがある。

大学院医学研究科博士課程学科目および単位数

区分及び科目	必・選	単位数	学年	備考（コマ数、時間数、単位取得要件等）
専門科目		**20 単位**		
講義･演習（15 時間／単位）	必修	（6 単位）	1～3	○所属する講座の講義 ○45 コマ（1 コマ 90 分） ＝15 コマ/年×3 年 ≒1～2 コマ/月×12 カ月×3 年
実験･実習（30 時間／単位）	必修	（14 単位）	1～3	○所属する講座の実習 ○210 コマ（1 コマ 90 分） ＝70 コマ/年×3 年 ≒6 コマ/月×12 カ月×3 年
コースワーク		**5 単位**		
講義・演習	必修	（2 単位）	1～3	○コースワーク別講義･演習および研究発表（3 コマ／3 年間） 3 回以上の出席、うち 2 回以上の発表 1 学年：研究課題の発表（1～2 コマ） 2 学年：研究の進捗状況（1～2 コマ） 3 学年：研究の中間発表（1～2 コマ） ○コースワーク別大学院特別講義の出席（12 コマ／3 年間）
		（1 単位）	1～3	○東医医学会総会におけるコースワーク別研究発表および出席 3 年間で 3 回以上の出席、1 回以上の発表（筆頭演者・英語でのポスター作成・発表）
実習	必修	（2 単位）	1～3	○コースワーク別実習 ○3 年間で 30 コマの実習　　例）5 コマ/日×6 日
共通科目		**5 単位**		
ステップ 1	必修	（1 単位）	1	○原則 1 年次 ○8 コマ ・研究生活（1 コマ） ・医学倫理（1 コマ） ・情報科学（1 コマ） ・トランスレーショナルリサーチ（1 コマ） ・臨床研究（1 コマ） ・研究留学（2 コマ） ・科学（医学）哲学（1 コマ）
ステップ 2		4 単位		
国際発信のための論文執筆とプレゼンテーション	必修	（0.5 単位）	1～3	○教育要項参照 ○5 コマ
医学研究における法と倫理	必修	（1 単位）	1～3	○教育要項参照 ○8 コマ
医療データサイエンス	必修	（2 単位）	1～3	○教育要項参照 ○15 コマ
グラント申請の書き方・研究資金の確保	必修	（0.5 単位）	1～3	○教育要項参照 ○5 コマ
共通科目（アドバンストプログラム）		**4 単位**		履修者のみ
研究推進人材育成プログラム	選択	（2 単位）		
医療データサイエンス講究	選択	（2 単位）		
合計		**30 単位以上**		

◇講義・演習　1 単位＝15～30 時間
◇実験・実習　1 単位＝30～45 時間

大学院医学研究科博士課程履修系統図



研究指導計画に基づく学位審査までの流れ

１年次

入学時にコースワーク（①～⑥）の領域の決定
研究指導教員の指導のもとで研究テーマを決定し、
研究計画を立案「博士課程ポートフォリオ」

⬇

研究開始

⬇

コースワーク全大会にて「研究課題」（研究背景、方法を含む）を発表
研究継続

⬇

進捗状況「博士課程ポートフォリオ」を総合事務センターに提出

２－３年次

研究計画の修正等「博士課程ポートフォリオ」

⬇

コースワーク全大会にて「中間報告」（進捗状況）を発表（1 回以上）

⬇

研究継続

⬇

進捗状況「博士課程ポートフォリオ」を総合事務センターに提出

４年次

研究計画の最終調整「博士課程ポートフォリオ」

⬇

研究成果を東京医科大学医学会総会でポスター発表
（英語での抄録作成、ポスター作成・発表）（発表証明書取得）

⬇

学位論文作成

⬇

学位論文の「学術誌」への受理かつ所定科目 30 単位以上の履修を以て
学位申請資格を得る

大学院医学研究科博士課程単位履修要項

1．大学院学則に定めるもののほか、学則、単位数、履修の方法等については、次の各項によるものとする。

2．学科目、単位数等は、大学院学則のとおりとする。

3．学生は所定の期間以上在学し、大学院学則 13 条 2 項により 30 単位以上履修するものとする。

⑴　専門科目　　20 単位以上

⑵　コースワーク　　5 単位以上

⑶　共通科目　　5 単位

4．学生はその在学期間中に、それぞれの専攻において定められた学科目につき、所定の単位を履修し、且つ学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

申請できる博士論文は、次に掲げるものとする。

※　原著論文

※　掲載公表されたもの（未公表のものは掲載証明を要する。）

※　原著論文は原則として英文で記載され、査読のある定期刊行雑誌に掲載のもので、論文筆頭者であるもの。（ただし、第2著者が第1著者と同等の貢献をしたと認められる論文の場合は、申請前に研究科委員会で審査するものとする。）

※　公表後3年以内のもの（4年以上経過している場合、研究科委員会での審議を要する。）

⑴　所定の期間内に所定の単位を取得できない､あるいは所定の期間内に学位論文等の提出がなければ留年となる。

⑵　ただし、4 年目に論文を投稿して 5 年目に受理されれば、所定の手続きにより 5 年目の授業料を免除することができる。

5．専門科目を履修しようとするときは、主任教授および指導教員の許可を得なければならない。所定の期間内に 20 単位以上を取得する。専門科目では専攻した分野で専門領域を深く学ぶ。診断・治療法、手術（見学を含む)、実験技術・解析法、現地調査、剖検（見学を含む）等を実習とする。

講義・演習　　6 単位以上

実験・実習　　14 単位以上

6．コースワークを履修しようとするときは、主任教授および担当教員の許可を得なければならない。所定の期間内に 5 単位以上を取得する。

学生が幅広い知識・技術を体系的に理解・修得できるように、研究領域を単位として 6 つのコースワークを設ける。各コースワークで講義・演習および実習を行う。指導教員の指導のもと、学生は①神経系②生体防御系③腫瘍系④器官系機能解析⑤分子・細胞機能解析⑥社会・情報・教育系のいずれかのコースワークを入学時に選択する。研究の進捗状況により、専攻外のコースワークの受講も単位として認める。各コースに所属する分野は以下のとおりである。

①　神経系コースワーク

組織・神経解剖学、薬理学、神経学、高齢総合医学、精神医学、小児科・思春期科学

② 生体防御系コースワーク

微生物学、免疫学、皮膚科学、救急・災害医学、免疫制御学、臨床感染症学

③ 腫瘍系コースワーク

人体病理学、分子病理学、血液内科学、消化器内科学、消化器内視鏡学、放射線医学、泌尿器科学、産科婦人科学、脳神経外科学、呼吸器・甲状腺外科学、乳腺科学、消化器・小児外科学、消化器外科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、医学総合研究所〔分子腫瘍研究部門〕

④ 器官系機能解析コースワーク

人体構造学、健康増進スポーツ医学、呼吸器内科学、循環器内科学、糖尿病・代謝・内分泌内科学、リウマチ・膠原病内科学、腎臓内科学、心臓血管外科学、消化器外科・移植外科学、整形外科学、眼科学、口腔外科学、形成外科学、消化器内科〔茨城医療センター〕

⑤ 分子・細胞機能解析コースワーク

細胞生理学、病態生理学、生化学、臨床検査医学、麻酔科学

⑥ 社会・情報・教育系コースワーク

公衆衛生学、法医学、医療の質・安全管理学、医療データサイエンス

⑴ 講義・演習　3 単位

学生は専攻するコースワーク別の研究発表・講義および大学院特別講義を 1 年次から 3 年次の各学年で履修し 2 単位を取得する。原則として 1 年次に研究計画（目的・研究背景・方法を含む）の発表、2・3 年時に研究中間報告：進捗状況の発表（計 2 回以上）を行うこととする。

また、東京医科大学医学会総会に 3 年間で 3 回以上出席し、4 年次に研究成果を英語でポスター作成・発表を行う。本学医学会総会は毎年 6 月と 11 月の年 2 回開催、詳細は大学 HP で確認してください。

⑵ 実習　2 単位

学生は専攻するコースワークにおいて所定期間内に 60 時間以上の実習を行い、2 単位を取得する。

7．共通科目では、所定の期間内に以下のものを履修し 5 単位を取得する。研究の推進に必要不可欠な事柄をステップ 1（入門コース）およびステップ 2（発展コース）に分けて、段階的に履修する。

共通科目の一部をより高度で実践的な内容へと発展させたアドバンストプログラムは選択科目であるとともに、修了単位数には参入されない。

⑴ ステップ 1　1 年次履修講義 8 回　1 単位

研究生活／医学倫理／情報科学／トランスレーショナルリサーチ／臨床研究／
研究留学（2 回）／科学（医学）哲学

⑵ ステップ 2　4 単位

1）国際発信のための論文執筆とプレゼンテーション（5 回）　0.5 単位
2）医学研究における法と倫理（8 回）　1 単位
3）医療データサイエンス（15 回）　2 単位
4）グラント申請の書き方・研究資金の確保（5 回）　0.5 単位

⑶ アドバンストプログラム　4 単位 ※修了要件外の選択科目

研究推進人材育成プログラム　2 単位
医療データサイエンス講究　2 単位

８．科目履修の方法は毎学年の初めに、当該学年内に履修しようとする専門科目を、指導主任教授の指示を受け、所定の用紙（e ポートフォリオ-履修届）により研究科長に届け出なければならない。

９．単位取得の認定は指導主任教授が行い、所定の様式（e ポートフォリオ）により各学年末に研究科長に報告するものとする。

10. 授業科目の単位数は講義・演習は 1 単位 15～30 時間、実験・実習は 1 単位 30～45 時間とする。

11. 医学研究科においては 4 年以上在学し、所定の学科目を履修し、且つ学位論文審査等、最終試験に合格した者には、学位を授与する。ただし、標準修業年限は優れた研究業績を上げた者で、所定の要件を満たした場合は、3 年以上とすることができる。

12. この他については、大学院医学研究科委員会において協議決定する。

※　社会人大学院・臨床研究系及び社会人大学院・研究系は大学院設置基準第 14 条による教育方法の特例に基づき、「昼夜開講制」を導入しています。

＜大学院医学研究科 HP＞

http://www.tokyo-med.ac.jp/graduate/

※　HP では、各種お知らせ、講義変更など情報を発信いたしますので、定期的に確認するようにしてください。

東京医科大学大学院医学研究科
総合事務センター大学院グループ
〒160-8402　東京都新宿区新宿 6-1-1
03-3351-6141（代）内線 705･708
ds-dgi@tokyo-med.ac.jp

学　位　論　文　申　請

①　学位論文の審査ついて

１．第１次審査において、医学研究科委員会構成委員の報告により申請資格等について審議する。論文を受理する者に対しては、審査委員推薦委員会で推薦された審査委員として主査 1 名及び副査２名を医学研究科委員会で決定する。

２．審査委員会（主査１名・副査２名）は公開制とし、論文提出者の出席を求め、さらに必要があれば、参考資料の供覧、指導者の出席を求める。

３．審査委員会終了後、主査は学位論文審査要旨（1000 字以内）及び試験の結果の要旨を作成する。

４．主査は研究科委員会において質問等に対する回答を含め論文審査要旨（1000 字以内）および最終試験の結果を報告し、審議のうえ、学位を授与すべきか否かを議決する。

②　学位論文申請から学位授与まで

１．月毎の締め切り：原則として第１水曜日、正午。
その日が休日等で受け付けできない場合はその前日とします。（本学入学試験日は受付できませんので注意してください。）

※　受付場所：総合事務センター大学院グループ（東京都新宿区新宿 6-1-1）

※　受付時間：平　日　午前９時から午後３時まで
土曜日　午前９時から午前 11 時まで（第 2、4 土曜日は受付できません）

２．第１水曜日までに受け付けた申請書をもとに、第３水曜日の大学院医学研究科委員会で一次審査を行います。

３．一次審査に合格すれば、翌月の第４水曜日に公開審査会で発表し、主査１名、副査２名の３名からなる審査委員の審査を受けることになります。

４．審査基準は以下の通りです。

博士論文審査基準：

⑴　学術誌（東京医科大学雑誌を含む）に投稿され、ピアレビューによる審査を経て受理された「原著論文」であり、原則として英文で記載されたものであること。

⑵　研究テーマの背景・目的を十分に理解し、かつ、明確に説明できること。

⑶　研究方法をよく理解し、わかりやすく説明できること。

⑷　研究結果を論理的に考察し、科学的に結論に結び付けることができること。

⑸　当該研究に自ら計画し、主体的に取り組んだか。

⑹　専攻分野・関連領域に関する十分な知識を有すること。

⑺　論理的に思考し、質疑応答に対応する能力があること。

⑻　倫理的配慮がなされていること（①研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること②学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること）。

５．公開審査会の翌月第３水曜日の大学院医学研究科委員会において、二次審査に合格すれば学位取得となります。

６．学位授与は二次審査が行われた翌月第３水曜日の定例教授会の場で行います。

毎　月　第１水曜日　までに提出（総合事務センター大学院グループ）

↓

当該月　第３水曜日　１次審査（大学院医学研究科委員会：受理）

↓

翌　月　第４水曜日　公開審査（論文発表）

場　　所：Zoom でのオンライン開催

時　　間：13：30～（予定）

↓　　所要時間：30 分（発表 15 分間、質疑 15 分間）

※発表は Windows PowerPoint で実施。

公開審査会前日までにデータを提出。

翌　月　第３水曜日　２次審査（大学院医学研究科委員会：学位授与）

↓

翌　月　第３水曜日　学位記授与式（大学病院：13：30～）

※申請月により日程が変わりますので、申請者は総合事務センター大学院グループで確認してください。

③　審査手数料等

	申請手数料	予備調査料	審査料	要旨公表料	合　　計
大学院生				20,000 円	20,000 円

※要旨公表料：論文内容の要旨および論文審査結果の要旨公表料

○ 加入保険

学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険（入学時に加入しています）

１．学生教育研究災害傷害保険普通保険

○学生教育研究災害傷害保険は、学生が教育研究活動中に被った災害に対して必要な給付を行い、大学の教育研究活動の充実・発展に寄与することを趣旨として、昭和 51 年度から始められた災害補償制度です。

※詳細は以下の URL を参照してください。

http://www.jees.or.jp/gakkensai/index.htm

２．学研災付帯賠償責任保険

○学生教育研究災害傷害保険加入者は、学研災付帯賠償責任保険に加入することができます。この賠償責任保険は、国内外において、学生が正課、学校行事およびその往復中で、他人にケガを負わせたり、他人の財物を損壊したりしたことにより被る法律上の損害賠償を補償します。

※詳細は以下のＵＲＬを参照してください。

http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-baisho.htm

※上記の事故等が発生した場合は総合事務センター大学院グループに連絡してください。

連絡先：〒160-8402 東京都新宿区新宿 6-1-1　03-3351-6141㈹ 内線 705･708

東京医科大学 総合事務センター 大学院グループ

○ アルバイト

１．アルバイト及び当直等について

⑴ 一般大学院（形態系、機能系、社会医学系、内科系、外科系）の大学院生のアルバイト等は就学に支障のないように注意してください。

⑵ 社会人大学院・臨床研究系及び研究系の学生の就業及び制限等は、勤務する病院等の就業規則を遵守してください。

○ 大学院医学研究科 WEB サイト

https://www.tokyo-med.ac.jp/graduate/

○ e 自主自学　大学院医学研究科掲示板（要ログイン）

https://cms.tokyo-med.ac.jp/course/view.php?id=2569

○ 学生メンタルサポート

＜学生・職員健康サポートセンター＞

学生生活で困難感を感じられた時に、公認心理師・臨床心理士の資格を有するコンシェルジュが相談に応じます（原則として予約制）。相談内容の秘密は厳守されます。

学生・職員健康サポートセンター

センター長　精神保健指定医　　市来　真彦

健サポコンシェルジュ　　辻　孝弘、水戸部　賀津子、月岡　寛子

（月曜日～金曜日、第１・３・５土曜日）

【場所】

・大学キャンパス：基礎新館２階　学生・職員健康サポートセンター

・病院キャンパス：教育研究棟（自主自学館）４階　視聴覚オペレーター室

【申し込み方法】

・e-mail：d-kenkou@tokyo-med.ac.jp

・QR コード

・電話：03-3351-6141 ㈹ 内線 463、465、306

※　詳細はホームページをご参照ください。

※　お問い合わせは、学生・職員健康サポートセンター、総合事務センターまで。

○ 各種奨学金

・日本学生支援機構奨学金（4 月中旬頃の予定）

・東京医科大学大学院奨学生

・その他の奨学金（募集があり次第）

※e 自主自学 大学院医学研究科博士課程掲示板に掲出しますので確認してください。

○ 証明書発行について

大学記念館地下１階または教育研究棟（自主自学館）５階の「証明書発行機」により申請してください。稼働時間は平日 8：30～17：30、土曜日 8：30～13：00 です。ただし、第２・４土曜日、日祝祭日は使用できません。

問合せ先

〒160-8402 東京都新宿区新宿 6-1-1

東京医科大学総合事務センター

大学院グループ

03-3351-6141（代）内線 705･708

ds-dgi@tokyo-med.ac.jp

- 共通科目
  - ステップ１
  - ステップ２
    - 国際発信のための論文執筆とプレゼンテーション
    - 医学研究における法と倫理
    - 医療データサイエンス
    - グラント申請の書き方・研究資金の確保
  - アドバンストプログラム
    - 研究推進人材育成プログラム
    - 医療データサイエンス講究

共通科目 ステップ１およびステップ２

学　　期：前期　　単位数：1 単位　　水曜日

代　　表：研究科長　横山 詩子（細胞生理学分野　主任教授）

担当教員：日程表参照

場　　所：講義は全て「e-自主自学」上でオンデマンド配信されます。
原則的に講義日程から１週間以内を目安に受講してください。
各講義視聴後に確認問題の解答またはレポートを提出することで「出席」となります。

ｵﾌｨｽｱﾜｰ：横山詩子研究科長　専門科目参照
黒田雅彦主任教授　専門科目参照
井上 弘樹 准教授　メールにて日時を調整（e 自主自学参照、メッセージ機能も利用可）
杉本昌弘兼任教授　まずメールで連絡　mshrsgmt@tokyo-med.ac.jp
伊藤 良和 教授　まずメールで連絡　yito@tokyo-med.ac.jp
病院 臨床研究支援センター／国際ビル 2 階 研究推進センター
髙橋宗春主任教授　専門科目参照
金蔵孝介主任教授　専門科目参照
諏訪内浩紹准教授　専門科目参照
西 研 客員教授　まずメールで連絡　nishiken@tokyo-med.ac.jp

１．目的と概要

共通科目のステップⅠでは、研究をスタートするに当たって必要とされる事項（サイエンスの精神、医学哲学、医学倫理、研究留学、情報科学、トランスレーショナルリサーチ、臨床研究などの概要）を学ぶ。ステップⅡでは、自立した研究者に必要とされるより実践的な事項（医学統計、英語による論文執筆・出版倫理知識・プレゼンテーションスキル、グラント申請、知財など）を習得させることによって、新たな研究分野を開発・推進できる人材を育成する。

２．学習目標・到達目標

ステップ１

・基礎的なサイエンスの精神と医学研究の関係を説明できる
・医学・医療の潮流を説明できる
・科学の記述する世界が、体験世界からいかにして成り立つかを説明できる
・医学倫理の概要を説明できる
・トランスレーショナルリサーチおよび臨床研究の概要を説明できる
・研究留学

ステップ２

・医学統計を理解し、実践できる

・医学英語論文の執筆方法、出版倫理を理解する。英語でプレゼンテーションができる

・グラントの申請を理解し、実践できる

・知財を説明できる

３．準備学習（予習・復習）

予習：参考書、文献などを用いて講義内容の概要を理解しておくこと。

復習：講義および討論の内容について深く考察し、レポートに纏める等によって、理解を確実なものにすること。

４．教科書・参考書など

教科書：なし

参考書：クロード・ベルナール、『実験医学序説』、岩波書店、1986 年

二宮陸雄、『インスリン物語』、医歯薬出版株式会社、2002 年

５．評　価

「確認問題」解答、受講態度、およびレポート提出などによって評価する。

６．フィードバック

「確認問題」の模範解答の掲示を以ってフィードバックとする。

７．ステップ１講義予定表

回	月　日	演題（講義内容）	キーワード・講義内容	講師名・職名 ・所属機関等
1	4月8日	ゼロから始める研究生活	研究で出会う新しい視点と広がる世界	横山　詩子　研究科長
2	4月15日	医学研究倫理の過去と現在	研究倫理の成立過程 医学研究倫理の要点	人間学 井上　弘樹　准教授
3	4月22日	情報科学入門	データサイエンス 人工知能	医学総合研究所 低侵襲医療開発総合センター 杉本　昌弘　兼任教授

4	5月13日	トランスレーショナルリサーチ	医薬品開発 基礎から臨床へ	分子病理学 黒田 雅彦 主任教授
5	5月20日	臨床研究	臨床研究の方法 臨床研究の倫理 臨床研究法	臨床研究支援センター 伊藤 良和 教授
6	5月27日	世界を広げる!留学のすゝめ	研究留学体験記 研究留学のメリット・ デメリット	組織・神経解剖学 髙橋 宗春 主任教授 薬理学 金蔵 孝介 主任教授
7	6月3日	アメリカ医学留学成功の鍵	アメリカ医学留学の概要と準備 アメリカの医療システムと文化 研究活動とキャリアパス 実際の留学体験談とアドバイス	糖尿病・代謝・内分泌内科学 諏訪内 浩紹 准教授
8	6月10日	科学の世界と体験の世界	現象学 体験反省的エビデンス	人間学 西　研 客員教授

国際発信のための論文執筆とプレゼンテーション

学　　期：前期　　単位数：0.5 単位　水曜日

担　　当：小島 多香子 教授、ポピエル ヘレナ明子 講師

ｵﾌｨｽｱﾜｰ：小島 多香子 教授　事前にアポイントが必要。教育研究棟 4 階
国際教育研究センター。内線：6084, tkojima@tokyo-med.ac.jp

ｵﾌｨｽｱﾜｰ：ポピエル ヘレナ明子 講師　事前にアポイントが必要。
国際教育研究センター。内線：6085, popiel@tokyo-med.ac.jp

１．目的と概要

医学英語論文の執筆方法、出版倫理を理解する。英語でプレゼンテーションができる。

２．学習目標

⑴ 一般目標（GIO）

① 英語による医学論文の書き方を修得する。
② 英語による口頭発表および講演の方法を修得する。
③ 出版倫理の知識を修得する。

⑵ 行動目標（SBOs）

① Gain the basic knowledge necessary to begin writing a paper in the English language.
② Learn the fundamentals of preparing graphics.
③ Understand the ethical responsibilities of the author.
④ To become familiar with how to give oral and poster presentations.

３．準備学習（予習・復習）

講義内で学修した内容を見直すこと。講義内容でわからなかったことを復習し、質問する。

４．教科書・参考書など

なし

５．評　価

評価は動画視聴後の確認テストにより行う。

確認テストは、複数回受験しても、１回目の点数が採点対象になる。

出席認定基準は、すべての動画の最後までの視聴、確認テスト受験（幾つかある場合があります）の２つを要件とする。出席率が 2/3 以上の者が、最終評価の対象になる。

６．フィードバック

フィードバックなどは e 自主自学で行う。

７．講義予定表

回	月　日	演題	講義内容	講 師 名
1	6月17日	Writing an effective manuscript I	Understanding the basic structure of a medical/research manuscript, and general points for preparing to write a manuscript	国際教育研究センター ポピエル　ヘレナ明子 講師
2	6月24日	Writing an effective manuscript II	General points for writing an effective medical/research manuscript, including verb tenses and writing precisely and concisely	国際教育研究センター ポピエル　ヘレナ明子 講師
3	7月1日	Preparing and giving oral presentations I	General points for preparing and giving an effective medical/research presentation in English, and examples of good and bad slides	国際教育研究センター ポピエル　ヘレナ明子 講師
4	7月8日	Preparing and giving oral presentations II	Useful English phrases for oral presentations, effective presentation delivery, and responding to questions in English	国際教育研究センター ポピエル　ヘレナ明子 講師
5	7月15日	Publication Ethics: Important Issues in Medical Publication Policy	Issues in publication ethics, focusing on authorship, duplicate publication, plagiarism, conflicts of interest, and handling of unethical publishing	国際教育研究センター 小島　多香子 教授

医学研究における法と倫理

学　　期：前期・後期　　単位数：1 単位　　水曜日

担　　当：倉田 誠 教授（人間学）

伊藤 良和 教授（臨床研究支援センター）

蒔田 覚 弁護士（蒔田法律事務所）

石橋 英俊 准教授（疾患モデル研究センター）

角田 政芳 教授（東海大学総合社会科学研究所）

稲垣 夏子 教授（遺伝子診療センター）

ｵﾌｨｽｱﾜｰ：各講義終了後に講義担当者と日程等を相談する。

１．概要

① 医学研究における法と倫理について､被験者の人権尊重および動物の福祉を最優先するという基本理念のもと、上記の学習目標が達成できるよう各回講義の内容を理解する。

② 具体的な事例等の解説を含めた講義となる。

③ 実際に研究審査等に関わっている専門家による講義となる。

２．学習目標

⑴ 一般目標（GIO）

医学研究に関わる倫理原則や指針・法令等を正しく理解し、研究を実施するうえで必須となる研究倫理を修得する。また、倫理的な感受性や思考を身につけることで、研究の社会的意義や被験者等の人権を十分に考慮し、自ら研究を計画・遂行できるようになる。

⑵ 行動目標（SBOs）

① 医学研究の倫理審査制度について説明できる。

② 治験及び臨床研究法について説明できる。

③ 医学研究における利益相反や、研究発表における法と倫理について説明できる。

④ 動物実験・組換え DNA 実験における法と倫理を説明できる。

⑤ ヒトゲノム・遺伝子解析研究における法と倫理を説明できる。

⑥ 医学研究における知的財産権について説明できる。

⑦ 医学研究における被験者保護と被害救済について説明できる。

３．準備学習（予習・復習）

予習：事前に e 自主自学にアクセスし、学習内容と資料を確認してください。

復習：授業で提示された資料等を再確認し、eAPRIN の該当単元を必ず履修してください。

４．教科書・参考書など

教科書：なし

参考書：田代志門、『研究倫理とは何か　臨床医学研究と生命倫理』、勁草書房、2011 年
神里彩子・武藤香織編、『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』、東京大学出版会、2015 年
井上悠輔・一家綱邦編著、『医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ』、日本評論社、2018 年
薬事日報社編『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ハンドブック』、薬事日報社、2021 年

５．評　価

講義内で指示する「APRIN e ラーニングプログラム（旧 CITI Japan PROGRAM)」受講科目の単位（１５単元）をすべて修了していることが本講義の単位取得の条件となる。

提出されたレポートの内容により評価する。

６．フィードバック

e 自主自学を通して行います。

７．講義予定表

回	月　日	演題（講義内容）	キーワード	講師名・職名 ・所属機関名
1	7月22日	研究倫理審査制度	ヘルシンキ宣言 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 コンプライアンス	人間学 倉田 誠 教授
2	7月29日	利益相反と医学研究	資金源 バイアス コンプライアンス	人間学 倉田 誠 教授
3	9月2日	治験及び臨床研究法	GCP 治験審査委員会 研究のコンプライアンス	臨床研究支援センター 伊藤 良和 教授
4	9月9日	研究発表における法と倫理	論文投稿 不正行為 コンプライアンス	人間学 倉田 誠 教授
5	9月16日	被験者保護と被害救済	研究計画書／説明・同意／社会的弱者保護 被験者情報管理 法的責任／医薬品副作用 被害救済制度・補償措置	蒔田法律事務所 蒔田 覚 弁護士
6	9月30日	動物実験・組換え DNA 実験における法と倫理	実験審査制度 カルタヘナ法 3R	疾患モデル研究センター 石橋 英俊 准教授
7	10月7日	知的財産権と医学研究	特許 帰属先 著作権 コンプライアンス	東海大学総合社会学科学研究所 弁護士 角田 政芳 教授
8	10月14日	ヒトゲノム・遺伝子解析研究における法と倫理	遺伝（個人）情報の保護 遺伝カウンセリング	遺伝子診療センター 稲垣 夏子 教授

医療データサイエンス

学　　期：後期　　単位数：2 単位　水曜日

担　　当：田栗 正隆 主任教授、原田 和治 講師、折原 隼一郎 講師

ｵﾌｨｽｱﾜｰ：専門科目　医療データサイエンス参照

１．概　要

講義と演習により進める。自立した研究者に必要とされる実践的な事項を習得させることによって、新たな研究分野を開発・推進できる人材を育成する。

２．学習目標

⑴ 一般目標（GIO）

① 医学論文を読む上で不可欠である臨床研究のデザイン、解析方法を理解する。
② 統計解析ソフトウェアを用いてデータ解析を行い適切な解釈ができるようになる。
③ 医療データサイエンス分野の最新手法の概要とその適用場面を理解する。

⑵ 行動目標（SBOs）

① 臨床試験と観察研究の代表的な研究デザインについて説明できる。
② ランダム化臨床研究の注意点について説明できる。
③ 連続データについて適切な統計手法を選択・実行し、結果を解釈できる。
④ 2 値データについて適切な統計手法を選択・実行し、結果を解釈できる。
⑤ 生存時間について適切な統計手法を選択・実行し、結果を解釈できる。
⑥ 回帰分析を学び、交絡因子の制御法について理解する。

３．準備学習（予習・復習）

予習：統計解析ソフト SPSS を使用する。あらかじめ所属を通じて SPSS の利用申請を行い、SPSS インストール済のパソコンを使用すること。（約 30 分）

復習：「e 自主自学」にて授業資料などの復習をする。また、必ず、授業で行った解析は、次回の授業までに一人で出来るようにしておくこと。（約 30 分）

４．教科書・参考書など

教科書：なし

参考書：福原俊一、『臨床研究の道標　第 2 版（上・下巻）』、健康医療評価研究機構、2017 年

５．評　価

講義時に課す課題に対する取り組み方と提出内容により評価する。

６．フィードバック

講義時に適宜解説を行う。

７．講義予定表

回	月 日	講 義 内 容	キーワード	講師名・職名
1	10月21日	臨床試験のデザイン１	医薬品の製造過程、臨床試験の相、臨床試験における研究不正の問題と倫理	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
2	10月28日	臨床試験のデザイン２	評価項目、ランダム化、盲検化、層別化、最小化法、臨床試験の報告	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
3	11月4日	観察研究のデザイン	断面研究、コホート研究、ケースコントロール研究、リスク差、リスク比、オッズ比等	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
4	11月11日	観察研究で注意すべきバイアス	内部妥当性、外部妥当性、交絡、選択バイアス、情報バイアス等	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
5	11月18日	統計学入門	統計学の体系、推定（点推定・区間推定）、検定等	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
6	11月25日	連続データの解析	変数の型、データの可視化、相関係数、t 検定、Wilcoxon 検定等	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
7	12月2日	連続データの解析実習	変数の型、データの可視化、相関係数、t 検定、Wilcoxon 検定等	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
8	12月9日	2 値データの解析、回帰分析	分割表、カイ二乗検定、回帰分析、ロジスティック回帰分析等	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
9	12月16日	2 値データの解析、回帰実習	生存曲線、ログランク検定、Cox 比例ハザードモデル等	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
10	12月23日	生存時間解析	ロジスティック回帰分析	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
11	1月6日	生存時間解析実習	生存曲線、ログランク検定、Cox 比例ハザードモデル等に関する実習	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 田栗主任教授
12	1月13日	医療分野におけるデータサイエンスの活用１	医療データサイエンスの新規手法の活用と事例	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 原田和治講師 折原隼一郎講師
13	1月20日	医療分野におけるデータサイエンスの活用２	医療データサイエンスの新規手法の活用と事例	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 原田和治講師 折原隼一郎講師
14	1月27日	医療分野におけるデータサイエンスの活用３	医療データサイエンスの新規手法の活用と事例	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 原田和治講師 折原隼一郎講師
15	2月3日	医療分野におけるデータサイエンスの活用４	医療データサイエンスの新規手法の活用と事例	医療ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ 原田和治講師 折原隼一郎講師

グラント申請の書き方・研究資金の確保

学　　期：後期　　単位数：0.5 単位
担当分野：医学総合研究所
担当教員：稲津 正人 教授
ｵﾌｨｽｱﾜｰ：平日 9:00～18:00

１．目　的

大学院卒業後、自立した研究者となるためには、研究の立案、実際のスキル、論文作成などに加え、研究費を獲得することも必須のアイテムであろう。本講では我が国における公的資金を中心とした外部研究資金の概要を学ぶ。さらに、医科学研究の推進の際に必要となる利益相反、知財などのマネージメントについての知識を得ることにより、社会的規範に即した研究資金の獲得が行えるようにする。

２．概　要

科研費、厚労科研、AMED、JST の種々の研究費など公的資金を中心とした外部研究資金のあらましを理解する。その後、これらの資金獲得の際に必要な知的財産権、利益相反などを理解することにより、現在社会に希求されるより良い申請を行えるようにする。

３．学習目標・到達目標

① 科研費、厚労科研、JST の種々の研究費のあらましを理解する。
② e-Rad について理解する。
③ 知財と利益相反などの外部機関との共同研究際に留意･マネージメントするべき事項について理解する。
④ 各人の条件に合わせ、科研費萌芽研究、若手、もしくは基盤Ｃの申請書を作成する。

４．準備学習（予習・復習）

① 科研費、厚労科研、JST のホームページを検索する。
② e-Rad とは何であるかを調べる。
③ 本校の利益相反などの規定を検索する。
④ 大学院におけるテーマを科研費萌芽研究､若手もしくは基盤Ｃの申請書に即し記入する。

５．教科書・参考書など

なし

６．評　価

上記により作成した科研費申請書を評価する。

７．講義予定表

回	月　日	演題（講義内容）	キーワード	講師名・職名 ・所属機関等
1	2月10日	研究費獲得の必要性の総論	科研費、厚労科研、JST などの公的研究費の概要を理解する。公的資金、科研費、e-Rad	医学総合研究所 稲津 正人 教授
2	2月17日	知財マネージメントからの外部資金獲得	知的財産権、産学連携、JST、特許申請	医学総合研究所 稲津 正人 教授
3	2月24日	利益相反、企業サイドからの外部資金獲得	利益相反マネージメント、AMED	医学総合研究所 稲津 正人 教授
4	3月3日	科研費申請書に関する各論１	科研費の各種目、 応募要項	医学総合研究所 稲津 正人 教授
5	3月10日	科研費申請書に関する各論２	申請書作成のコツ	医学総合研究所 稲津 正人 教授

共通科目　アドバンストプログラム

アドバンストプログラムとは？

本プログラムは、博士課程共通科目を基盤とし、より高度で実践的な学びへとステップアップできる教育プログラムです。博士課程に在籍する大学院生であれば学年を問わず、各自の研究計画に合わせて柔軟に履修できる**自由選択科目**です。

「研究推進人材育成プログラム」と「医療データサイエンス講究」の 2 科目を開講し、それぞれが研究遂行に必要な知識やスキルの習得を支援します。本プログラムを通じて「研究を動かす力」を身につけ、多様なキャリアの可能性を広げていきます。

研究推進人材育成プログラム

学　　期：前期・後期　　単位数：2 単位　　木曜日

本学担当：横山　詩子 主任教授（細胞生理学）

　　大村　光代 研究推進特任教授（医学総合研究所）

ｵﾌｨｽｱﾜｰ：各講義終了後に講義担当者と日程等を相談する。

１．概要

本プログラムは、基礎研究から臨床研究、医療応用までの流れを、講義と演習を通じて体験できる初のコースです。外部講師による講義や外部研究機関における演習を通じて、科研費研究計画調書のブラッシュアップ、レギュラトリーサイエンスや社会実装の取り組みなどを実践的に学ぶことができます。

２．学習目標

⑴　一般目標（GIO）

本プログラムを通じて、高度専門職人材の役割や実務を学ぶ機会を提供し、産学官連携や海外機関との協力を通じて、未来の医学研究を先導する多様な人材の育成を目指します。

⑵　行動目標（SBOs）

①　アカデミアにおける研究推進（ARO／URA）の役割を説明できる。

②　科研費計画調書を査読し、改善点を指摘できる。

③　医薬品・医療機器の R&D プロセスを概説できる。

④　レギュラトリーサイエンスの基本概念と審査の流れを説明できる。

⑤　治験・医師主導治験の枠組みと実施上の要点を説明できる。

⑥　研究の社会実装プロセスを示し、自身の研究に適用することができる。

３．準備学習（予習・復習）

予習：事前に e 自主自学にアクセスし、学習内容と資料を確認してください。

復習：授業で提示された資料を再確認し理解を深め、知識を定着させてください。

４．教科書・参考書など

教科書：なし

参考書：なし

５．評　価

各講義終了後に各回課題レポートを提出してください。 提出されたレポートの内容により評価します。

６．フィードバック

e 自主自学を通して行います。

７．カリキュラム予定（日程等、詳細は web シラバス参照ください）

演　題	内　容	授業形態
ｱｶﾃﾞﾐｱにおける研究推進(ARO/URA)1～6	総論、調査・分析、企業連携	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
ｱｶﾃﾞﾐｱにおける研究推進(ARO/URA)7～8	URA 業務の実際	演習/対面
科研費計画調書ピアレビュー1		講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
科研費計画調書ピアレビュー2～3		演習/対面
医薬工連携・学際研究の推進	シンポジウム参加型演習	演習/対面
企業における医薬品の研究開発		講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
企業における医療機器の研究開発		講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
AMED の取り組み 1～2	日本医療研究開発機構における演習	演習/対面
レギュラトリーサイエンス 1～3	医薬品の開発、品質、安全性試験	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
レギュラトリーサイエンス 4	国立医薬品食品衛生研究所における演習	演習/対面
治験・医師主導治験 1～4	アカデミアにおける役割・重要性	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
社会実装への取り組み 1～3	研究開発、標準化の役割、最新動向	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
社会実装への取り組み 4～5	学外演習	演習/対面
ベンチャー・Start-up1～2	ベンチャー、スタートアップの紹介	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
ベンチャー・Start-up3	創業者（研究者）との座談会	演習/対面

医療データサイエンス講究

学　　期：前期・後期　　単位数：2 単位　　火・金曜日
本学担当：田栗　正隆 教授（医療データサイエンス）
　　小向　翔 准教授（医療データサイエンス）
　　折原　隼一郎 講師（医療データサイエンス）
　　原田　和治 講師（医療データサイエンス）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ：各講義終了後に講義担当者と日程等を相談する。

１．概要

本プログラムは、Ｒを用いた医療データ解析をはじめ、傾向スコア法や因果媒介分析などの統計的因果推論、さらに機械学習や異質治療効果推定といった先端的な手法を、講義と演習を通じて体系的かつ実践的に学ぶことができる

２．学習目標

⑴　一般目標（GIO）

本プログラムを通じて、医療分野における多様なデータを活用し、課題解決に貢献できるデータサイエンス人材の育成を目指します。

⑵　行動目標（SBOs）

①　Ｒを用いて医療データの前処理・可視化・解析を実施できる。
②　傾向スコア法を理解し、治療効果推定に適用できる。
③　因果媒介分析の考え方を理解し、実データに基づく分析を行うことができる。
④　医療データサイエンスの実践例を理解し、自身の研究に応用できる。

３．準備学習（予習・復習）

予習：事前にｅ自主自学にアクセスし、学習内容と資料を確認してください。
復習：授業で提示された資料を再確認し理解を深め、知識を定着させてください。

４．教科書・参考書など

教科書：なし
参考書：なし

５．評　価

各講義終了後に各回課題レポートを提出してください。 提出されたレポートの内容により評価します。

６．フィードバック

e 自主自学を通して行います。

７．カリキュラム予定（日程等、詳細は web シラバス参照ください）

演題（講義内容）	内容	授業形態
R で学ぶ医療データ解析 0	R と R Studio の使い方	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
R で学ぶ医療データ解析 1～4	連続データ、カテゴリカルデータ、回帰・ロジスティック回帰、生存時間解析	演習/対面
傾向スコア法	観察研究における交絡の理解と傾向スコア・重み付けによる調整	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
傾向スコア法 1～4	計画書作成・データ解析・報告書作成・発表まで	演習/対面
因果媒介分析	因果メカニズムの分解(直接・間接効果)と R による実装	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
教師あり学習	回帰・機械学習モデルの構築・評価・解釈を R で実装	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
教師なし学習	探索解析で次元削減と分類	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
異質治療効果の推定	回帰交互作用・Meta-learner・生存時間解析を通じた個別化効果推定	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
医療データサイエンスの実際 1～8	研究設計から解析・報告までの流れを体験	講義/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ

コースワーク

コースワーク講義・演習および実習の概要

① 神経系コースワーク

② 生体防御系コースワーク

③ 腫瘍系コースワーク

④ 器官系機能解析コースワーク

⑤ 分子・細胞機能解析コースワーク

⑥ 社会・情報・教育系コースワーク

コースワーク別大学院特別講義

コースワーク講義・演習および実習の概要

①　神経系コースワーク

講義・演習

学　　期：前・後期　　単位数：3 単位

世 話 人：金蔵主任教授、清水主任教授

指導教員：髙橋主任教授（組織・神経解剖学）　金蔵主任教授（薬理学）

桝屋主任教授（精神医学）　赫　主任教授（神経学）

清水主任教授（高齢総合医学）　山中主任教授（小児科・思春期科学）

市来　教授（学生・職員健康サポートセンター）稲津教授（医学総合研究所）

合谷木教授（麻酔科学）　藤村教授（八王子・メンタルヘルス科）

新保　教授（八王子・脳神経外科）　東　教授（茨城・メンタルヘルス科）

場　　所：教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン

１．目　的

医学研究者として、神経関連領域における基本的な科学的知識を習得するとともに、当該分野の最先端研究の状況を理解する。

２．概　要

下記に示した、年 2 回の定例全体会においては、当大学における神経関連領域の研究の現状を理解する。それ以外の神経関連領域専門研究者による講義では、多彩な学内外の研究者を招いて、個別の最先端の研究テーマや研究の進め方などを理解する。

３．学習目標・到達目標

＜到達目標１＞

神経関連領域の研究において、基本的な医科学的知識を習得するとともに、未解決な課題を認識し、最先端の研究者が如何に医学研究を進めているか現状を理解する。

＜到達目標２＞

神経関連領域の学術論文を読んでその内容を理解することができる。

＜到達目標３＞

神経関連領域で用いられる基礎研究手法（初代神経培養、神経遺伝子導入、神経細胞発生、中枢神経疾患の病理組織作成など）、精神疾患や睡眠異常に対する脳波生理学的解析、視覚情報の異常を評価する検査法などを理解し説明することができる。

４．準備学習（予習・復習）

講義演習内容に関連する基礎的な知見の概略をあらかじめ学習しておく。

講義演習などで指摘された点を踏まえて、学会発表や論文作成への準備を行う。

５．評価方法

出席、受講時の態度、プレゼンテーションなどにより評価する。口頭試問を行う場合がある。

６．講義日時

コースワーク全体会は東京医科大学医学会総会（春、秋）開催日の午前中に行う。

学生は、第 1 学年時に研究課題の発表、第 3 学年時に研究の中間発表を行う。この 2 回を含めて 3 回以上出席すること。

回	日　時	場　所	内容概略
1	2026/06/20	教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン	[神経領域定例セミナー] 大学院生による活動報告 1 年次：研究課題の発表 2・3 年次：研究の進捗状況報告
2	2026/11/07	教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン	[神経領域定例セミナー] 大学院生による活動報告 1 年次：研究計画の発表 2・3 年次：研究の進捗状況報告

実　習

学　　期：前・後期　　単位数：2 単位

場　　所：Web シラバス参照※

テーマ	担当分野	担当教員
神経構造解析	組織・神経解剖学	髙橋宗春、大山恭司、北澤宏理、篠原広志、柏木太一、権田裕子
神経変性疾患薬理学	薬理学	金蔵孝介、鈴木宏昌、草苅伸也、名和幹朗
臨床神経学	神経学	赫　寛雄、加藤陽久、日出山拓人
精神症状・精神疾患・ストレス・睡眠リズム・パーソナリティの評価解析	精神医学	桝屋二郎、市来真彦、本屋敷美奈、石井礼花、森下千尋、玉田　有、積　知輝
脳疾患の病理および免疫組織化学	高齢総合医学	稲川雄太
小児疾患の病態解析と診断･研究手法	小児科・思春期科学	山中　岳、山崎崇志、柏木保代、西亦繁雄、奥野博庸、石田　悠、森地振一郎、奈良昇乃助、羽生直史、赤松信子、渡邊由祐

１．目　的

医学の基礎／臨床研究の遂行のためには、基本的な実験や臨床解析手技を学び、理解し、駆使することが必須である。本セクションでは、神経関連領域の基礎研究や臨床研究に用いる実験手技を習得する。

２．概　要

基礎医学教室では主に神経細胞を用いた in vitro 実験手技（初代神経細胞を用いた分子生物学的実験や神経幹細胞解析実験）の習得が中心である。また、臨床医学教室においては、種々の正常組織の構造を理解した上で、それらの病的状態を神経病理学的手技や臨床的技術を用いて理解することが中心となる。

３．学習目標・到達目標

神経学関連領域の研究に必須の手技を習得する。具体的には、神経関連領域の基礎的研究手法(初代神経培養、神経遺伝子導入、神経細胞発生、中枢神経疾患の病理組織作成など)、精神疾患や睡眠異常に対する脳波生理学的解析、視覚情報の異常を評価する検査法などを研究の手段として駆使することができる。

４．準備学習（予習・復習）

実習を希望する学生は申請前に各実習担当者に確認すること。また、履修以降もその後の研究に用いることができるように、復習することが望ましい。

５．評価方法

出席、各実習成果、プレゼンテーション、試問などに基づき評価する。

６．講義日時・履修方法

Web シラバス参照　実習担当者と相談の上決定。

② 生体防御系コースワーク

講義・演習

学　　期：前・後期　　単位数：3 単位

世 話 人：横須賀主任教授、中村主任教授

指導教員：中村主任教授（微生物学）　　横須賀主任教授（免疫学）

本間主任教授（救急・災害医学）　原田主任教授（皮膚科学）

渡邉教授（臨床感染症学）　大楠教授（微生物学）

善本教授（医学総合研究所）　小林教授（八王子・リウマチ性疾患治療センター科）

加藤教授（八王子・皮膚科）　蒲原教授（八王子・特定集中治療部）

川内教授（茨城・皮膚科）

場　　所： Zoom

１．目　的

生体防御に関する基本的な知識を基に、ディスカッションを通してより幅広い知識、見識、考え方を修得することで、自ら専門科目をより深く探求できる研究者マインドを育成する。

２．概　要

生体防御関連分野（微生物学、免疫学、リウマチ・膠原病内科学、皮膚科学、救急・災害医学、免疫制御学、臨床感染症学）における生体防御反応の原理や臨床への応用を学ぶ。

３．学習目標・到達目標

① 生体防御に関する（細菌、ウイルス、寄生虫などによる感染症の概要、アレルギーの病態、ワクチンの原理と効果の機序、リウマチ・膠原病の病態形成メカニズム、皮膚疾患における免疫応答機能、救急患者における免疫応答機能、心機能の計測および評価、神経疾患の病態生理、神経系薬物動態、免疫担当細胞の機能）研究の背景・目的の意義を論理的に説明できる。（研究発表会・医学会総会）

② 特に専攻分野において生体防御に関する普遍的な知識と最新の知識を十分に習得し理解できる（特別講義・医学会総会）

③ 生体防御に関する研究方法の科学的な正当性をよく理解し、説明できる。（研究発表会・医学会総会）

④ 生体防御に関する医学研究を自ら計画し、研究倫理に則り主体的に取り組むことができる。（研究発表会・医学会総会）

⑤ 生体防御に関する知識・研究結果を論理的に考察し、質疑応答する能力がある。（医学会総会）

４．準備学習（予習・復習）

予習：生体防御にかかわる疾患に関し、教科書、参考文献、インターネットなどを利用して、予め理解を深めておく。(60 分)

復習：講義・講演および討論の内容を深く考察・整理することによって、レポート形式に纏める。（60 分）

５．評価方法

発表会（年 1 回)、医学会総会（年 1 回）での報告を義務とし、担当指導教員による形成的評価を受ける。

６．講義日時

コースワーク全体会講義は東京医科大学医学会総会（春、秋）開催日の午前中に行う。

学生は第 1～3 学年時に開かれる年 2 回のコースワークのどちらかに出席する（3 コマ)。

第 1 学年時は研究テーマと遂行体制の確認、第 2 学年時は進捗状況の確認、第 3 学年は研究成果の確認を行う。

回	日　時	場　所	タイトル・内容概略
1	2026/06/20	教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン	[感染・救急・皮膚と生体防御のクロストークと免疫アレルギー疾患の病態形成] 大学院生による活動報告 1 年次：研究テーマと遂行体制 2 年次：研究の進捗状況 3 年次：研究の成果
2	2026/11/07	教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン	[感染・救急・皮膚と生体防御のクロストークと免疫アレルギー疾患の病態形成] 大学院生による活動報告 1 年次：研究テーマと遂行体制 2 年次：研究の進捗状況 3 年次：研究の成果

実　習

学　　期：前・後期　　単位数：2 単位

場　　所：Web シラバス参照※

テーマ	担当分野	担当教員
ウイルスの細胞への感染と粒子産生	微生物学	中村茂樹、柴田岳彦
T 細胞の活性化・シグナル伝達機構・ がん免疫応答を理解するための研究	免疫学	横須賀忠、竹内　新、若松　英、 町山裕亮、西嶋　仁
免疫細胞の分離・精製と機能解析	免疫制御学	善本隆之、溝口　出
皮膚の生体防御の解析	皮膚科学	原田和俊
重度侵襲対応 Decision Making 評価	救急･災害医学	本間　宙、弦切純也、内田康太郎、 奥村滋邦
感染症の医療環境への影響(人･医療設備) とその基礎（遺伝子・免疫反応）	臨床感染症学	渡邉秀裕、中村　造、福島慎二、 小林勇仁、藤田裕晃、町田征己

１．概要と目的

感染症の病態は宿主の免疫力と病原微生物との均衡が崩壊することにより形成されるため、それらを理解するには宿主と病原体の双方からのアプローチが必要である。免疫部門では、リンパ球を中心とした、活性化・増殖・エフェクター分化の面から機能解析し、生体応答を理解する。これらの結果を臨床的側面からも解析し、皮膚・救急・慢性疾患の多角的視野からさらに考察を加える。また生体防御に関する研究方法を学び習熟することで、生体応答をより深く理解し、自立した研究者としての考え方・実験・まとめ方・発表の方法論を学ぶ。

２．学習目標・到達目標　習得可能な実験技法など（詳細は各分野 Web シラバスを参照）

① 生体防御系、特に内外の専攻分野（細菌、ウイルス、寄生虫などによる感染症の概要、アレルギーの病態、ワクチンの原理と効果の機序、リウマチ・膠原病の病態形成メカニズム、皮膚疾患における免疫応答機能、救急患者における免疫応答機能、心機能の計測および評価、神経疾患の病態生理、神経系薬物動態、免疫担当細胞の機能）に関する普遍的な知識と最新の知識を十分に習得し理解できる。

② 生体防御に関する普遍的な知識と最新の知識を十分に習得し理解できる。

３．準備学習（予習・復習）

予習：生体防御に関連する基礎・臨床および実験手技の原理や方法などについて予め理解しておく。(60 分)

復習：実習で得られた結果を考察し、レポートなどに纏めることによって、生体防御に関連する基礎・臨床および実験手技の原理や方法などを確実に習得する。(60 分)

４．評価方法

出席、受講態度、積極性、レポート提出により評価する。

５．履修方法

Web シラバス参照

生体防御系コースワーク

③　腫瘍系コースワーク

講義・演習

学　　期：前・後期　　単位数：3 単位

世 話 人：石川主任教授、黒田主任教授

指導教員：長尾主任教授（人体病理学）　黒田主任教授（分子病理学）
赤羽主任教授（血液内科学）　糸井主任教授（消化器内科学）
齋藤主任教授（放射線医学）　工藤主任教授（呼吸器・甲状腺外科学）
石川主任教授（乳腺科学）　河野主任教授（脳神経外科学）
永川主任教授（消化器・小児外科学）　大野主任教授（泌尿器科学）
西　主任教授（産科婦人科学）　塚原主任教授（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）
鈴木主任教授（消化器外科学）
松林　教授（人体病理学）　祖父尼教授（臨床腫瘍科）
吉村　教授（放射線科）　中井　教授（放射線科）
大平　教授（呼吸器外科・甲状腺外科）　筒井　教授（呼吸器外科・甲状腺外科）
伊藤　教授（臨床研究支援センター）　後藤　教授（八王子・血液内科）
山田　教授（八王子・乳腺科）　中津川教授（八王子・病理診断部）
青木　教授（八王子・臨床腫瘍科）　下田　教授（茨城・消化器外科）
森下　教授（茨城・病理診断部）

場　　所：教育研究棟もしくは zoom によるオンライン

１．目　的

診断方法の進歩と高齢化社会を背景として、早期癌の増加や高齢者のがん治療は社会の要請である。同時にゲノム解析、新規治療の開発やエビデンスの構築など広い視野を前提としたがん診療が望まれる。早期癌に対する低侵襲治療は均てん化してきたが、進行癌に対しては各領域において標準治療、見なし標準治療、探索型医療が混在しており、がん医療全体を見据えた研究や診療の教育が必要である。本研究では１）細胞がん化の分子基盤とがん細胞の生物学的特性、２）がん診療・研究の現状、３）安全な適応設定と治療手技の標準化、４）技術や知識の均てん化、５）新たな医療の創出・トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究)、など現在のがん研究と診療を理解しつつ、次世代医療の基礎となる知識を学ぶことを目的とする。

２．概　要

がんを専門とする人材が医療現場において効果的・効率的にがん医療に貢献するためには、標準的な技術と知識の修得とがん医療を発展させるトランスレーショナルリサーチの習慣化が必要と考えられる。このため、各種がん治療方法の修得、臨床腫瘍学的思考、がん診療の普及・推進の方法論、がん研究の推進とその成果の応用など複数項目にわたる包括的な教育が望まれる。

特に腫瘍学の基礎知識、実験に関する基本的技術、生物学的統計、倫理、臨床試験・治験の基礎知識などはすべてのがんに共通であり、関連講座が散在する教材を共有しつつ、共同して基盤部教育を行うことが質の高い講義、実習につながると判断する。

３．学習目標・到達目標

１）到達目標 1：「臨床腫瘍学」の基礎全般を習得し、独自の研究テーマに応用できる。

⑴　病理学：腫瘍病理学の基礎を理解する。
⑵　腫瘍学一般：病期や悪性度評価のためのマーカー、各種診断・治療法を理解する。
⑶　病態生理：腫瘍による症状出現の機序などを理解する。
⑷　分子生物学的解析：細胞がん化の分子基盤を理解し、新規「分子標的薬」の作用機序、腫瘍マーカーの有用性ならびに今後の腫瘍学研究の方向性を概説できる。

２）到達目標 2：がん診療に必要な検査・治療に習熟する。

⑴　画像読影
⑵　内視鏡検査
⑶　病理学的診断
⑷　分子生物学的検査法（個別化治療への支援を含む）
⑸　外科的治療
⑹　薬物療法（分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤を含む）
⑺　放射線治療
⑻　IVR 治療
⑼　化学療法の副作用対策・支持療法

３）到達目標 3：一定レベルの治療を経験する。

４）到達目標 4：医の倫理に基づいた適切な診療姿勢と臨床研究の手法を理解する。

がん治療法の開発、がん治療への EBM 実践を実現するために、臨床研究方法論、エビデンスに基づく診療実践について理解する。

４．準備学習（予習・復習）

予習：講義内容を理解し、効率的に知識を習得するために、講義の前にはあらかじめ推薦した教科書で該当する個所を学習しておくことが望ましい。余裕があるなら関連する内容の代表的な文献も検索しておく。講義の前に概要と理解の程度の把握に努めること。

復習：理解のために反復して学習することは必要な作業である。講義で理解しづらかった個所はもう一度推薦した教科書で確認し、必要に応じて再度教官とコミュニケーションを取り、納得いくまで学習すること。他領域と密接に関連する内容もあるので、文献などを熟読することにより包括的な理解を心がけること。

腫瘍系コースワーク

５．評価方法

質疑応答の内容と学習者の観察、レポート内容、研究に関するプレゼンテーション、学習態度、業績などを総合的に評価する。

６．講義日時

コースワーク全体会は東京医科大学医学会総会（春、秋）開催日の午前中に行う。

学生は、第1学年時に研究課題の発表、第3学年時に研究の中間発表を行う。この2回を含めて3回以上出席すること。

回	日　時	場　所	タイトル・内容概略
1	2026/06/20	教育研究棟もしくは zoomによるオンライン	「TMU Oncology Seminar I」 ―研究テーマ設定とその進捗状況―
2	2026/11/07	教育研究棟もしくは zoomによるオンライン	「TMU Oncology Seminar II」 ―研究テーマ設定とその進捗状況―

実　習

学　　期：前・後期　　単位数：2 単位

場　　所：web シラバス参照※

テーマ	担当分野	担当教員
病理診断学と病態解明の融合	人体病理学	長尾俊孝、松林　純、高橋礼典、谷川真希、助田　葵、榎本　愛、平井秀明、梶原真奈美
細胞死の解析	分子病理学	黒田雅彦、高橋芳久、梅津知宏、大野慎一郎、藤倉航平
造血器腫瘍の病態理解	血液内科学	赤羽大悟、後藤守孝、古屋奈穂子、岡部聖一、田中裕子、吉澤成一郎、片桐誠一朗、浅野倫代、伊藤雅文
臨床検体を用いる研究の為の基礎的技術の習得	消化器内科学	福澤誠克、土屋貴愛、内藤咲貴子、竹内啓人、殿塚亮祐
消化器癌における内視鏡治療	消化器内視鏡学	河合　隆、岩田英里、張　萌琳、新倉量太、柳澤京介
放射線腫瘍学	放射線医学	齋藤和博、吉村真奈、中井資貴、石田尚利、岡田幸法、三上隆二、糸永知広
肺癌・甲状腺癌のトランスレーショナルリサーチ	呼吸器・甲状腺外科学	大平達夫、筒井英光、垣花昌俊、工藤勇人、古本秀行、矢野由希子、雨宮亮介、江里口大介
乳腺腫瘍の診断・治療	乳腺科学	石川　孝、山田公人、海瀬博史、堀本義哉、河手敬彦、寺岡冴子、日馬弘貴
消化器癌および小児外科疾患における低侵襲治療・個別化医療	消化器・小児外科学	永川裕一、金沢景繁、古賀寛之、小熊潤一、真崎純一、栄原　寛、刑部弘哲、笠原健太
消化器癌の診断・治療	消化器外科学	鈴木修司、下田　貢、島崎二郎宮本良一、渡邊　充、椎原正尋
泌尿器科癌細胞株を使用した in vitro 実験の基礎手技の習得	泌尿器科学	大野芳正、橋本　剛、平澤陽介
頭頸部がんにおける免疫機能	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	塚原清彰、岡本伊作、近藤貴仁、上田百合、田中英基
悪性腫瘍細胞やトロホブラストの浸潤能	産科婦人科学	西　洋孝、佐々木徹、小島淳哉
脳腫瘍の病理学的解析	脳神経外科学	深見真二郎、中島伸幸

腫瘍系コースワーク

１．目　的

社会の高齢化に伴い、今や国民の二人に一人ががんに罹患し、三人に一人ががんで死亡している。これにより、がんの基礎研究から、予防医学、早期診断、化学療法、外科治療、放射線治療、緩和医療、さらには医療経済にいたる多方面での「がん研究医」の社会的ニーズは高まり、研究者として果たす役割も増している。本コースは、このような多様なオンコロジー研究領域を俯瞰できる広い視野と、医療現場から研究テーマを抽出できる能力育成、そして、個々の研究テーマを遂行し、さらに発展させるための研究技能の習得を目的とする。

２．概　要

「橋渡し研究」を実践するための基礎的実験技能の習得から臨床研究の立案まで、幅広い多様な実習プログラムが用意されている。研究テーマに沿って選択することが望ましいが、同時に、可能な限り他分野への積極的な参加により、がん医療を包括的に体験することで視野を広げておくことも、今後の研究テーマの発展性の上で重要と考える。

３．学習目標・到達目標

web シラバス参照

４．準備学習（予習・復習）

web シラバス参照　各実習担当者に確認すること。

５．評価方法

web シラバス参照　各実習担当者に確認すること。

６．講義日時

web シラバス参照

④　器官系機能解析コースワーク

講義・演習

学　　期：前・後期　　単位数：2 単位

世 話 人：濱岡主任教授、近津主任教授、里見主任教授、島原主任教授

指導教員：⑴頭頸部・運動器系

伊藤主任教授（人体構造学）	濵岡主任教授（健康増進スポーツ医学）
山本主任教授（整形外科学）	主任教授（眼科学）
近津主任教授（口腔外科学）	松村主任教授（形成外科学）
志村教授（八王子・眼科）	小川教授（八王子・耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
吉井教授（茨城・整形外科）	松尾教授（茨城・歯科口腔外科）

⑵内臓・自律神経系

阿部主任教授（呼吸器内科学）	里見主任教授（循環器内科学）
鈴木主任教授（糖尿病・代謝・内分泌内科学）	菅野主任教授（腎臓内科学）
島原主任教授（心臓血管外科学）	沢田主任教授（リウマチ・膠原病内科学）
河地主任教授（消化器外科・移植外科学）	森山教授（腎臓内科学）
田中教授（八王子・循環器内科）	北村教授（八王子・消化器内科）
尾田教授（八王子・腎臓内科）	赤坂教授（八王子・心臓血管外科）
岩本教授（八王子・腎臓外科）	平山教授（茨城・腎臓内科）
椎名教授（茨城・循環器内科）	岩本教授（茨城・消化器内科）
池上教授（茨城・消化器内科）	本多教授（茨城・消化器内科）

場　　所：教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン

１．目　的

循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌・代謝系、運動器系、体壁系の機能解析を通して、Organ Biology および Organ System Biology を究める研究能力を養う。

２．概　要

専門の器官系および専門外の器官系分野の発表で構成される全体会議に参加して、広い視野で器官系を観る眼（構造・機能・病態・治療および臓器保存・移植・人工臓器の開発）を涵養する。

３．学習目標・到達目標

特定の器官系の研究テーマに基づいて研究計画を立てることができる。

研究計画に基づいて必要とされる実験を実施できる。

研究結果を整理し、考察ができる。

研究結果について討論および考察ができる。

研究結果をまとめてコースワーク全体会議で発表ができる。

４．準備学習（予習・復習）

器官系機能解析を行う前に、専門とする器官および器官系の詳細な構造と働きを教科書を用いて学習する。また、必要に応じて専門誌の文献検索を行い、専門の研究領域を深く理解する。

５．評価方法

全体会への出席（3 回以上）および全体会における第 1 学年次の研究課題の発表および第 3 学年次の研究の中間発表を総合的に評価する。

６．講義日時

コースワーク全体会は東京医科大学医学会総会（春、秋）開催日の午前中に行う。

学生は、第 1 学年時に研究課題の発表、第 3 学年時に研究の中間発表を行う。この 2 回を含めて 3 回以上出席すること。

回	日　時	場　所	タイトル・内容概略
1	2026/06/20	教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン	［器官系機能解析セミナー］ 研究課題の発表（第 1 学年） 研究の中間報告（第 3 学年）
2	2026/11/07	教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン	［器官系機能解析セミナー］ 研究課題の発表（第 1 学年） 研究の中間報告（第 3 学年）

実　習

学　　期：前・後期　　単位数：2 単位

場　　所：web シラバス参照※

テーマ	担当分野	担当教員
器官構築研修セミナー	人体構造学	伊藤正裕、宮宗秀伸、矢倉富子、夏山裕太郎、河田晋一
運動時における呼吸・循環・代謝のダイナミクス	健康増進 スポーツ医学	濵岡隆文、木目良太郎、黒澤裕子、布施沙由理
慢性呼吸器疾患の呼吸機能と画像解析	呼吸器内科学	阿部信二、河野雄太、菊池亮太、小林研一、石割茉由子
循環器疾患の機能および形態的解析	循環器内科学	里見和浩、金澤英明、肥田　敏、小菅寿徳、武井康悦、山下　淳、山本博之、矢崎義直、村田直隆、小林正武
糖尿病診療能力を高める	糖尿病・代謝・内分泌内科学	鈴木　亮、志熊淳平、諏訪内浩紹、佐々木順子、菅井啓自
エビデンスに基づくリウマチ性疾患診療	リウマチ・膠原病内科学	沢田哲治、庄田宏文、太原恒一郎、林　映
臨床腎臓病学	腎臓内科学	菅野義彦、森山能仁、長井美穂、齋藤　優
心臓血管外科治療	心臓血管外科学	島原佑介、福田尚司、岩橋　徹、藤吉俊毅、加納正樹
消化器癌の外科治療	消化器外科・移植外科学	河地茂行、千葉斉一、佐野　達、小林敏倫、郡司崇裕
マイクロ・ナノテクノロジーを用いた生体材料工学研究	整形外科学	立岩俊之、石田常仁、髙橋康仁
神経ネットワークとしての眼	眼科学	若林美宏、臼井嘉彦、馬詰和比古、坪田欣也、山本香織、成松明知、川上摂子、服部貴明
ヒト歯髄幹細胞を用いた骨分化誘導法	口腔外科学	近津大地、佐藤麻梨香、羽鳥綾乃
創傷治癒・創傷外科・再建外科	形成外科学	松村　一、藤井美樹、小宮貴子、島田和樹
肝指向性物質の定量解析	消化器内科 [茨城医療センター]	本多　彰、池上　正、宮﨑照雄

器官系機能解析コースワーク

１．目　的

コースワーク実習を通して、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌・代謝系、運動器系、体壁系の構造、機能、病態および治療を研究する能力を養う。

２．概　要

専門の器官系分野に関連した各種実習を履修し、また、広い視野を持って専門外の器官系分野の実習にも必要に応じて参加し、専門の器官系の構造、機能および病態を理解し、エビデンスに基づいて論理的に研究を組み立てる能力を養う。

３．学習目標・到達目標

web シラバス参照

４．準備学習（予習・復習）

web シラバス参照　各実習担当者に確認すること。

５．評価方法

web シラバス参照　各実習担当者に確認すること。

６．講義日時

web シラバス参照

⑤　分子・細胞機能解析コースワーク

講義・演習

学　　期：前・後期　　単位数：3 単位

世 話 人：木内主任教授、平本教授

指導教員：横山主任教授（細胞生理学）　　林　主任教授（病態生理学）

伊藤主任教授（生化学）　　木内主任教授（臨床検査医学）

中澤主任教授（麻酔科学）　　平本教授（生化学）

場　　所：教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン

１．目　的

種々な細胞の機能を研究する上で必要な基本的な知識を習得する。

２．概　要

細胞、細胞小器官、分子の挙動を形態的、機能的観点から研究する手法の原理を理解する。

３．学習目標・到達目標

研究に必要な知識や最新のトピックについて説明できる。

研究倫理・動物実験の倫理について理解し守ることができる。

研究計画に基づいて適切な実験を実施できる。

研究結果をまとめて発表できる。

研究結果について考察ができる。

他の研究発表について質問・議論ができる。

４．準備学習（予習・復習）

別紙参照　各講義担当者に確認すること。

５．評価方法

別紙参照　各講義担当者に確認すること。

６．講義日時

コースワーク全体会は東京医科大学医学会総会（春、秋）開催日の午前中に行う。

学生は、第１学年時に研究課題の発表、第３学年時に研究の中間発表を行う。この２回を含めて３回以上出席すること。

回	日　時	場　所	タイトル・内容概略
1	2026/06/20	教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン	［分子・細胞機能解析セミナー］ 研究課題の発表（第１学年） 研究の中間報告（第３学年）
2	2026/11/07	教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン	［分子・細胞機能解析セミナー］ 研究課題の発表（第１学年） 研究の中間報告（第３学年）

実　習

学　　期：前・後期　　単位数：2 単位

場　　所：web シラバス参照※

テーマ	担当分野	担当教員
心血管の機能解析	細胞生理学	横山詩子、内田敬子、井上　華、 中村　隆
骨格筋の機能と疾患	病態生理学	林由起子、川原玄理、和田英治
栄養状態による糖脂質代謝の変化	生化学	伊藤美智子
分子標的薬による細胞死誘導メカニズム	生化学	平本正樹、高野直治
血友病の病態解析	臨床検査医学	稲葉　浩、野坂(篠澤)圭子、 備後真登、近澤悠志
タンパク質・RNA の抽出と分析	麻酔科学	柴田勝一郎

１．目　的

種々な細胞の機能を研究する上で必要な基本的な手技、データ解析法を習得する。

２．概　要

細胞、細胞小器官、分子の挙動を形態的、機能的観点から研究する手法の基本的手技を習得し、得られたデータの解析を通して研究の流れを実践する。

３．学習目標・到達目標

web シラバス参照

４．準備学習（予習・復習）

web シラバス参照　各実習担当者に確認すること。

５．評価方法

web シラバス参照　各実習担当者に確認すること。

６．講義日時

web シラバス参照

⑥　社会・情報・教育系コースワーク

講義・演習

学　　期：前・後期　　単位数：3 単位

世 話 人：井上主任教授、内ヶ﨑主任教授

指導教員：井上主任教授（公衆衛生学）　　内ヶ﨑主任教授（法医学）

浦松主任教授（医療の質・安全管理学）　田栗主任教授（医療データサイエンス）

三島教授（医療の質・安全管理学）　　小島教授（国際教育研究センター）

天野教授（臨床検査医学）　　平井教授（八王子・感染症科）

小林教授（茨城・総合診療科）

場　　所：教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン

１．目　的

社会・情報・教育系医学の最新の研究動向を学ぶ。また、それぞれの研究進捗状況を発表して討論を行い、学位取得に向けて研究計画を検討する。

２．概　要

社会・情報・教育系領域の第一線で活躍する研究者の講義を行う（コース別大学院特別講義）。また、研究の中間成果を実際の学会（東京医科大学医学会総会）で発表し、プレゼンテーション能力を養うと共に、一般研究者からのフィードバックを得る。さらに、コース内で研究進捗状況の報告会を行い、お互いの研究について討論し、研究計画を再構築する。

３．学習目標・到達目標

・社会・情報・教育系領域の最新トピックについて説明できる。
・研究発表の倫理、マナーを理解し、守ることができる。
・研究発表のための抄録を作成できる。
・パワーポイントを用いて研究発表が行える。
・他の研究発表に対して適切な質問が行える。
・研究計画書を作成できる。

４．準備学習（予習・復習）

＜予習＞

・研究計画あるいは研究成果の中間発表を行うので抄録（A4 版 1 ページ）を用意すること。
・発表はパワーポイントを用いて行うので、別に指定する時間に合わせて資料を作成し、プレゼンテーションの練習をしておくこと。

＜復習＞

・講義・演習で行った討議をもとに、学位取得に向けた研究計画書を作成して、提出すること。

５．評価方法

発表準備、発表内容、討議への参加、復習として提出する研究計画を総合して評価する。

６．講義日時

コースワーク全体会は東京医科大学医学会総会（春、秋）開催日の午前中に行う。

学生は、第 1 学年時に研究課題の発表、第 3 学年時に研究の中間発表を行う。この 2 回を含めて 3 回以上出席すること。

回	日　時	場　所	タイトル・内容概略
1	2026/06/20	教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン	各学年のテーマ 1 年次：これまで行ってきた研究および研究計画 2 年次：研究進捗状況と今後の課題・計画 3 年次：研究中間成果と論文作成計画（研究が進捗している場合には研究成果）
2	2026/11/07	教育研究棟もしくは Zoom によるオンライン	各学年のテーマ 1 年次：これまで行ってきた研究および研究計画 2 年次：研究進捗状況と今後の課題・計画 3 年次：研究中間成果と論文作成計画（研究が進捗している場合には研究成果）

実　習

学　　期：前・後期　　単位数：2 単位

場　　所：web シラバス参照※

テーマ	担当分野	担当教員
疫学・臨床疫学研究のデザイン	公衆衛生学	井上　茂、高宮朋子、福島教照、 菊池宏幸、町田征己、小田切優子
社会が求める法医学のニーズの整理	法医学	内ヶ崎西作、鉄　堅
医療安全管理体制構築	医療の質・ 安全管理学	浦松雅史、三島史朗、和田　淳、 高橋　恵、大戸朋子
生物統計学方法論	医療データ サイエンス	田栗正隆、小向　翔、小川光紀、 折原隼一郎、原田和治

１．目　的

講義で学んだ知識を研究、診療、教育に活用することができるようになることを目的に、指導教員の各専門領域においてテーマを設定して実習を行う。

２．概　要

公衆衛生学では「疫学・臨床疫学研究のデザイン」を、法医学では「社会が求める法医学のニーズの整理」を、医療の質・安全管理学では「医療安全体制の構築」を、医療データサイエンスでは「生物統計学方法論」をテーマに実習を行う。学生は希望するテーマを選択して実習を行う。

３．学習目標・到達目標

web シラバス参照

４．準備学習（予習・復習）

web シラバス参照　各実習担当者に確認すること。

５．評価方法

web シラバス参照　各実習担当者に確認すること。

６．講義日時

web シラバス参照

コースワーク別大学院特別講義

開催日程等詳細は、ホームページで随時ご案内いたします。
単位取得には 12 回以上の出席が必要です。所属コース問わずご受講可能です。

○東京医科大学 e 自主自学（要ログイン）

コース＞大学院特別講義＞大学院特別講義 2026
https://cms.tokyo-med.ac.jp/course/view.php?id=5951

○東京医科大学ホームページ

大学院医学研究科＞博士課程 特別講義
https://www.tokyo-med.ac.jp/graduate/med/doctor/lecture.html

専門科目

形態系

人体構造学
組織・神経解剖学
人体病理学
分子病理学
微生物学

機能系

細胞生理学
病態生理学
生 化 学
薬 理 学
免 疫 学
免疫制御学

社会医学系

公衆衛生学
健康増進スポーツ医学
法 医 学
医療の質・安全管理学
医療データサイエンス
医学教育学（非開講）

内科系

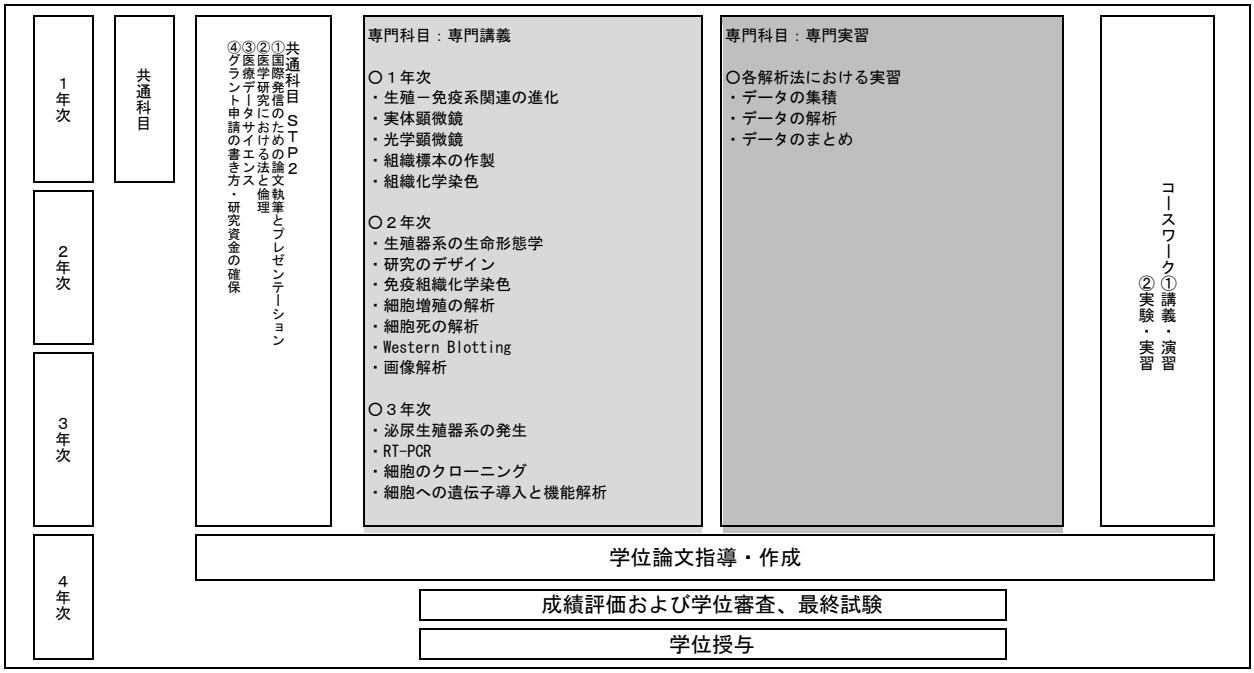
血液内科学
呼吸器内科学
循環器内科学
糖尿病・代謝・内分泌内科学
リウマチ・膠原病内科学
神経学
消化器内科学
消化器内視鏡学
内 科 系（呼吸器内科学（非開講）／代謝内科学／消化器内科学／腎臓内科学／臨床感染症学）
精神医学
小児科・思春期科学
皮膚科学
放射線医学
臨床検査医学
高齢総合医学
腎臓内科学

外科系

呼吸器・甲状腺外科学
乳腺科学
心臓血管外科学
消化器・小児外科学
消化器外科学
消化器外科・移植外科学
整形外科学
眼 科 学
泌尿器科学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
産科婦人科学
麻酔科学
脳神経外科学
口腔外科学
形成外科学
救急・災害医学

── 人 体 構 造 学 ──

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	伊藤　正裕	水・木・金 17:00～22:00	大学第1校舎2階　人体構造学分野　集会室
准 教 授	宮宗　秀伸		
講　　師	矢倉　富子		
講　　師	夏山裕太郎		
助　　教	河田　晋一		

備考：メール（anatomy@tokyo-med.ac.jp）か電話（東京医科大学 03-3351-6141、人体構造学分野（内）231）により、時間を調整してから来室すること。

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、生殖系－免疫系関連の実験医学を柱とし、「場の観察」を通して目に見えない「生命の理（まこと）」を読むことである。「分子－細胞－組織－器官－器官系－個体」という軸を持って whole body を観る眼を養っていきたい。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

講義を通じて生殖免疫系に関する基礎的な知識を習得する。顕微鏡を用いて細胞・組織を観察するための基本的な研究技術を身につける。適切な文献から必要な情報を収集しながら、研究領域に関する理解を深めると同時に、研究テーマを決める。

2 年次

講義を通じて生殖器系の形態機能に関する基礎的な知識を習得する。同時に生体内分子の評価手法として蛋白発現量や分布を評価する技術を習得する。研究テーマに沿って自ら研究計画を立案できるようにする。

3 年次

講義を通じて泌尿生殖器系の発生に関する基礎的な知識を習得する。2 年次に引き続き、生体内分子の評価手法として、DNA、RNA などの核酸を用いた技術を習得する。
これまでに習得した技術を用いて、細胞・組織レベルで正常発生における形態変化を評価する。

4 年次

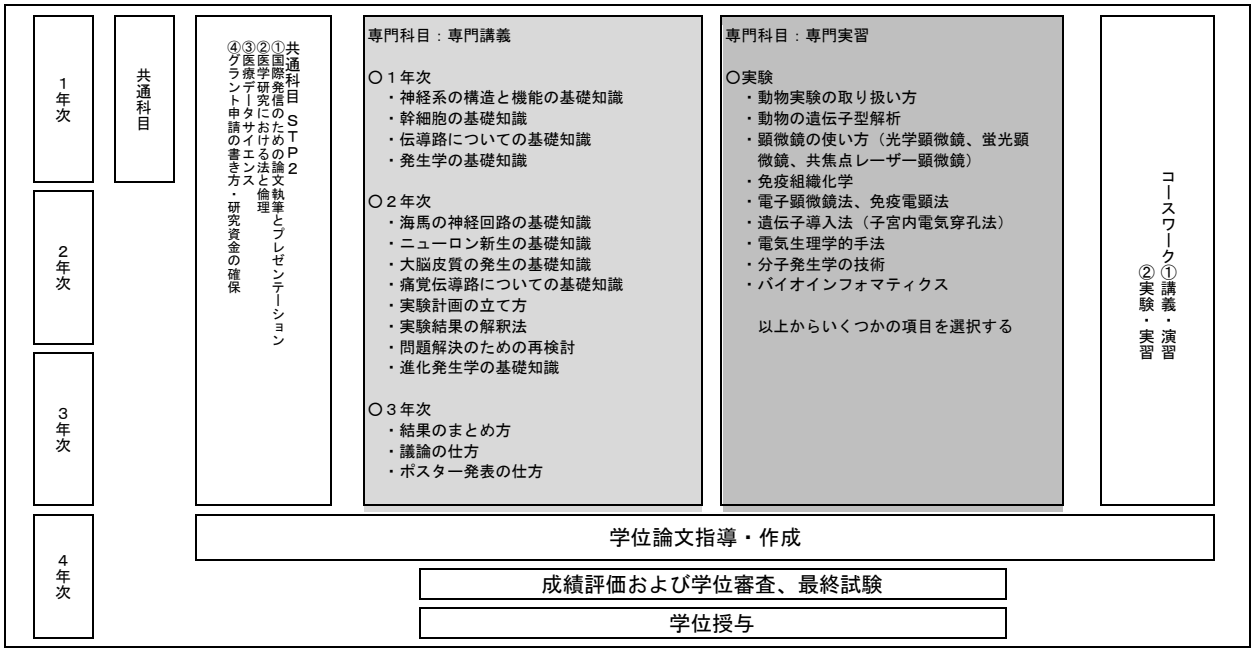
研究領域に関する理解をより深めると同時に、問題の解明のための議論をする。解析したデータを学会で発表し、博士論文としてまとめる。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	実験生殖医学と人体解剖学の新たな展開 1	伊藤正裕、宮宗秀伸、矢倉富子、夏山裕太郎、河田晋一	1	2
2	講・演	実験生殖医学と人体解剖学の新たな展開 2	伊藤正裕、宮宗秀伸、矢倉富子、夏山裕太郎、河田晋一	2	2
3	講・演	実験生殖医学と人体解剖学の新たな展開 3	伊藤正裕、宮宗秀伸、矢倉富子、夏山裕太郎、河田晋一	3	2
1	験・習	組織標本の作製・観察および分子レベルの解析 1	伊藤正裕、宮宗秀伸、矢倉富子、夏山裕太郎、河田晋一	1	5
2	験・習	組織標本の作製・観察および分子レベルの解析 2	伊藤正裕、宮宗秀伸、矢倉富子、夏山裕太郎、河田晋一	2	6
3	験・習	組織標本の作製・観察および分子レベルの解析 3	伊藤正裕、宮宗秀伸、矢倉富子、夏山裕太郎、河田晋一	3	2
4	験・習	組織標本の作製・観察および分子レベルの解析 4	伊藤正裕、宮宗秀伸、矢倉富子、夏山裕太郎、河田晋一	3-4	2

—— 組織・神経解剖学 ——

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	髙橋　宗春	月曜日　17：30～18：30	大学第1校舎2階　組織・神経解剖学教授室
准 教 授	大山　恭司		大学第1校舎2階　組織・神経解剖学
講　　師	北澤　宏理		
講　　師	篠原　広志		
講　　師	柏木　太一		
講　　師	権田　裕子		

Ⅲ．人材養成の目的

神経系の構造と機能あるいは進化・発生生物学に対する広範な知識を身につける。また、それらを研究するための、実験計画立案能力、研究技術、データ解析力、文献読解力、発見力、議論する力、発表力などを身につける。形態学的手法を中心とした研究技術を身につけ、そのデータを解析し、重要な発見を導く能力を養うことに重点を置く。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

・神経系の構造や機能と発生過程について学習する。
・発生学についての基礎知識を習得し、実験手技を習得する。
・脳幹網様体から痛覚に関与する細胞を電気生理学的手法を用いて同定する。

2 年次

・海馬の発生を組織学的、分子生物学的方法で解析する。
・頭頚部・脊索動物の発生について実験を開始する。
・研究に関連した英語論文を読む。
・動物実験を計画して実験を行う。

3 年次

・実験結果をまとめる。
・データの解析および統計学的処理を行う。
・複数の実験結果をまとめて、意味のある一連のストーリーを組み立てる。
・実験結果を検討して，追加実験を加える。

4 年次

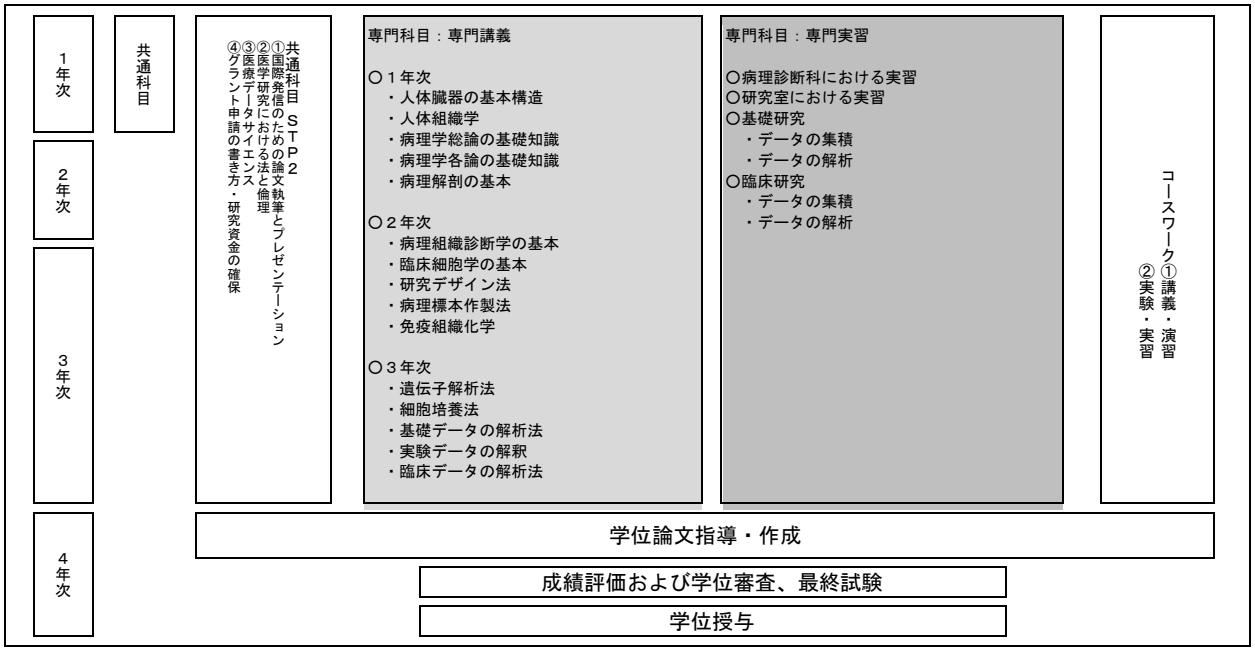
・学会や研究会での発表、論文作成、論文投稿を行う。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	発生学特論	髙橋　宗春	1	2
2	講・演	中枢神経系の発生	大山　恭司、篠原　広志	1	2
3	講・演	神経幹細胞と細胞移動	篠原　広志	2	2
4	講・演	疼痛を制御する中枢神経系の解剖と生理	北澤　宏理	3	2
1	験・習	分子発生学的解析法･バイオインフォマティクス	髙橋　宗春	1	4
2	験・習	神経幹細胞の未分化性維持と分化運命決定	柏木　太一	1-3	2
3	験・習	免疫組織化学法	大山　恭司	2	4
4	験・習	電気生理学的解析法	北澤　宏理	3	2
5	験・習	子宮内電気穿孔法	権田　裕子	3	4

―― 人 体 病 理 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	長尾　俊孝	月･火･水･金 9:00～18:00	病理診断科
教　　授	松林　　純		
准 教 授	高橋　礼典		
講　　師	谷川　真希		
助　　教	助田　　葵		
助　　教	榎本　　愛		
助　　教	平井　秀明		
助　　教	梶原真奈美		

Ⅲ．人材養成の目的

主要な疾患および基本的病変の原因、発生機序について、病理形態学的および分子病理学的に理解する。また、疾患の究明に必要な病理学的方法（病理解剖学、病理診断学、臨床細胞学、分子生物学など）を学び､臨床的事項と病理学的変化とを関連づけて考察する能力を修得する｡さらには、臨床の現場での病理専門医として活躍できる素養を身につける。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

・人体臓器の基本構造を習得する。
・人体組織学を習得する。
・病理学総論の基礎知識を理解する。
・病理学各論の基礎知識を理解する。
・病理解剖を経験し、そのまとめを行う。

2 年次

・病理組織診断学の基本を学ぶ。
・臨床細胞学の基本を学ぶ。
・継続して病理解剖を行う。
・病理標本作製法を習得する。
・免疫組織化学や遺伝子解析法を習得し、研究を進める。

3 年次

・各々の研究テーマに沿った基礎データの解析法を学ぶ。
・病理組織診断と細胞診断をスタッフの指導のもとで行う。
・病理解剖を継続して行う。

4 年次

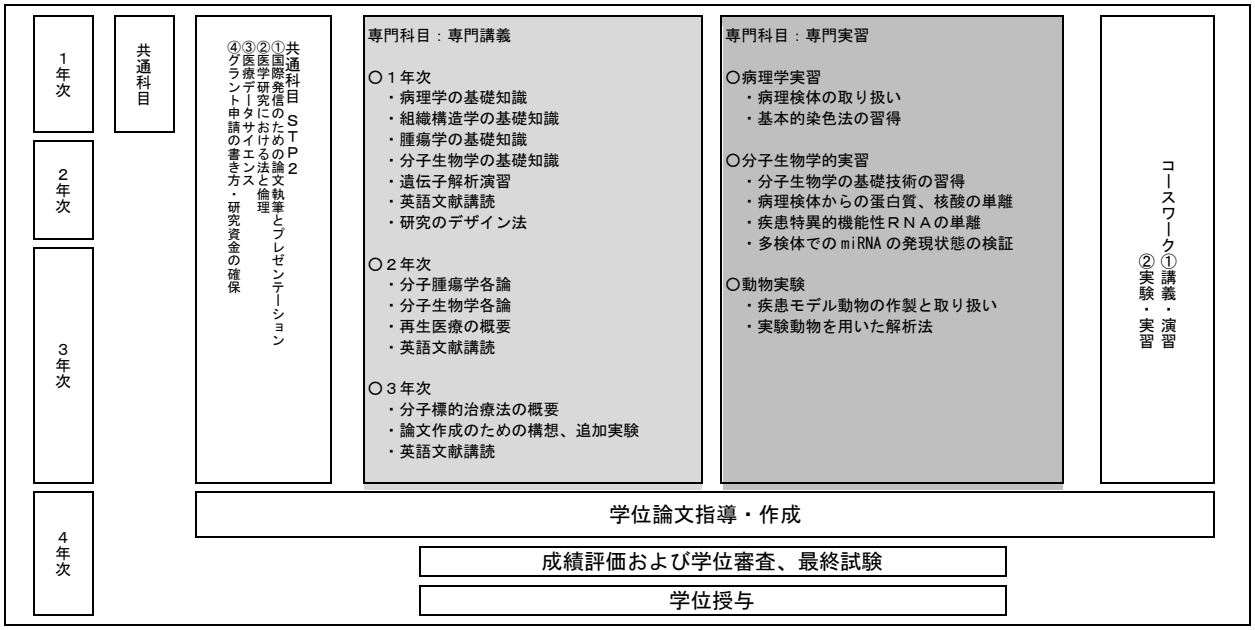
・研究成果をまとめて英語論文を作成し、投稿する。
・病理組織診断と病理解剖を継続して行う。
・病理組織診断学の分野での専門領域を確立する。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	人体病理学（病理診断学と病態解明の融合）1	長尾俊孝、松林　純、高橋礼典、 谷川真希、助田　葵、榎本　愛、 平井秀明、梶原真奈美	1	2
2	講・演	人体病理学（病理診断学と病態解明の融合）2	長尾俊孝、松林　純、高橋礼典、 谷川真希、助田　葵、榎本　愛、 平井秀明、梶原真奈美	2	2
3	講・演	人体病理学（病理診断学と病態解明の融合）3	長尾俊孝、松林　純、高橋礼典、 谷川真希、助田　葵、榎本　愛、 平井秀明、梶原真奈美	3	2
1	験・習	人体病理学（病理組織学・臨床病態・ゲノム解析）1	長尾俊孝、松林　純、高橋礼典	1	5
2	験・習	人体病理学（病理組織学・臨床病態・ゲノム解析）2	長尾俊孝、松林　純、高橋礼典	2	5
3	験・習	人体病理学（病理組織学・臨床病態・ゲノム解析）3	長尾俊孝、松林　純、高橋礼典	3-4	4

―― 分 子 病 理 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名 前	オフィスアワー	場 所
主任教授	黒田 雅彦	月･水･木･金 9:00～17:00	第1校舎2階 分子病理学 教授室
教 授	高橋 芳久	月･火･水･金 9:00～17:00	第1校舎2階 分子病理学 第5研究室
客員教授	中村 卓郎	－	－
講 師	大野慎一郎	月･火･水･木･金 9:00～17:00	第1校舎2階 分子病理学 第1研究室
講 師	梅津 知宏	月･火･水･木･金 9:00～17:00	第1校舎2階 分子病理学 第1研究室
講 師	藤倉 航平	月･火･水･木･金 9:00～17:00	第1校舎2階 分子病理学 第1研究室

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、疾患の発症メカニズムを解明し、診断や治療法の開発を遂行できる研究者の養成である。機能性 RNA を主軸とした分子生物学的なアプローチと、幹細胞などを用いた次世代医療の橋渡しをメインテーマとする。また、このような研究を通してトランスレーショナルリサーチを遂行できる研究者を育成する。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

基本的な病理検体の扱い方や病理標本の作製方法を習得する。さらに、分子生物学の基礎知識と技術について講義と実習を通じて習得する。

2 年次

分子生物学的な技術を用いて、腫瘍の発症メカニズムや分子標的治療を目標とした研究計画を考える。具体的には病理検体から miRNA の発現を確認し、疾患との関わりを解析する。

3 年次

2 年次に計画した研究を具体化し、データの解析や実験結果から研究の方向性や考え方について、ディスカッションを行いながら、成果をまとめていく。

4 年次

研究成果をまとめるための、英語論文の作成法を学習する。論文用の図の作成の仕方、文章の書き方を通して、年度内の雑誌投稿を目標とする。

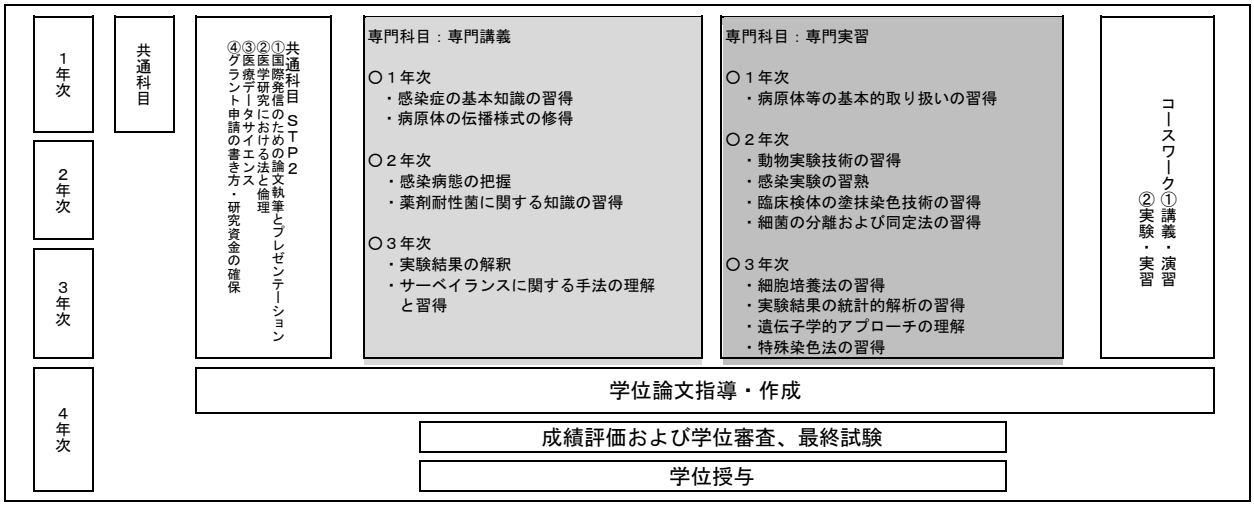
Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
2	講・演	病理学概論	高橋　芳久	1	2
3	講・演	腫瘍学概論	黒田　雅彦	2	2
5	講・演	分子腫瘍学各論	高橋　芳久	3	2
1	験・習	分子生物学実習	梅津　知宏、大野　慎一郎	1	5
3	験・習	病理検体の取り扱い操作	高橋　芳久、中村　卓郎	2	5
4	験・習	病理組織標本の見方	黒田　雅彦、中村　卓郎、藤倉　航平	3-4	4

―― 微 生 物 学 ――

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	中村　茂樹	月　11:00～12:00	微生物学分野　集会室
教　　授	大楠　清文	月･火　11:00～12:00	微生物学分野　集会室
准 教 授	柴田　岳彦	月･火　11:00～12:00	微生物学分野　集会室
准 教 授	宮﨑　治子	月　11:00～12:00	微生物学分野　集会室
助　　教	犬飼　達也	月　11:00～12:00	微生物学分野　集会室

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

感染症の基礎となるべき微生物学の知識や技術を習得すると共に､感染実験を通じて病態を把握し､得られたデータをもとに適切にその評価を行い､以後の実験計画を自主的に立案できる人材を育成する。

【社会人大学院】

院内感染やその他の臨床的に問題となっている感染症に実践的にアプローチし､必要なデータを収集するとともにその解析を行い、問題解決の方法を提案できる人材を育成する。

Ⅳ．教育プログラム

【一般大学院】

1 年次

微生物学としての基礎的知識を身につけ、病原体の扱い方（培養および染色法など)や殺菌・滅菌法を習得する。またマウス等の動物の扱い方についてもトレーニングを受ける。

2 年次

予備的実験を繰り返しながら、感染実験（*in vivo* および *in vitro*）の基礎的手技を修得する。

3 年次

本格的に実験を行いながら、得られたデータをもとに統計学的解析を加え、結果を正しく評価できるようにする。

4 年次

英語による論文の作成について、自ら取り組みながらその基本的な手順を理解する。

【社会人大学院】

1 年次

微生物学としての基礎的知識を身につけ、病原体の扱い方（培養や染色法など）や殺菌・滅菌法を習得する。現在、自分の職場（医療施設）で起こっている感染症に関わる問題点を指摘し、その状態を科学的にとらえる方法について考える。

2 年次

サンプリングした各種の臨床検体から微生物の培養を行い、遺伝子学的検査等による菌株の最終同定や薬剤感受性の評価までの一連の流れについて理解し、実践することができる。

3 年次

得られた結果を基に、感染対策上の取り組みを改善し、それによって生じた変化や結果を解析する。

4 年次

論文作成の手法を学び、学会等でのプレゼンテーションの能力を高める。

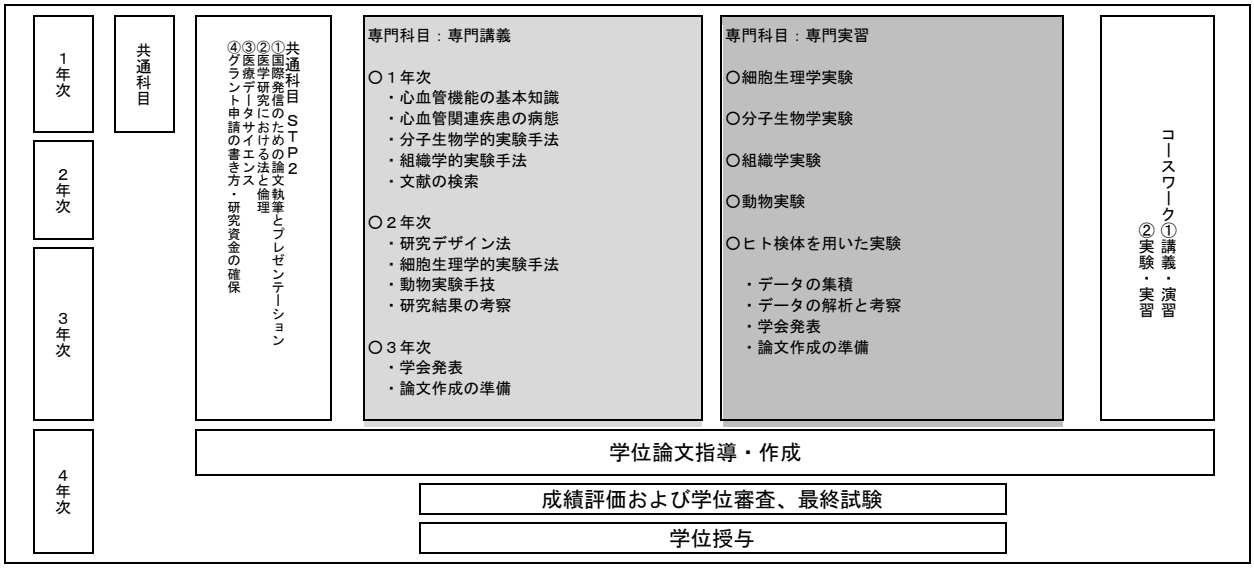
Ⅴ．授業科目・内容

【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	感染病態総論	中村茂樹、大楠清文、柴田岳彦、犬飼達也	1	2
2	講・演	細菌学総論	大楠清文、柴田岳彦、犬飼達也	2	2
3	講・演	感染免疫学総論	柴田岳彦	3	2
1	験・習	感染症実験 1	柴田岳彦、宮﨑治子、犬飼達也	1	5
2	験・習	感染症実験 2	柴田岳彦、宮﨑治子、犬飼達也	2	5
3	験・習	感染症実験 3	柴田岳彦、宮﨑治子、犬飼達也	3-4	4

―― 細 胞 生 理 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	横山　詩子	木曜日　16:30～17:30	細胞生理学分野　教授室
准 教 授	内田　敬子	木曜日　16:30～17:30	細胞生理学分野　第4研究室
講　　師	井上　　華	木曜日　16:30～17:30	細胞生理学分野　第4研究室
講　　師	中村　　隆	木曜日　16:30～17:30	細胞生理学分野　第4研究室

Ⅲ．人材養成の目的

本コースは、生理学者を養成するのみならず、基礎医学の研究に興味をもち生体の制御メカニズムに基づいて病態を探求できる臨床医師を養成することを目的とする。大学院での研究を通じて、論理的に問題点を把握し、自ら研究計画を立案・実行できる能力を養う。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

①生理学に関する論文を読み、研究の背景および国内外の現状を述べることができる。
②実験室で必要な基本的手技を習得する。
③研究テーマを決定し、研究計画をたてる。

2 年次

①研究テーマについて、研究計画をたて、実験を行う。
②データ解析し、現在までに得られている知見と照らし合わせて考察できる。
③学会発表に必要なプレゼンテーション原稿の作成ができる。

3 年次

①実験結果をもとに、必要な実験計画を提起できるようになる。
②研究の成果を学会で発表する（東京医大医学会総会、日本生理学会大会など)。
③論文執筆の準備を行う。

4 年次

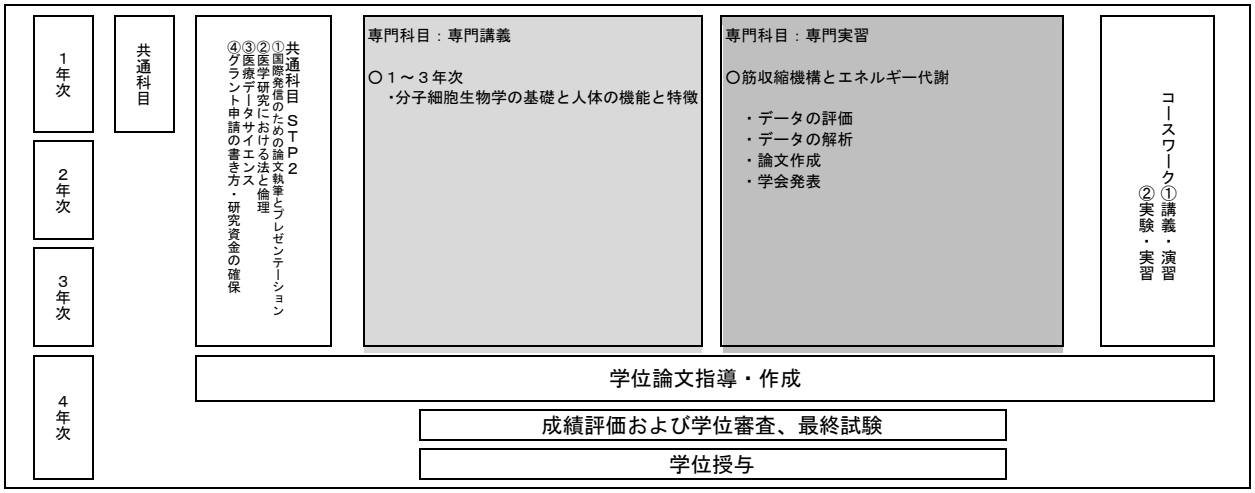
①学位論文を作成し、投稿する。
②論文の改訂に必要な追加実験を行う。
③最終的に論文が受理されるまで、4 年次の①②を繰り返す。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	心血管生理学総論 1	横山詩子、内田敬子、井上 華、中村 隆	1	2
2	講・演	心血管生理学総論 2	横山詩子、内田敬子、井上 華、中村 隆	2	2
3	講・演	心血管生理学総論 3	横山詩子、内田敬子、井上 華、中村 隆	3	2
1	験・習	各種遺伝子改変による細胞外基質産生能と細胞遊走能、血管機能の変化の測定 1	横山詩子、内田敬子、井上 華、中村 隆	1	5
2	験・習	各種遺伝子改変による細胞外基質産生能と細胞遊走能、血管機能の変化の測定 2	横山詩子、内田敬子、井上 華、中村 隆	2	5
3	験・習	各種遺伝子改変による細胞外基質産生能と細胞遊走能、血管機能の変化の測定 3	横山詩子、内田敬子、井上 華、中村 隆	3-4	4

―― 病 態 生 理 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	林　由起子	事前にメールで日程調整	基礎新館5階　集会室
准 教 授	川原　玄理	月･火･水･木･金 10:00～16:00	基礎新館5階　集会室
講　　師	和田　英治	月･火･水･木･金 10:00～16:00	基礎新館5階　集会室

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、研究倫理を尊重し、幅広い視野を持った研究者の育成である。テーマに沿って研究を進めると同時に、自ら問題点や疑問点を見いだし、その解決方法を考え、さらに独自の研究を発展させる能力を養う。基礎医学的視点からの疾患の理解と病態解明、新たな診断法や治療法の開発といった臨床応用につながる研究まで多角的な視野に立って研究に取り組む力を養う。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

関連文献の検索を行い、研究テーマの背景を理解し、問題点を明らかにする。研究テーマに関連する事柄について科学者として議論できる基礎知識を培う。生理学、分子生物学、生化学、組織学に関する基礎実験手技を習得する。研究倫理を身につける。

2 年次

研究テーマを発展させ、自分で考察し、実験計画を立てることが出来るようにする。学会発表に必要なプレゼンテーション原稿の作成が出来るようにする。

3 年次

論文作成を自分で行えるように作成方法を習得する。実験結果をもとに自分で考え発展させるべく新たな実験テーマを提起出来るようにする。

4 年次

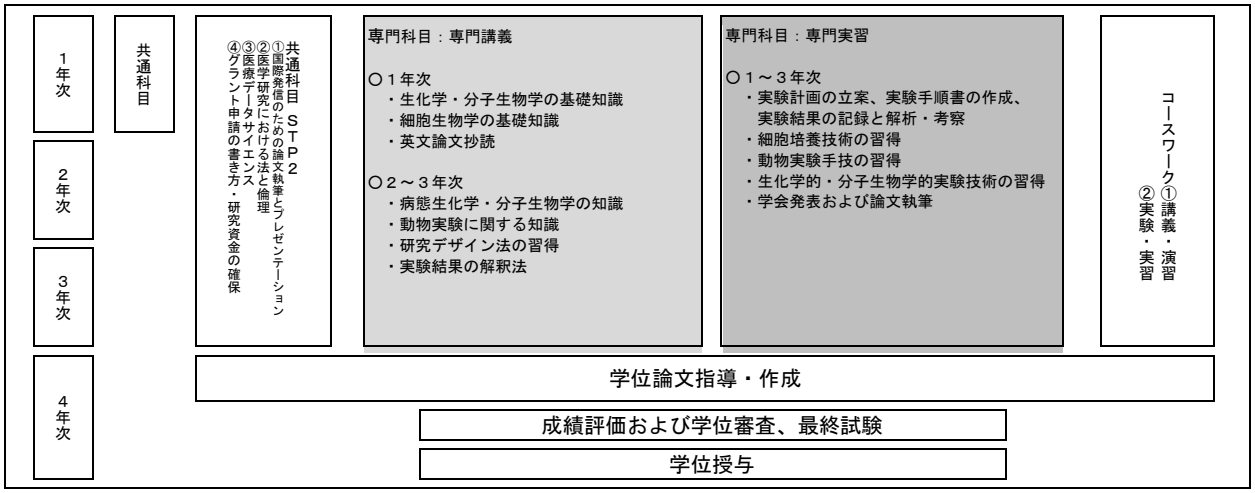
論文作成、投稿および学会発表を行えるようにする。研究に関する議論を英語で行えるようにする。実験計画を自分で立て遂行することが出来るようにする。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	分子･細胞生物学の基礎と人体の機能と特徴 1	林由起子、川原玄理、和田英治	1	2
2	講・演	分子･細胞生物学の基礎と人体の機能と特徴 2	林由起子、川原玄理、和田英治	2	2
3	講・演	分子･細胞生物学の基礎と人体の機能と特徴 3	林由起子、川原玄理、和田英治	3-4	2
1	験・習	筋収縮機構とエネルギー代謝 1	林由起子、川原玄理、和田英治	1	5
2	験・習	筋収縮機構とエネルギー代謝 2	林由起子、川原玄理、和田英治	2	5
3	験・習	筋収縮機構とエネルギー代謝 3	林由起子、川原玄理、和田英治	3-4	4

―― 生　化　学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	伊藤美智子	常時	大学第1校舎1階　生化学分野　教授室
教　　授	平本　正樹	常時	大学第1校舎1階　生化学分野　第一研究室
准 教 授	高野　直治	常時	大学第1校舎1階　生化学分野　第一研究室

備考：メール（伊藤：ito.michiko.3r@, 平本：hiramoto@, 高野：ntakano@, @マーク以降は全て tokyo-med.ac.jp）か電話（東京医科大学 03-3351-6141、(内) 244）により、時間を調整してから来室すること。

Ⅲ．人材養成の目的

生化学研究の醍醐味は目に見えない自然のメカニズムを実験を通して論理的に解明していくことにある。そのためには繰り返し実験を行ない、洞察力、想像力を養うプロセスが大切である。本コースではこのような観点から、生化学の基礎的実験より始め、最先端の実験まで時間をかけておこない、新しい医学的発見に結びつく研究を遂行する能力をもち、またそれをデザインできる人材を養成する。またその養成プロセスで新規の医学的発見を見出すことを大きな目的とする。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

１．生体恒常性の維持機構を生化学的・分子生物学的視点から学ぶ。
２．恒常性維持機構の破綻によりもたらされる疾患の成り立ちを理解する。
３．研究テーマを決定し、計画を立てる。
４．生化学、分子生物学、組織学に関する基礎実験手技を獲得する。

2 年次

１．研究テーマについて研究計画を立て、実験を行う。
２．実験結果と既知の知見を照らし合わせて考察できるようになる。
３．研究テーマを発展させるための文献検索、情報収集ができる。

3 年次

１．実験結果をもとに考察を加え、必要な実験計画を提起できるようにする。
２．プレゼンテーション技術を習得し、学会発表を行う。
３．論文執筆の準備を行う。

4 年次

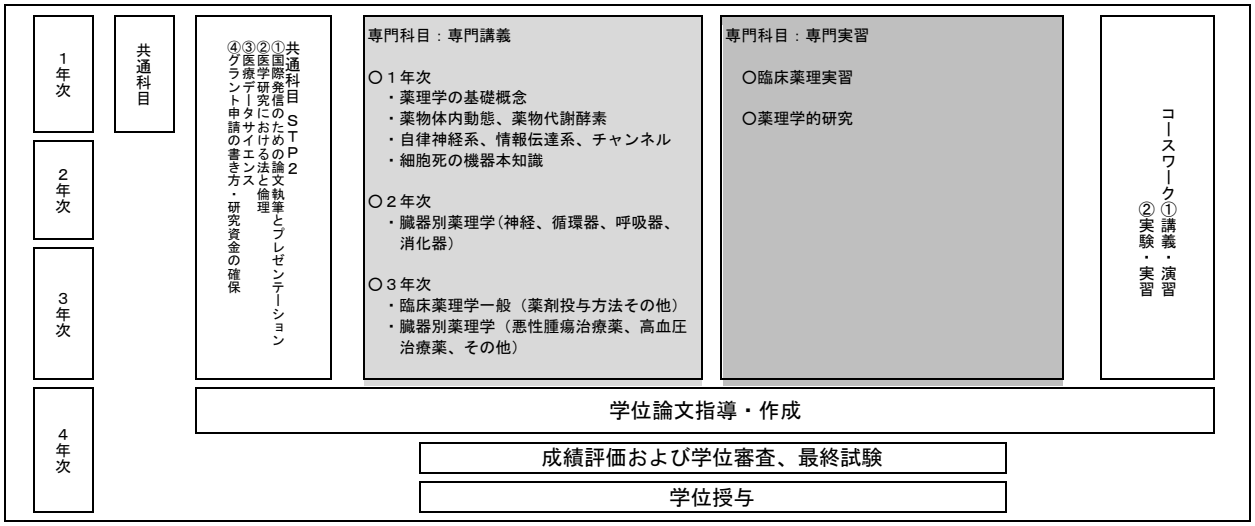
１．論文を作成し、投稿する。
２．論文受理に向けた追加実験を行う。

Ⅴ．授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	基礎生化学	平本　正樹	1	3
2	講・演	病態生化学	伊藤　美智子	2	3
1	験・習	タンパク質の機能解析 1	平本　正樹	1	4
2	験・習	タンパク質の機能解析 2	平本　正樹	2	4
3	験・習	分子標的薬の作用機序	高野　直治	3-4	6

―― 薬　理　学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	金蔵　孝介	各講義実習終了後より	薬理学分野　教室
准 教 授	鈴木　宏昌	各講義実習終了後より	薬理学分野　教室
講　　師	草苅　伸也	各講義実習終了後より	薬理学分野　教室
講　　師	名和　幹朗	各講義実習終了後より	薬理学分野　教室

備考：薬理学教室に連絡してください。(03-3351-6141、(内) 325)

Ⅲ．人材養成の目的

現代薬理学の基本を学び､新しい創薬に向けての最先端薬理学研究の方法や考え方を身につける。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

薬物療法の基本を学ぶ。薬理学的研究方法の基本を学ぶ。筋萎縮性側索硬化症等の神経変性疾患研究を行う。

2 年次

臓器別薬理学を理解する。分子生物学的研究手法を学ぶ。神経変性疾患研究を行う。

3 年次

臨床薬理学を学ぶ。神経変性疾患研究を行う。最先端薬剤開発研究を行う。

4 年次

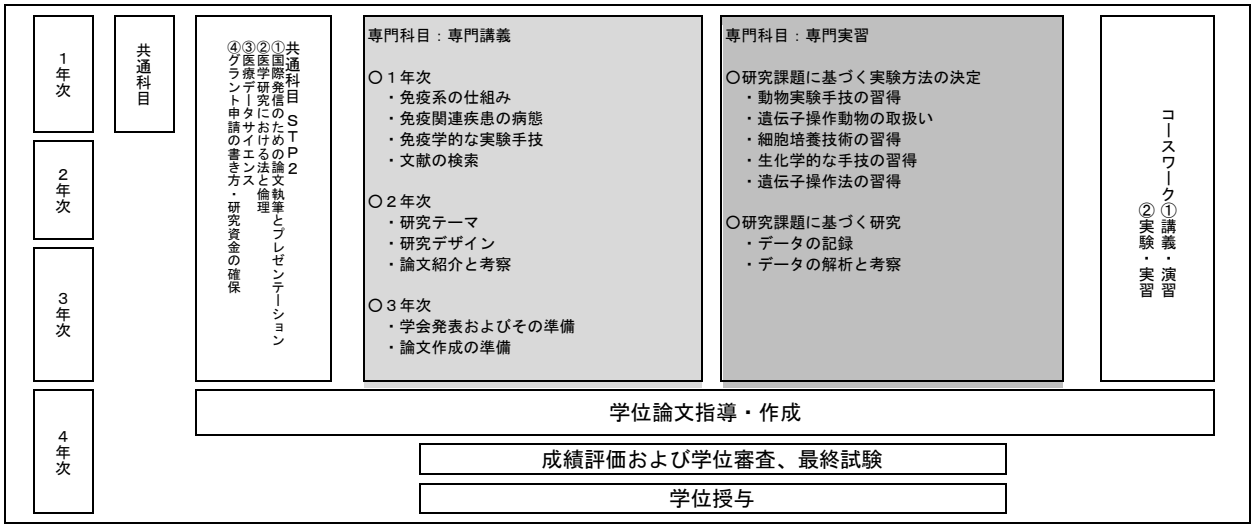
現代創薬の最新事情を学ぶ。神経変性疾患研究を行う。最先端薬剤開発研究を行う。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	薬理学基本概念	金蔵孝介、鈴木宏昌、草苅伸也、名和幹朗	1	2
2	講・演	臓器別薬理学	金蔵孝介、鈴木宏昌、草苅伸也、名和幹朗	2	2
3	講・演	臨床薬理学	金蔵孝介、鈴木宏昌、草苅伸也、名和幹朗	3	2
1	験・習	細胞培養	金蔵孝介、鈴木宏昌、草苅伸也、名和幹朗	1-3	4
2	験・習	遺伝子操作	金蔵孝介、鈴木宏昌、草苅伸也、名和幹朗	1-3	4
3	験・習	遺伝子改変動物実験	金蔵孝介、鈴木宏昌、草苅伸也、名和幹朗	1-3	6

―― 免　疫　学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	横須賀　忠	月～金　9:00～23:00	中央校舎4階　免疫学分野教授室
准 教 授	竹内　　新	月～金　7:00～18:00	第三校舎4階　免疫学分野第一研究室
准 教 授	若松　　英	月～金　7:00～18:00	第三校舎4階　免疫学分野第一研究室
講　　師	町山　裕亮	月～金　9:00～20:00	第三校舎4階　免疫学分野第一研究室
講　　師	西嶋　　仁	月～金　9:00～20:00	第三校舎4階　免疫学分野第一研究室

Ⅲ．人材養成の目的

免疫反応の基本的な仕組みを理解し、それに基づいて実験をデザイン・遂行し、得られた結果を科学的に考察できる能力を涵養する。免疫系による生体防御機構を理解すると共に、それを基盤とする免疫関連疾患・がんとの病態解明や治療法・予防法の開発を担える人材育成を目的とする。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

１．免疫反応の基本的な仕組みを学ぶ。
２．免疫異常によってもたらされる疾患（アレルギー、自己免疫疾患など）の病態を学ぶ。
３．研究分野に関する論文を検索し、論文の内容を理解する。
４．免疫学的な実験手技（細胞培養、フローサイトメトリー、ウエスタンブロット、PCR など）を習得する。

2 年次

１．研究分野に関連する情報を収集し、研究課題を決定する。
２．実験計画を立案する。
３．計画に基づいて実験を行い、得られた結果について考察を加える。
４．研究グループ内で研究成果の発表や論文紹介を行う。

3 年次

１．考察に基づいて実験計画を適宜修正する。
２．原著論文作成に向けて必要な実験を追加し、得られた結果を考察する。
３．研究会や学会などでの発表に向けて準備する。
４．大学院研究科での中間発表や国内の学会で成果を発表し今後の実験計画を説明する。

4 年次

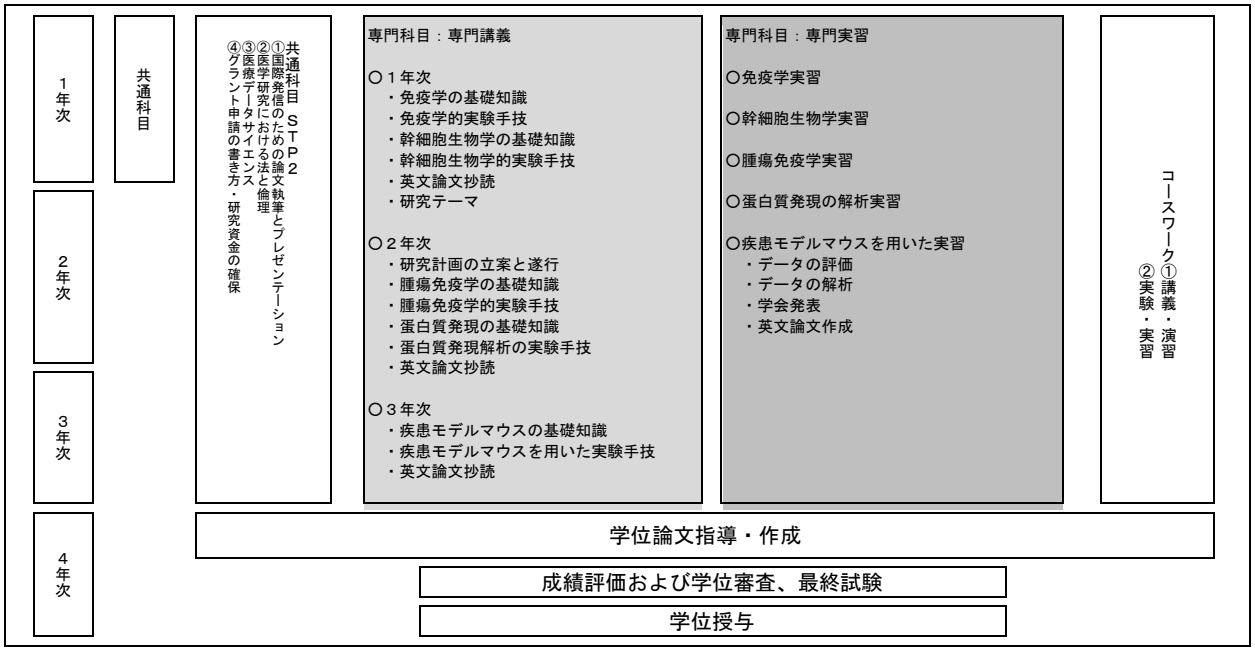
１．研究成果を国内外の学会で発表する。
２．原著論文を免疫学関連の雑誌に投稿する。

Ⅴ．授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	腫瘍免疫の理解と治療への応用 1	横須賀忠、竹内　新、若松　英、町山裕亮、 西嶋　仁	1	2
2	講・演	腫瘍免疫の理解と治療への応用 2	横須賀忠、竹内　新、若松　英、町山裕亮、 西嶋　仁	2	2
3	講・演	腫瘍免疫の理解と治療への応用 3	横須賀忠、竹内　新、若松　英、町山裕亮、 西嶋　仁	3-4	2
1	験・習	腫瘍免疫の理解と治療への応用 1	横須賀忠、竹内　新、若松　英、町山裕亮、 西嶋　仁	1	5
2	験・習	腫瘍免疫の理解と治療への応用 2	横須賀忠、竹内　新、若松　英、町山裕亮、 西嶋　仁	2	5
3	験・習	腫瘍免疫の理解と治療への応用 3	横須賀忠、竹内　新、若松　英、町山裕亮、 西嶋　仁	3-4	4

―― 免 疫 制 御 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名 前	オフィスアワー	場 所
教 授	善本 隆之	月～金 16:00～17:00	中央校舎4階 医総研・免疫制御 教授室
講 師	溝口 出	月～金 16:00～17:00	中央校舎4階 医総研・免疫制御 研究室

Ⅲ．人材養成の目的

免疫反応の基本的原理を解明し、それを基に生体内での免疫反応を人為的に制御する方法の開発を目指し、国際的にも活躍する研究者の育成を目的とする。そのため、まず、必要な実験手技を習得し、実験を行い、その結果を評価して次の実験を考え、また、その間の問題点を見出しそれを解決し、さらに、得られた結果をオリジナリティーの高い研究に発展させていく能力を養う。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

１．研究テーマに関する文献を検索し、研究の背景を理解する。
２．実験手技を習得する。
３．研究テーマを決める。

2 年次

１．研究計画を立て、実験を行う。
２．得られた結果を評価する。
３．実験の問題点を見出す。

3 年次

１．実験の問題点を解決する。
２．得られた結果を、よりオリジナリティーの高い研究に発展させる。
３．研究結果を国内の学会で発表する。

4 年次

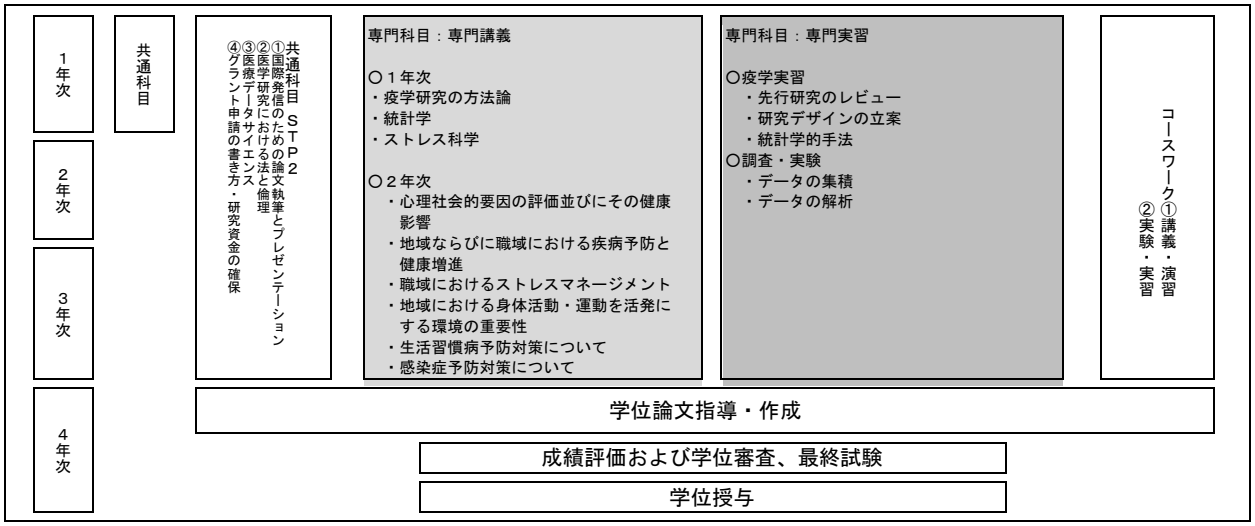
１．英文論分を作成し、投稿する。
２．レビューアーのコメントに対応する。
３．研究結果を国外の学会で発表する。

Ⅴ．授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	免疫制御学総論	善本　隆之	1	2
2	講・演	幹細胞生物学総論	善本　隆之	1	2
3	講・演	腫瘍免疫学総論	善本　隆之	1	2
4	講・演	疾患モデルマウス総論	善本　隆之	1	2
5	講・演	蛋白質の品質管理機構総論	溝口　出	1	2
1	験・習	抗原特異的Ｔ細胞の機能解析	溝口　出	1	2
2	験・習	抗腫瘍免疫反応の機能解析	溝口　出	1	2
3	験・習	自己免疫・炎症性疾患モデルマウスを用いた解析	溝口　出	1	2
4	験・習	腫瘍・アレルギー疾患モデルマウスを用いた解析	溝口　出	1	2
5	験・習	神経障害モデルマウスを用いた解析	溝口　出	1	2
6	験・習	造血幹細胞の精製と機能解析	溝口　出	1	2
7	験・習	蛋白質発現と機能の解析	溝口　出	1	2

―― 公 衆 衛 生 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名 前	オフィスアワー	場 所
主任教授	井上 茂	木曜日 10:30～11:30	公衆衛生学分野 研究室
准 教 授	高宮 朋子	木曜日 10:30～11:30	公衆衛生学分野 研究室
准 教 授	福島 教照	木曜日 10:30～11:30	公衆衛生学分野 研究室
准 教 授	菊池 宏幸	木曜日 10:30～11:30	公衆衛生学分野 研究室
准 教 授	町田 征己	木曜日 10:30～11:30	公衆衛生学分野 研究室
講 師	小田切優子	木曜日 10:30～11:30	公衆衛生学分野 研究室

Ⅲ．人材養成の目的

公衆衛生は集団の生を衛るものであるという本質を理解し、様々な健康問題を社会的視点から捉え、健康問題発生の原因究明のための手法である疫学の知識と手法を活用して研究を行い、問題解決していく実践的能力を備えた人材を育成する。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

社会医学としての公衆衛生の専門的な知識・技術を指導する。
また、研究テーマ選定・フレームワーク作成に関する指導、研究に必要な文献調査、研究テーマに応じた適切なデータ収集と解析方法についての学習指導を行う。

2 年次

研究テーマ・フレームワークに応じた指導を行い、論文執筆計画を策定し、研究の進行と成果について助言・指導を行う。
① 先行研究レビューのプレゼンテーションをとおして、公衆衛生学の研究方法についての知識を深化させる。
② 研究テーマの精緻化､研究方法等の具体化についての検討､実施可能な研究計画の立案が出来るようにする。
③ 実験・調査の実施
④ データ解析

3 年次

研究の進展と成果について助言・指導を行う。
① 学会発表の指導
② 研究成果の東京医科大学医学会総会及び公衆衛生関連学会での発表
③ 論文執筆および投稿に関する指導

4 年次

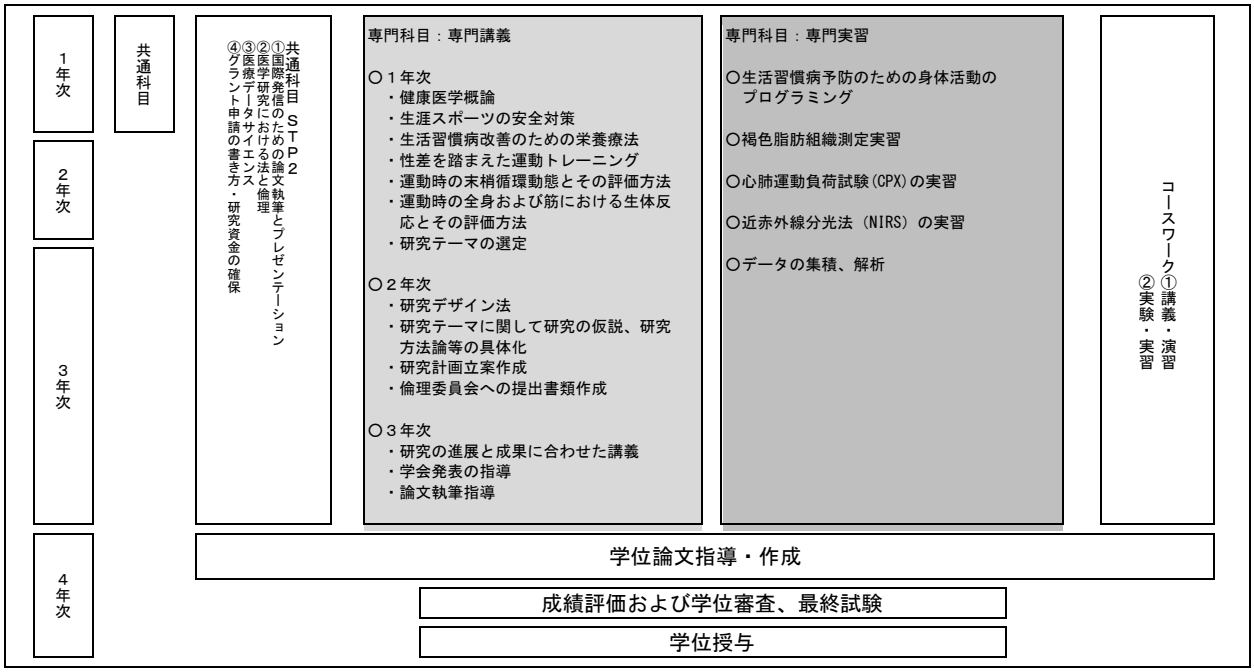
3 年次までに習得された知識・スキル、研究論文作成法を活用して、最終的な学位論文を完成させる。
① 研究成果の海外での学会発表
② 論文修正に関する指導・助言

Ⅴ．授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	疫学研究の計画について	井上　　茂	1	2
2	講・演	疫学研究における統計学的手法について	福島　教照	1	2
3	講・演	生活習慣病と危険因子についての疫学的研究	高宮　朋子	2	2
4	講・演	感染症の予防と対策に関する疫学的検討	町田　征己	2	2
5	講・演	産業保健における心理社会的要因の健康に及ぼす影響	小田切　優子	2	2
6	講・演	行政における公衆衛生施策とその疫学的評価	菊池　宏幸	3	2
1	験・習	疫学実習：疫学研究デザイン	井上　　茂	1	2
2	験・習	疫学実習：EBM に基づく文献レビュー	町田　征己	1	2
3	験・習	疫学実習：調査の実施	小田切　優子	2	2
4	験・習	疫学実習：統計学的手法Ⅰ（基礎編）	福島　教照	2	3
5	験・習	疫学実習：解析、考察	高宮　朋子	3	2
6	験・習	疫学実習：統計学的手法Ⅱ（応用編）	菊池　宏幸	3	3

—— 健康増進スポーツ医学 ——

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	濵岡　隆文	木曜日 17:00 以降	大学第1校舎3階健康増進スポーツ医学分野
講　　師	木目良太郎	木曜日 17:00 以降	大学第1校舎3階健康増進スポーツ医学分野
講　　師	黒澤　裕子	木曜日 17:00 以降	大学第1校舎3階健康増進スポーツ医学分野
特任助教	布施沙由理	木曜日 17:00 以降	大学第1校舎3階健康増進スポーツ医学分野

備考：メールか電話によりアポイントをとってから来室すること。

電話　03-3351-6141（内）420
E-Mail　whoccsm@tokyo-med.ac.jp

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、スポーツ医学、予防医学を中心とした健康維持・増進に対するアプローチ、専門的な知識及び技術を習得し、医療のみならず、広く社会に貢献できる医師・研究者・教育者を養成することである。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

講義により健康予防医学についての基礎的な知識、生活習慣病の改善、心大血管リハビリテーション等の臨床応用について学習するとともに、実習により実践的手技を習得する。また、運動時の生体反応についても理解を深め、研究テーマ選定の基礎となる知識を身につける。

2 年次

選定した研究テーマについて、研究デザインを作成する。研究の仮説や、方法論を具体化し、実習により必要な手技を習得する。

3 年次

研究の進展と成果に合わせ、講義、助言を行い、データの集積と解析を進める。

4 年次

担当教員の指導により、学位論文の作成を行う。

Ⅴ．授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	健康医学総論	濵岡　隆文	1	1
2	講・演	生涯スポーツの安全対策	濵岡　隆文	1	1
3	講・演	生活習慣病改善のための栄養療法	黒澤　裕子	2	1
4	講・演	性差を踏まえた運動トレーニング	布施沙由理	2	1
5	講・演	運動時における呼吸・循環応答	木目良太郎	3	1
6	講・演	運動時の全身および筋における生体反応	木目良太郎	3	1
1	験・習	生活習慣病予防のための身体活動のプログラミング	布施沙由理	1	5
2	験・習	褐色脂肪組織測定実習	黒澤　裕子	2	5
3	験・習	心肺運動負荷試験（CPX）実習	濵岡　隆文	3-4	2
4	験・習	近赤外線分光法（NIRS）実習	木目良太郎	3-4	2

―― 法　医　学 ――

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	内ヶ﨑西作	月～金　10:00～17:00	法医学教室（大学 基礎新館7階）
特任教授	黒崎久仁彦	－	－
客員准教授	鉄　　堅	月～金　10:00～17:00	法医学教室（大学 基礎新館7階）

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

法医学とは、社会の中での人の権利を定めている法律が絡む問題について医学を応用して解決に導くことを目的とした学問です。そのような判断は、裁判をひかえた問題の場合には「鑑定」として行われます。つまり鑑定の結果次第により冤罪を生み出す可能性もあり、法医鑑定を正しく行うことは法医学者の使命であるとともに社会の要望でもあります。社会生活の中で最も重要な権利は「生存権」です。従って他人に生存権を脅かされたのか否かを判断する「死因究明」は最も重要な実務であり研究課題です。それから派生する病態生理や中毒学、災害死や医療事故死の原因究明や再発予防、そして身元がわからない方の身元を明確にする個人識別も重要な研究問題です。さらに、死者だけでなく生者が「健康で安全・安心して生きる権利」が脅かされる傷害事件や様々な虐待への対応も社会が法医学に求めるニーズです。法律と医療の関わりにつても法医学に意見が求められ

る場合があります。研究手法についても、病理学・生理学・薬理学・遺伝学・微生物学の手法を用いたり、種々の工学系の手法や人文科学的な手法が応用されています。つまり、法医学は想像以上に幅の広い学問なのです。一般大学院生は６年制の学部（医学、歯学、獣医学又は薬学）の卒業生（及び卒業見込のも）が対象であり、それらの専門それぞれに研究課題が存在します。専門や職種を活かして、研究・実務を通じた社会貢献できる人材を養成します。

【社会人大学院】

法医学の場合、修士課程の大学院を卒業した者（若しくは卒業予定の者）は社会人大学院生として受け入れが可能です。より幅の広い専門・職種の方に、法医学の視点での研究や実務を深く学ぶことで、法医学の中でも医師・歯科医師などではカバーできない範囲の専門家、若しくは元々の職種の中で法医学の視点を持った貴重な存在として活躍できる人材を育成します。

Ⅳ．教育プログラム

【一般大学院】

1 年次

症例に関する文献検索･読解･説明を通して、診断法を学び、事例報告の方法を学ぶ。動物実験の論文を読み、計画を立て、実行する過程を学ぶ。研究者倫理を理解･実践できるよう努める。研究テーマを絞って論文を集めて計画を立て、予備的な研究・実験を実施して 12 月～１月頃に現状までの学びと今後の展望を報告する。

2 年次

1 年次の学習を継続し、学会発表できるようにする。

3 年次

2 年次の学習を継続し、論文を執筆できるようにする。

4 年次

3 年次の学習を継続し、論文の修正までのプロセスを指導を受けながら、自ら実施できるようにする。

【社会人大学院】

1 年次

自分の今までのスキルを最大限に活かした法医学に関する研究テーマ模索する。法医学関連の学会発表および論文作成のみならず、自分のバックグランドである分野でも学会発表および論文作成ができるようにする。症例に関する文献検索･読解･説明を通して、診断法を学び、事例報告の方法を学ぶ。動物実験の論文を読み、計画を立て、実行する過程を学ぶ。研究者倫理を理解･実践できるよう努める。

2 年次

1 年次の学習を継続し、学会発表できるようにする。

3 年次

2 年次の学習を継続し、論文を執筆できるようにする。

4 年次

3 年次の学習を継続し、論文の修正までのプロセスを指導を受けながら、自ら実施できるようにする。

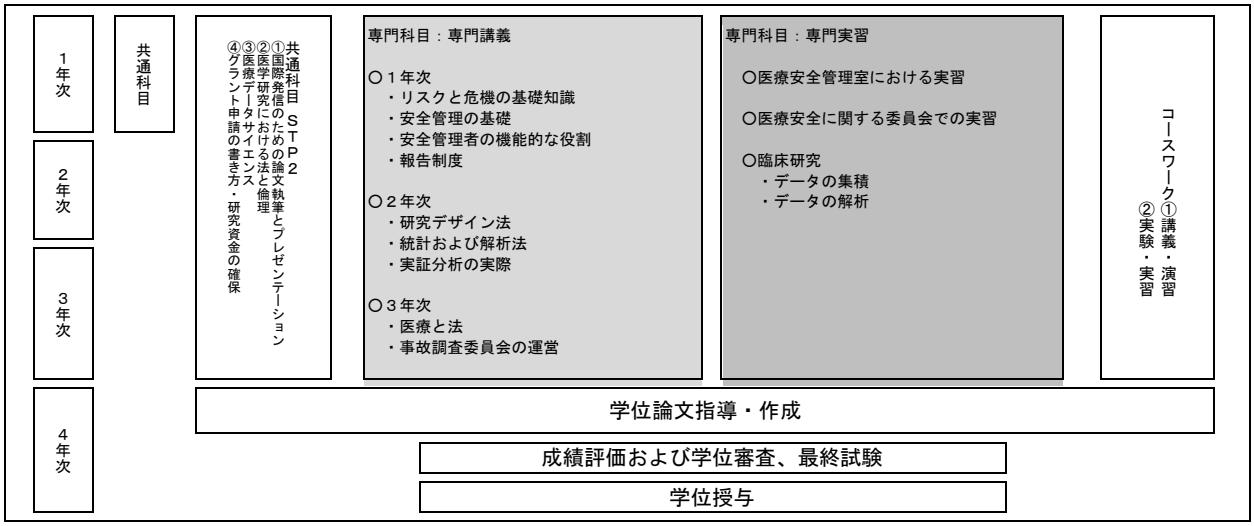
Ⅴ．授業科目・内容

【一般大学院】

No	講・演 験・習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	研究・事例検討会	内ヶ﨑　西作、鉄　堅	1-3	2
2	講・演	論文抄読会	内ヶ﨑　西作、鉄　堅	1-3	2
3	講・演	法医学講義 1	内ヶ﨑　西作、鉄　堅	1	2
4	講・演	法医学講義 2	内ヶ﨑　西作、黒崎　久仁彦、鉄　堅	2	2
5	講・演	法医学講義 3	内ヶ﨑　西作、鉄　堅	3-4	2
1	験・習	法医学総合実習 1	内ヶ﨑　西作、鉄　堅	1	5
2	験・習	法医学総合実習 2	内ヶ﨑　西作、鉄　堅	2	5
3	験・習	法医学総合実習 3	内ヶ﨑　西作、鉄　堅	3-4	4

―― 医療の質・安全管理学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	浦松　雅史	火曜日　13:00～17:00	自主自学館8階
教　　授	三島　史朗	月曜日　13:00～17:00	自主自学館8階
講　　師	高橋　　恵	水曜日　13:00～17:00	自主自学館8階
助　　教	大戸　朋子	木曜日　13:00～17:00	自主自学館8階

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、十分な臨床能力とコミュニケーション能力を基礎とした、安全管理者の養成である。大学院での研究を通じて、エビデンスに基づいて論理的に安全性を追求する能力を養うとともに、組織管理の見直しができる柔軟な思考力と、それを現実の形にするための実行力を養う。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

危機管理とリスク管理の、総論と各論
歴史的な医療事故についてのレビューと文献調査
報告制度（義務・任意）についてのレビューと文献調査

2 年次

基礎的な統計と多変量解析
研究デザインの文献調査
実証分析法の使い分け

3 年次

医療事故の法的評価と医事法
事故調査委員会の運営

4 年次

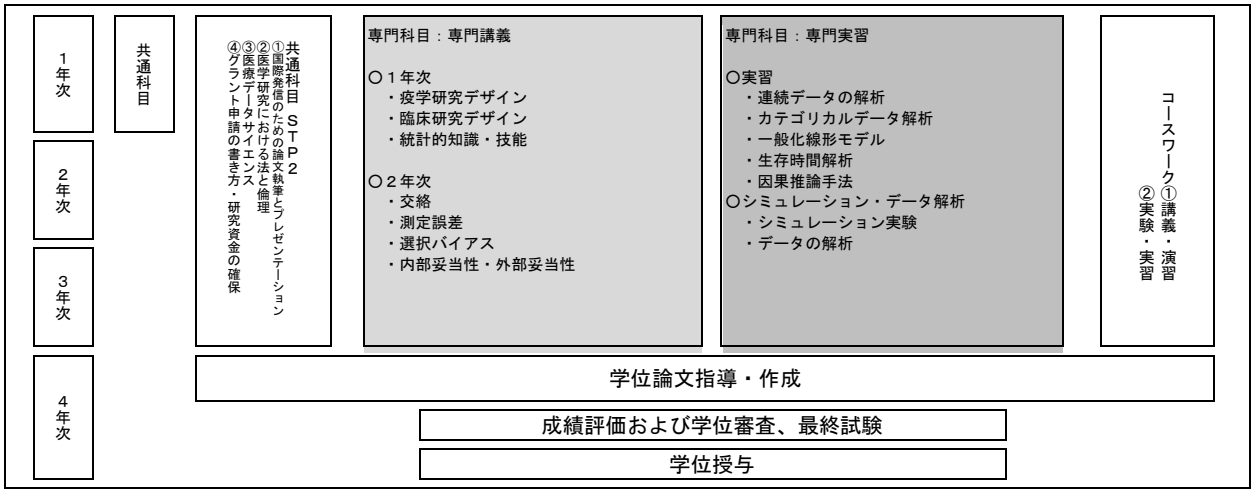
医療事故に対する組織対応
組織幹部としての安全管理者

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	医療安全学総論（ヒューマンファクターズ・ 医療安全対策の実際）	浦松雅史、三島史朗、高橋　恵、大戸朋子	1	2
2	講・演	医療安全学各論 1（医療事故調査）	浦松雅史、三島史朗、高橋　恵、大戸朋子	2	2
3	講・演	医療安全学各論 2 （診療プロセスの Re-design）	浦松雅史、三島史朗、高橋　恵、大戸朋子	3	2
1	験・習	事例検討 1	浦松雅史、三島史朗、高橋　恵、大戸朋子	1	6
2	験・習	事例検討 2	浦松雅史、三島史朗、高橋　恵、大戸朋子	2	6
3	験・習	事例検討 3	浦松雅史、三島史朗、高橋　恵、大戸朋子	3	2

―― 医療データサイエンス ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	田栗　正隆	金曜日 13:00～15:00	医療データサイエンス分野　研究室
准 教 授	小向　　翔	金曜日 13:00～15:00	医療データサイエンス分野　研究室

Ⅲ．人材養成の目的

本分野では、主として生物統計学（biostatistics）の教育・研究をしている。生物統計学は、医学・生物学領域で生じる科学的な問いに適切に答えるために、データの収集や解析に関する体系的な方法論を提供する学問分野である。アメリカでは医学・生物学領域の統計家やデータサイエンティストは非常に人気のある職業の 1 つであるが、日本においては歴史的に統計学部や統計学科が存在してこなかった経緯もあり、ニーズに比して生物統計家は大きく不足している状況である。その状況を踏まえ、生物統計学の研究と実践の両面に秀でた生物統計家を育成するのが本分野の教育の目的である。

研究としては、主として人を対象とした疫学研究（epidemiologic study）や臨床研究（clinical study）に関する方法論の研究と、それらに統計家として参画する共同研究を行っている。疫学研究は、地域社会等の特定の集団を対象として、病気の発生の頻度や分布を調査し、またその原因を明らかにすることを目的とした研究である。臨床研究は、何らかの病気を有している患者集団を対象として、治療効果の検証、合併症等の予測、診断法の評価など、臨床医学上の課題を解決することを目的とした研究である。

方法論の研究の一例として、統計的因果推論（causal inference）の研究を説明する。治療法のランダム割付を伴うランダム化比較試験と異なり、観察研究においては治療・曝露とアウトカムの両者に関連する第三の要因による交絡と呼ばれる現象が治療効果を推定する際に大きな問題となる。

交絡調整に関連したテーマとして、操作変数法に関する研究、直接効果・間接効果に関する研究、人口寄与割合に関する研究、時間依存性交絡の調整に関する研究、因果モデルのモデル選択に関する研究等を行っている。その他、臨床試験の用量選択に関する研究、ヒストリカルデータの活用に関する研究も行っている。

共同研究においては、臨床研究や疫学研究における統計家としての参画を通じて、分野として多くの国際医学雑誌の査読付き原著論文を発表している。教育面では、共同研究や統計コンサルテーションへの参画を通じて統計家としてのトレーニングを行うとともに、関心のあるテーマにおいて共同研究の楽しさを味わい、現実の疫学・臨床医学が直面する新たな統計的課題を新しい研究デザインやデータ解析の方法論研究につなげることを意図している。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

医療データサイエンスの専門的な知識・技術を指導する。
また、研究テーマ選定に関する指導、研究に必要な文献調査に関する指導、研究テーマに応じた適切な統計学的方法論の学習・研究指導を行う。

2 年次

研究テーマに応じた指導を行い、論文執筆計画を策定し、研究の進行と成果について助言・指導を行う。
① 先行研究レビューや研究内容のプレゼンテーションをとおして、医療データサイエンスの研究方法についての知識と技能を深化させる。
② 研究テーマや研究方法等の具体化についての検討、実施可能な研究計画の立案が出来るようにする。
③ シミュレーション実験やデータ解析の実施について指導する。

3 年次

研究の進展と成果について助言・指導を行う。
① 学会発表の指導
② 研究成果の東京医科大学医学会総会及び統計関連学会での発表
③ 論文執筆および投稿に関する指導

4 年次

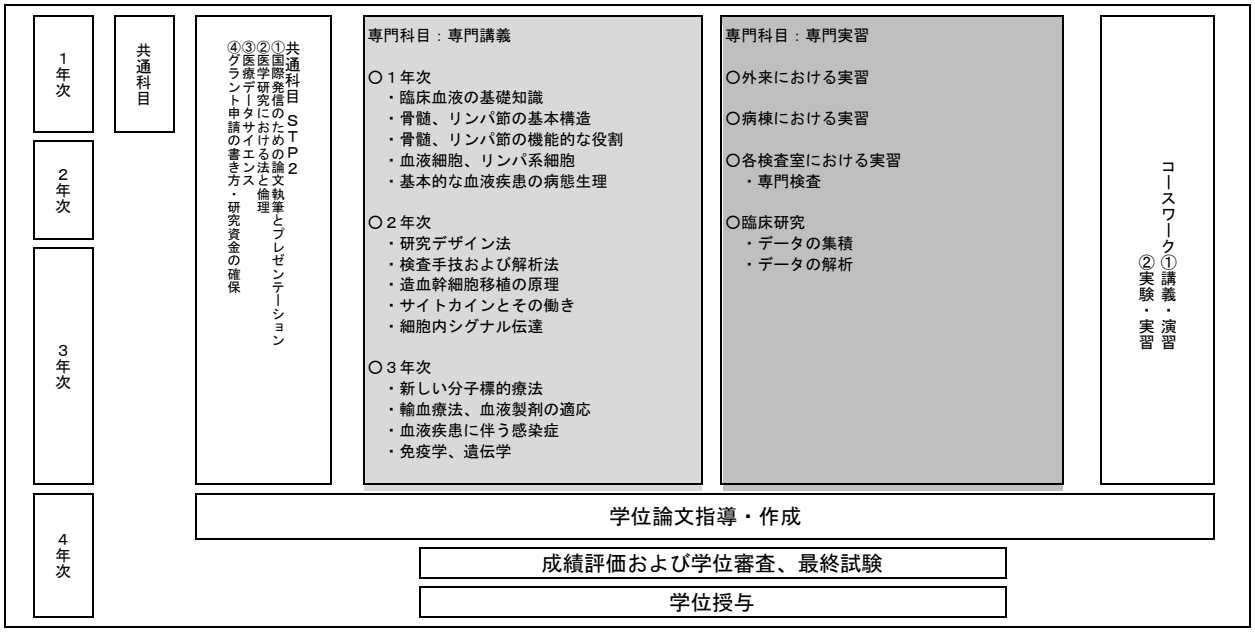
3 年次までに習得された知識・スキル、研究論文作成法を活用して、最終的な学位論文を完成させる。
① 研究成果の海外での学会発表
② 論文修正に関する指導・助言

Ⅴ．授業科目・内容

No	講・演 験・習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	疫学研究のデザインについて	田栗　正隆、小向　翔	1	2
2	講・演	選択バイアスと一般化可能性について	田栗　正隆、小向　翔	2	2
3	講・演	測定と測定誤差について	田栗　正隆、小向　翔	3	2
1	験・習	連続データの解析	田栗　正隆、小向　翔	1	2
2	験・習	分割表の解析	田栗　正隆、小向　翔	1	2
3	験・習	臨床研究のデザインと解析について	田栗　正隆、小向　翔	1	2
4	験・習	一般化線形モデル	田栗　正隆、小向　翔	2	2
5	験・習	交絡と交絡因子について	田栗　正隆、小向　翔	2	2
6	験・習	生存時間解析	田栗　正隆、小向　翔	3-4	2
7	験・習	因果推論手法	田栗　正隆、小向　翔	3-4	2

―― 血 液 内 科 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名 前	オフィスアワー	場 所
主任教授	赤羽 大悟	水曜日 8:30～13:00	医局
教 授	後藤 守孝	水曜日 8:30～13:00	医局
客員教授	伊藤 雅文	水曜日 8:30～13:00	医局
准 教 授	古屋奈穂子	水曜日 8:30～13:00	医局
准 教 授	田中 裕子	水曜日 8:30～13:00	医局
准 教 授	吉澤成一郎	水曜日 8:30～13:00	医局
講 師	浅野 倫代	水曜日 8:30～13:00	医局

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、探究心旺盛で人間味にあふれる血液内科専門医の養成である。大学院での研究を通じて、エビデンスに基づいて論理的に診断・治療を組み立てて行く能力を養うとともに、新しい診断・治療法の開発や疾患概念の見直しができる柔軟な思考力、それを現実の形にするための実行力を養う。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

血液疾患の実地医療における問題点の抽出を基本に置き、現在の血液診療の進歩を理解する。具体的には治験薬剤や今後の血液学の解決すべき点を指導する。その中で、実地医療に結びつく細胞遺伝学的解析、分子生物学的手法、細胞培養等の必要性を再認識できるように指導する。

2 年次

実際の研究に必要とされる手技を行ないつつ、問題点をどのように解決すべきであるかを指導する。また、医学部の大学院生として必要な臨床研究の一環として症例報告も積極的行い、学会発表のみに出なく論文化を積極的に指導し、研究の位置付けを明確にする。

3 年次

基礎研究の実際を指導し、データの解析、学会発表や誌上発表とする指導を行なう。発表するプロセスにより研究が深まることを、身をもって体験させ、研究への興味を更に促す。

4 年次

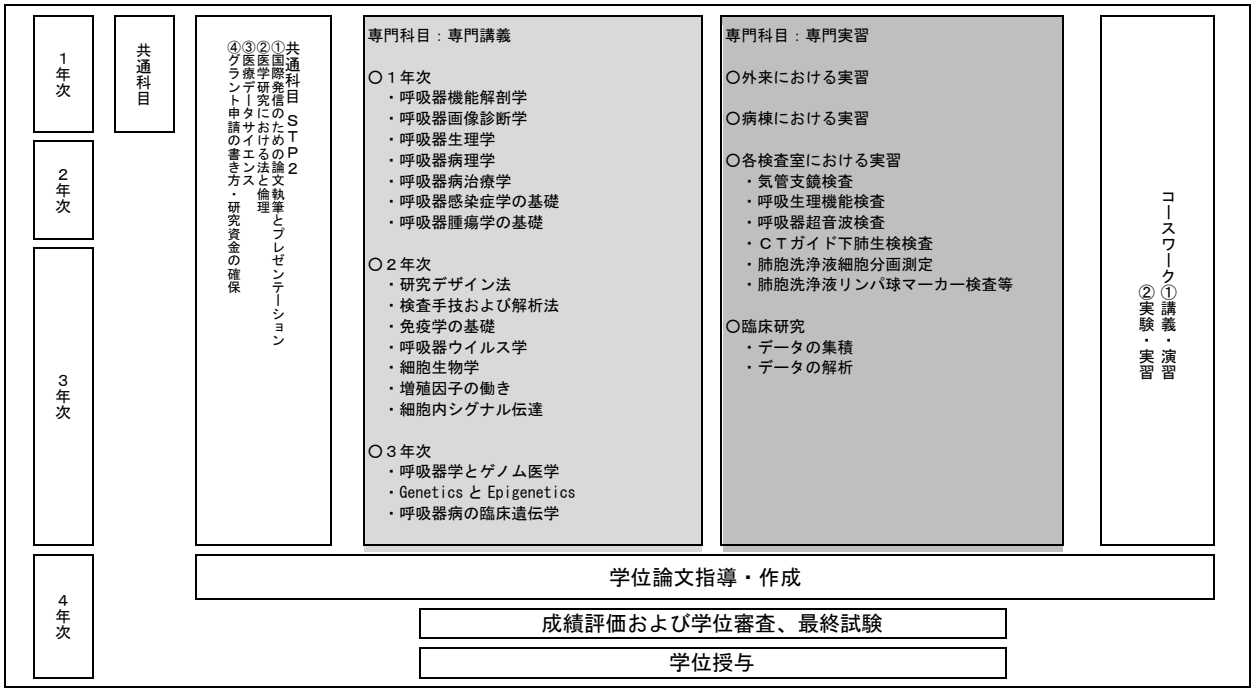
研究の持続性をもたらすため、後輩の指導を行なうことにより幅広い研究の必要性や継続性を指導する。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	血液学総論・血液診療	赤羽　大悟、伊藤　雅文	1	2
2	講・演	白血病の診断、治療指針	赤羽　大悟、古谷　奈穂子	2	2
3	講・演	悪性リンパ腫の診断、治療法（病理学的アプローチ）	赤羽　大悟、吉澤　成一郎	3	2
1	験・習	顕微鏡実習	赤羽　大悟、浅野　倫代	1	3
2	験・習	専門検査 骨髄穿刺	古屋　奈穂子、吉澤　成一郎、田中　裕子、浅野　倫代	1	3
3	験・習	造血幹細胞移植の実際	赤羽　大悟、後藤　守孝	2	2
4	験・習	病棟回診	赤羽　大悟	2	3
5	験・習	外来陪席	田中　裕子	3	2
6	験・習	血液疾患における感染症	赤羽　大悟、後藤　守孝、古谷　奈穂子	3	2

—— 呼吸器内科学 ——

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	阿部　信二	適宜	新教育研究棟8F　医局
准 教 授	河野　雄太	適宜	新教育研究棟8F　医局
講　　師	菊池　亮太	適宜	新教育研究棟8F　医局
講　　師	小林　研一	適宜	新教育研究棟8F　医局
講　　師	石割茉由子	適宜	新教育研究棟8F　医局

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、探究心旺盛で人間味にあふれる呼吸器内科専門医の養成である。大学院での研究を通じて、エビデンスに基づいて論理的に診断・治療を組み立てて行く能力を養うとともに、新しい診断・治療法の開発や疾患概念の見直しができる柔軟な思考力、それを現実の形にするための実行力を養う。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

各種呼吸器疾、特に閉塞性呼吸器疾患、間質性肺炎、肺癌の基礎病態の理解を深めるために代表的な臨床例をとりあげ米国の key 論文等を参考にまとめ、可能であれば症例報告として邦文、英文でまとめ投稿する。

2 年次

1 学年時にあげた疾患の中から 1 つの疾患に絞り、臨床生理学的研究あるいは細胞生物学研究を開始する。この時点で上級研究者の研究の手伝いを行いながら研究手法を学ぶ。

3 年次

2 学年時に開始した研究を中間でまとめ、研究会で発表する。この時発表法等についても学ぶ。

4 年次

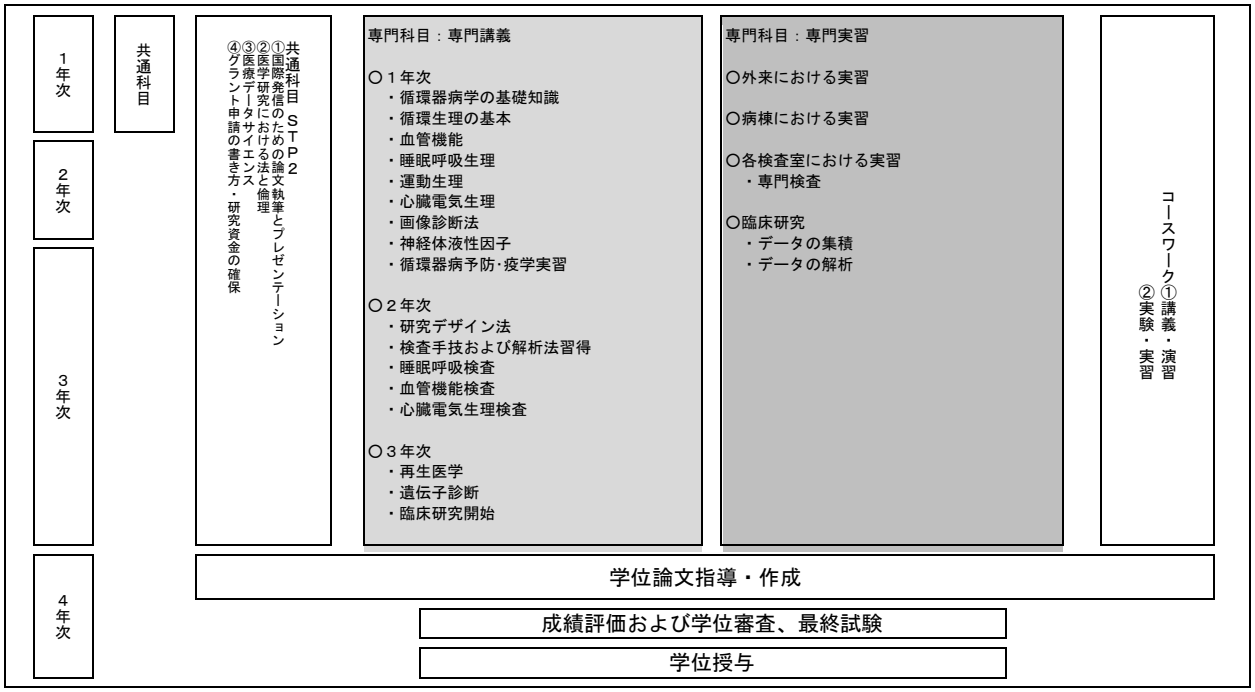
臨床研究あるいは基礎研究のまとめ、論文作成。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	呼吸生理学総論	阿部信二、河野雄太	1	1
2	講・演	呼吸器炎症疾患各論	阿部信二、河野雄太	1	1
3	講・演	呼吸器画像	阿部信二、菊池亮太、小林研一、石割茉由子	1	1
4	講・演	呼吸器疾患と遺伝子	阿部信二、河野雄太	2	1
5	講・演	症例検討会	阿部信二、河野雄太	3-4	2
1	験・習	気管支鏡検査	河野雄太、菊池亮太、小林研一	2	5
2	験・習	呼吸器細胞生物学	河野雄太	3	4
3	験・習	病棟回診	阿部信二	3-4	5

―― 循環器内科学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	里見　和浩	月曜日　9：00～9：15	教育研究棟10階エレベーターホール内 応接室
准 教 授	肥田　　敏	月曜日　13：00～13：15	教育研究棟7階エレベーターホール内 応接室
准 教 授	小菅　寿徳	水曜日　13：00～13：15	教育研究棟7階エレベーターホール内 応接室
准 教 授	武井　康悦	水曜日　9：00～9：15	教育研究棟7階エレベーターホール内 応接室
准 教 授	山下　　淳	水曜日　13：00～13：15	教育研究棟7階エレベーターホール内 応接室
講　　師	矢崎　義直	月曜日　13：00～13：15	教育研究棟7階エレベーターホール内 応接室

備考：必ず秘書（62106）経由でアポイントをとってください。

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、探究心旺盛で人間味にあふれる循環器内科専門医の養成である。大学院での研究を通じて、循環器疾患の疫学、病態を理解し、エビデンスに基づいて論理的に診断・治療を組み立てて行く能力を養う。さらに、新しい診断・治療法の開発や疾患概念の見直しができる柔軟な思考力、それを現実の形にするための実行力を養う。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

病棟、外来、検査室を中心に循環器病の基本を学ぶ。病院において循環器一般診療と各種非侵襲的検査について習得するように努力する。講義と同時に実習、演習も行う。

2 年次

研究計画を立案することができるように、文献の収集と吟味をする。また、データの集積と解析を行う。

3 年次

研究成果を学会にて発表する。

4 年次

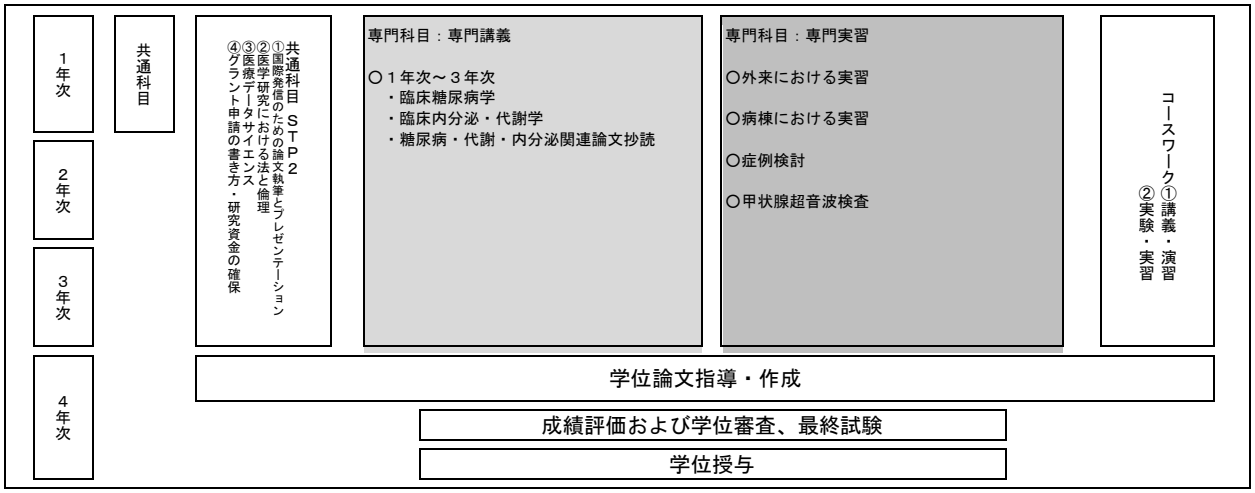
指導教官のもとで学位論文を作成し、審査を受ける。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	心機能・弁膜症総論	武井　康悦	1	2
2	講・演	不整脈・心臓電気生	矢崎　義直	1	2
3	講・演	内科外科合同症例検討会	里見　和浩	2	2
4	講・演	循環器画像診断各論：核医学	肥田　敏	2	2
1	験・習	心臓カテーテル検査の実際	山下　淳	1	5
2	験・習	MRI 検査の実際	小菅　寿徳	2	5
3	験・習	内科外科合同症例検討会	里見　和浩	3-4	4

―― 糖尿病・代謝・内分泌内科学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	鈴木　　亮	金曜日　15：00～17：30	教育研究棟（自主自学館）10階　医局
准 教 授	酒井　裕幸	水曜日　10：00～11：00	教育研究棟（自主自学館）10階　医局
准 教 授	志熊　淳平	水曜日　15：00～17：00	教育研究棟（自主自学館）10階　医局
准 教 授	諏訪内浩紹	金曜日　15：00～17：00	教育研究棟（自主自学館）10階　医局
講　　師	佐々木順子	木曜日　15：00～17：00	教育研究棟（自主自学館）14階研究室

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、病態生理の理解を通じて臨床洞察力に優れた糖尿病専門医、内分泌専門医を養成することにある。また、臨床実習を通じて医師としての倫理観及び人格の涵養を行なう。

Ⅳ．教育プログラム

1年次

糖尿病は“糖尿病専門医研修ガイドブック（糖尿病学会編）”“Joslin's Diabetes Deskbook”、内分泌は“Greenspan's Basic & Clinical Endocrinology”などを主教材とし厚生労働省研究班の診断と治療の手引きや欧米のガイドライン、論文などを副教材とするゼミを通じて疾患理解と臨床能力の向上を目指す。

2年次

糖尿病は“糖尿病専門医研修ガイドブック（糖尿病学会編）”“Joslin's Diabetes Deskbook”、内分泌は“Greenspan's Basic & Clinical Endocrinology”などを主教材とし厚生労働省研究班の診断と治療の手引きや欧米のガイドライン、論文などを副教材とするゼミを通じて疾患理解と臨床能力の向上を目指す。

3 年次

糖尿病は“糖尿病専門医研修ガイドブック（糖尿病学会編)”“Joslin's Diabetes Deskbook”、内分泌は“Greenspan's Basic & Clinical Endocrinology”などを主教材とし厚生労働省研究班の診断と治療の手引きや欧米のガイドライン、論文などを副教材とするゼミを通じて疾患理解と臨床能力の向上を目指す。

4 年次

学位論文　作成・指導

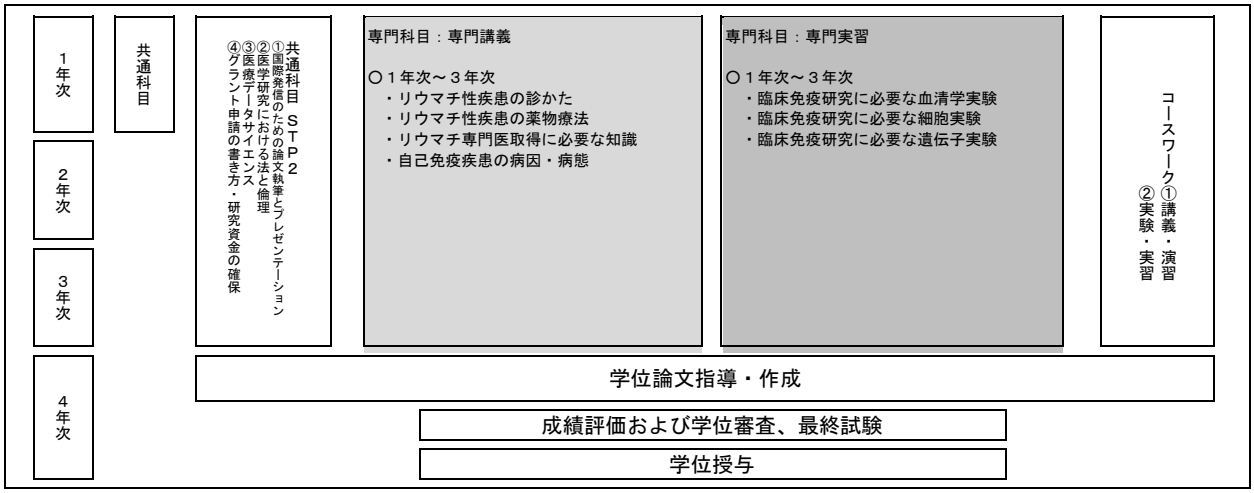
Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当年次	単位
1	講・演	持続血糖測定機器の使い方と結果の見方	志熊　淳平	1	2
2	講・演	最新の分子糖尿病学的知見	諏訪内　浩紹	1	2
3	講・演	高齢者糖尿病管理に関わる諸問題	鈴木　　亮	2	2
4	講・演	甲状腺疾患における診断と治療の選択	酒井　裕幸	2	2
1	験・習	病棟回診	鈴木　　亮	1	2
2	験・習	外来陪席	鈴木　　亮	1	2
3	験・習	外来陪席	酒井　裕幸	1	2
4	験・習	科内症例検討会	志熊　淳平	1	2
5	験・習	実験動物を用いた研究の基礎と技術	佐々木　順子	1-3	2
6	験・習	リサーチカンファランス	諏訪内　浩紹	2	2
7	験・習	論文抄読会	諏訪内　浩紹	3-4	2

—— リウマチ・膠原病内科学 ——

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	沢田　哲治	木曜日　午後４時～7 時	新教育棟10階　医局
教　　授	庄田　宏文	木曜日　午後４時～7 時	新教育棟10階　医局
臨床准教授	太原恒一郎	火曜日　午後４時～5 時	新教育棟10階　医局
臨床講師	林　　映	木曜日　午後４時～7 時	新教育棟10階　医局

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

臨床免疫学を中心とするライフサイエンスの知識と研究手法を習得し、自己免疫性疾患の病因・病態について自ら研究する能力を育成する。同時にリウマチ専門医として、広い科学的視野をもって自己免疫性疾患の診療を行うための臨床技術を身につける。

【社会人大学院】

リウマチ専門医として自立できるように膠原病やリウマチ性疾患の診療に必要な高度な知識と技術を習得する。さらに自己免疫性疾患に関する臨床研究を行うことにより、広い科学的視野をもって日常診療にあたる技術を身につける。

Ⅳ．教育プログラム

【一般大学院】

1 年次

リウマチ性疾患の病因･病態に関する最新の知識の習得と並行してリウマチ性疾患に関する専門知識と高度な診療技術を習得する。また臨床免疫研究遂行に必要な実験技術を習得する。

2 年次

研究テーマに沿った臨床免疫研究を行う。同時にリウマチ性疾患の病因・病態に関する最新の知識を引き続き習得するとともにリウマチ性疾患に関する専門知識と高度な診療技術の習得も継続する。

3 年次

研究テーマに沿った臨床免疫研究を行う。同時にリウマチ性疾患の病因・病態に関する最新の知識を引き続き習得するとともにリウマチ性疾患に関する専門知識と高度な診療技術の習得も継続する。研究成果は国内、海外学会で発表する。

4 年次

最終学年として研究成果を論文化する（英文)。臨床医としてのリウマチ性疾患に関する専門知識と高度な診療技術の習得も継続する。

【社会人大学院】

1 年次

リウマチ性疾患に関する専門知識と高度な診療技術を習得するとともに、リウマチ性疾患の病因・病態に関する最新の知識を習得する。また臨床免疫研究遂行に必要な実験技術を習得する。

2 年次

リウマチ性疾患の病因・病態に関する最新の知識を引き続き習得するとともにリウマチ性疾患に関する専門知識と高度な診療技術の習得も継続する。同時に研究テーマに沿った研究を行う。

3 年次

研究テーマに沿った臨床研究を行う。同時にリウマチ性疾患に関する専門知識と高度な診療技術の習得を継続する。リウマチ性疾患の病因・病態に関する最新の知識も引き続き習得する。研究成果は国内、海外学会で発表する。

4 年次

最終学年として研究成果を論文化する（英文)。臨床医としてのリウマチ性疾患に関する専門知識と高度な診療技術の習得も継続する。

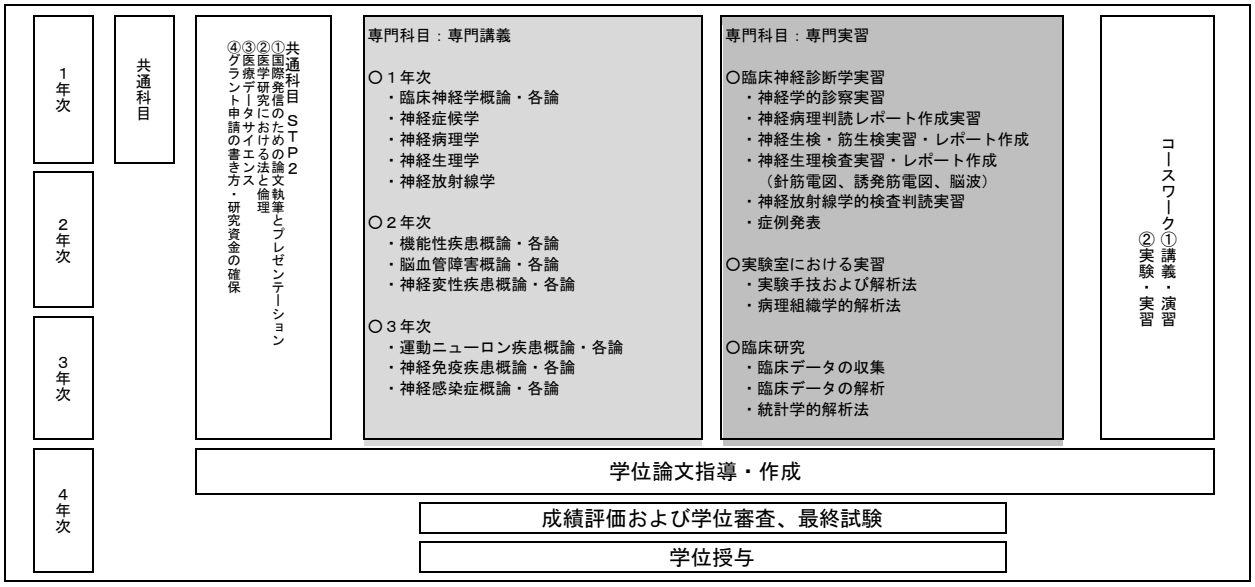
Ⅴ．授業科目・内容

【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講・演 験・習	授業科目・内容	担当教員	配当年次	単位
1	講・演	リウマチ性疾患の診断と治療	沢田　哲治、太原　恒一郎、庄田　宏文、林　映	1	2
2	講・演	自己免疫性疾患の病因・病態	沢田　哲治、太原　恒一郎、庄田　宏文、林　映	2	2
3	講・演	リウマチ専門医に求められる知識と技能	沢田　哲治、太原　恒一郎、庄田　宏文、林　映	3	2
1	験・習	SPSS Statisitics を用いた統計解析（I)	沢田　哲治、庄田　宏文	1	5
2	験・習	SPSS Statisitics を用いた統計解析(II)	沢田　哲治、庄田　宏文	2	5
3	験・習	臨床免疫学の基本的手技	沢田　哲治、庄田　宏文	3-4	4

―― 神 経 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名 前	オフィスアワー	場 所
主任教授	赫 寛雄	火･水･金 16:00～18:00	脳神経内科医局
准 教 授	加藤 陽久	月･火･水 16:00～18:00	脳神経内科医局
准 教 授	日出山拓人	月･水･木 16:00～18:00	脳神経内科医局

Ⅲ．人材養成の目的

神経学には、脳血管障害、神経変性疾患、神経免疫疾患、筋疾患、末梢神経疾患、神経感染症等の多彩な領域が含まれる。まず、個々の神経疾患を機能解剖と関連付けて理解し、特徴ある診断プロセス（局在診断、病因診断、神経特殊検査の立案・実践）、そして科学的根拠に基づく標準的治療を習得する。神経疾患の病態や病因の解明、新しい検査法や治療法の開発を発想、実践できる人材を育成することを目的とする。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

神経疾患の診断、特殊検査、治療を習得（脳神経内科外来・病棟）
臨床研究の立案、基礎研究の立案

2 年次

神経病理、神経生理の習得
臨床研究の遂行とデータ収集、基礎研究の実験、データ収集

3 年次

データ収集と統計解析、追加実験

4 年次

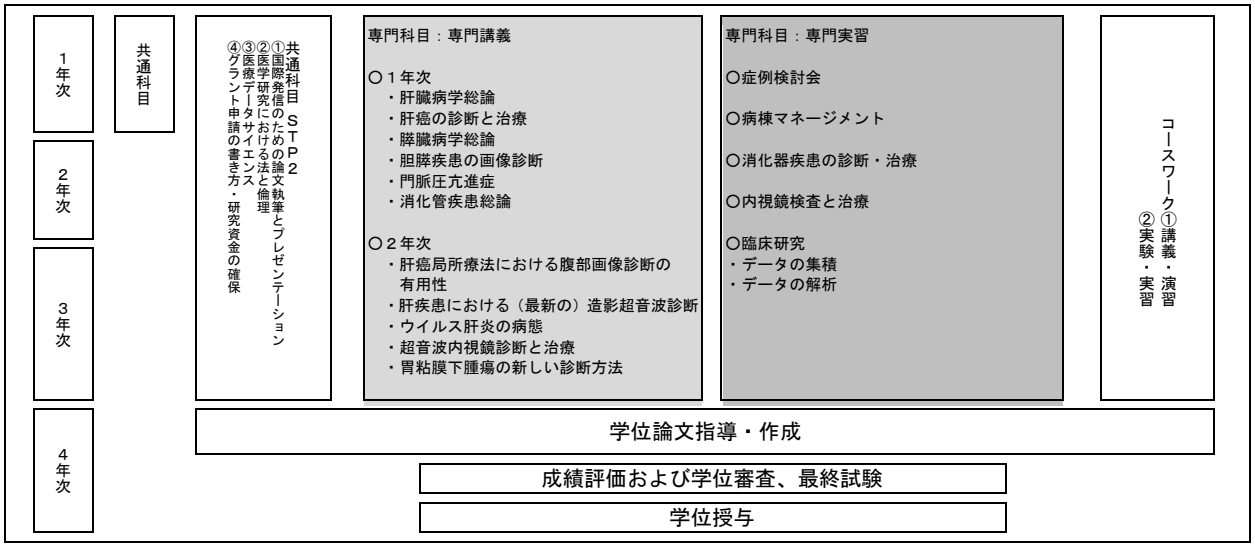
研究の評価と論文作成、学会発表

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	臨床神経概論	赫　寛雄、加藤　陽久、日出山　拓人	1	2
2	講・演	パーキンソン病の病態と最新の治療	赫　寛雄	2	2
3	講・演	てんかんの病態と最新の治療	加藤　陽久	2	2
4	講・演	筋萎縮性側索硬化症の研究と治療法の進歩	日出山　拓人	3	2
1	験・習	神経学的診察の実践	赫　寛雄、加藤　陽久、日出山　拓人	1	5
2	験・習	神経学的検査の実践	赫　寛雄、加藤　陽久、日出山　拓人	2	5
3	験・習	神経放射線学的検査の実践	赫　寛雄、加藤　陽久、日出山　拓人	3-4	4

―― 消 化 器 内 科 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	糸井　隆夫	月～金　8:30～17:00	医局
准 教 授	福澤　誠克	月～金　8:30～17:00	医局
准 教 授	土屋　貴愛	月～金　8:30～17:00	医局
准 教 授	竹内　啓人	月～金　8:30～17:00	医局

Ⅲ．人材養成の目的

消化器内科学（上部・下部消化管、肝臓、胆膵の疾患）に関連する臨床研究、あるいは臨床の発展につながる基礎的研究を実践することにより、臨床・教育・研究を行える人材を育てることを目的とする。

Ⅳ．教育プログラム

1年次

・研究テーマの臨床的・学術的背景を学習する。講義および収集した文献や資料を用いて、各研究の臨床的・学術的背景、各研究に関連する国内・国外の研究動向および位置づけを学習する。

2年次

・研究テーマの具体的な目的・達成目標を明確にし、そのための研究計画をたてる。
・計画に基づいて、実習・研究を進めながらその結果を評価し、担当教員と討論する。新たな問題点に対する対応も考慮しつつ、研究計画の見直しを行い、さらに研究を進める。その際、最新の研究動向に絶えず留意する。

3 年次

・研究テーマの具体的な目的・達成目標を明確にし、そのための研究計画をたてる。
・計画に基づいて、実習・研究を進めながらその結果を評価し、担当教員と討論する。新たな問題点に対する対応も考慮しつつ、研究計画の見直しを行い、さらに研究を進める。その際、最新の研究動向に絶えず留意する。

4 年次

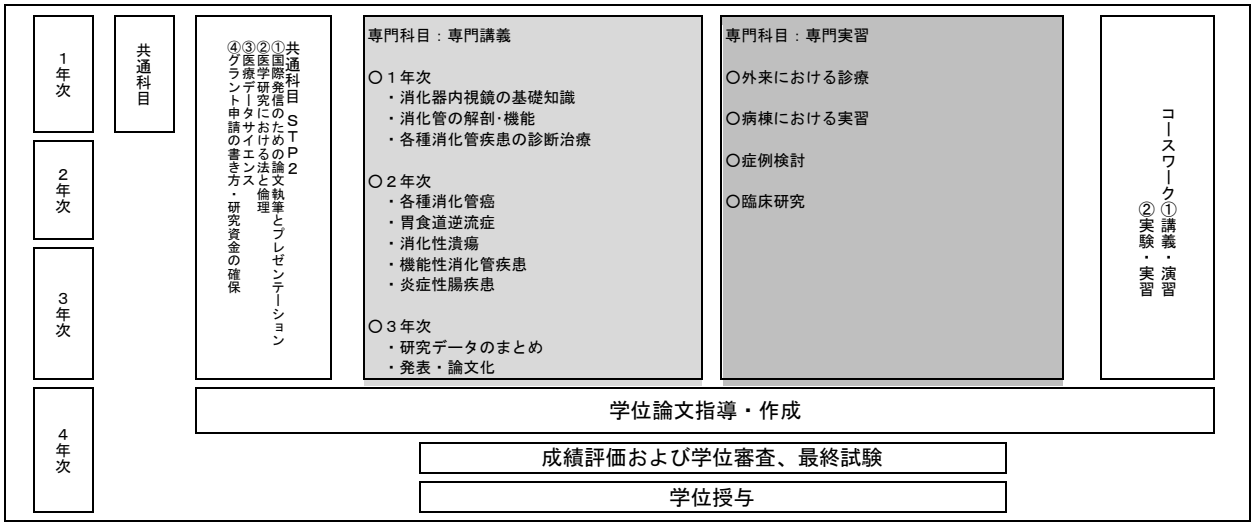
・研究内容を総括し、その成果を学会および学術論文に発表する。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当年次	単位
1	講・演	胃癌の内視鏡治療について	福澤　誠克	1	1
2	講・演	大腸癌の内視鏡診断と治療	福澤　誠克	1	1
3	講・演	ウイルス肝炎における免疫応答	竹内　啓人	2	1
4	講・演	肝癌局所治療における画像診断の有用性	竹内　啓人	2	1
5	講・演	膵臓病学総論	糸井　隆夫	3	1
7	講・演	胆膵疾患の画像診断	糸井　隆夫	3	1
1	験・習	症例検討会	糸井　隆夫	1	3
2	験・習	胆膵内視鏡検査・治療	土屋　貴愛	1	2
3	験・習	内視鏡検査見学	福澤　誠克	2	2
4	験・習	肝癌のラジオ波焼灼療法見学	竹内　啓人	2	3
5	験・習	造影超音波検査見学	竹内　啓人	3-4	2
6	験・習	肝癌局所治療における画像診断の有用性	竹内　啓人	3-4	2

—— 消化器内視鏡学 ——

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
特任教授	河合　　隆	月～金　9:00～17:00	内視鏡センター
臨床准教授	岩田　英里	月～金　9:00～17:00	内視鏡センター
客員准教授	新倉　量太	月～金　9:00～17:00	内視鏡センター
講　　師	張　　萌琳	月～金　9:00～17:00	内視鏡センター
非常勤講師	柳澤　京介	月～金　8:30～17:00	内視鏡センター

Ⅲ．人材養成の目的

消化器内視鏡領域（スクリーニング、精密検査、病診連携地域医療等を含む）における基本的な研究能力を持ち、大学院での研究を通じて、各種消化管疾患の病態解明を目差し、症状と内視鏡所見の関連を中心に論理的に診断・治療を組み立てていく能力を養うとともに、新しい診断方法、診断推論、医療形態の導入、柔軟な思考力や実行力を養うことを目標としています。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

講義や文献などで消化器内視鏡学の基本的知識や技術を身につける。
各研究テーマの臨床的・学術的背景を学習する。

2 年次

研究テーマの具体的な目的・達成目標を明確にし、研究計画を立てる。
研究計画に基づいてデータの収集と解析方法を学び、実践する。

3 年次

研究データのまとめとデータの集約をし、討論する。
国内・国外にて発表する。

4 年次

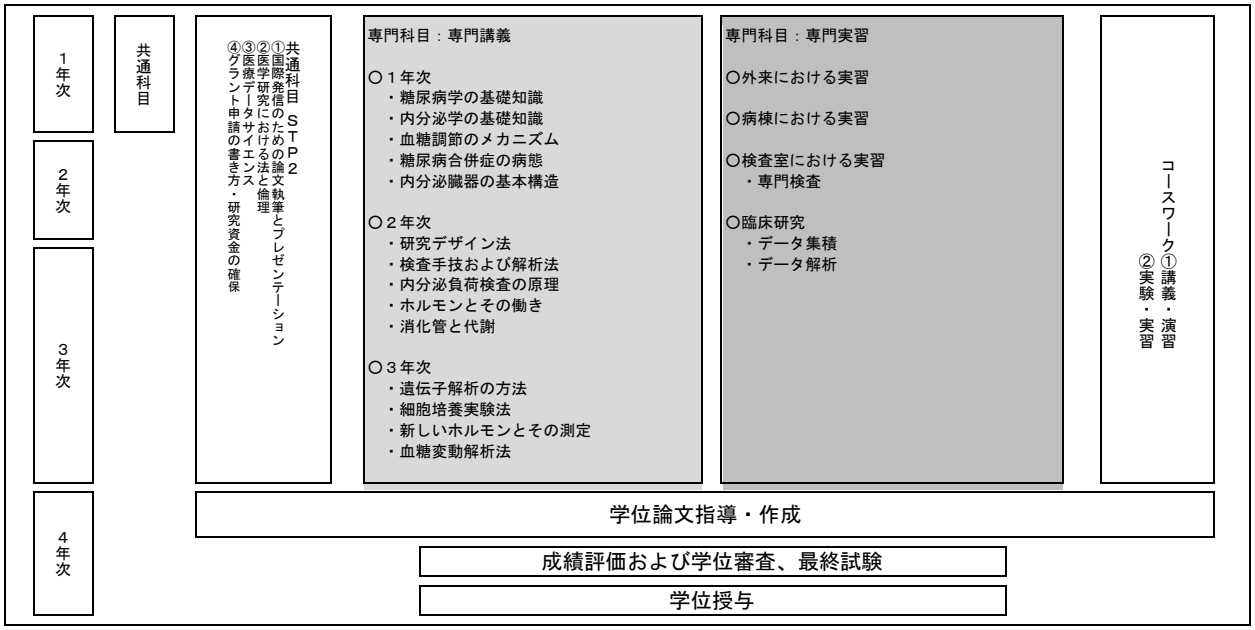
研究内容を総括し、学位論文を作成する。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当年次	単位
1	講・演	消化器内視鏡学総論	河合　隆、岩田英里、新倉量太、張　萌琳、新倉量太	1	2
2	講・演	Helicobacter pylori 感染症	河合　隆、岩田英里、新倉量太、張　萌琳、柳澤京介	2	2
3	講・演	大腸内視鏡の画像診断	岩田英里、新倉量太、張　萌琳	3	2
1	験・習	内視鏡の画像診断実習 1	河合　隆、岩田英里、新倉量太、柳澤京介	1	5
2	験・習	内視鏡の画像診断実習 2	河合　隆、岩田英里、新倉量太、張　萌琳	2	5
3	験・習	内視鏡＆病理所見検討会	岩田英里、新倉量太、張　萌琳	3-4	4

―― 代 謝 内 科 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
教　　授	高本　偉碩	金曜日　15:00～16:00	内科（代謝内分泌）ミーティングルーム

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、全人的に患者を把握し、管理調整できる代謝内分泌内科専門医の養成である。大学院での研究を通じて、基礎的病態から論理的に診断ができ、治療に結びつけられる能力を涵養し、さらに臨床からの発見を基とし、新たな診断治療法の発展に貢献できる能力を育てる。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

病棟にて上級医と共に患者を担当し、診断治療に参加する。臨床カンファランスに参加し患者のプレゼンテーションを行う。勉強会に参加し基礎的知識を身につける。

2 年次

病棟にて患者を担当し、診療に中心的に携わる。臨床カンファランス、勉強会、研究カンファレンスに参加する。

3 年次

病棟にて中心的に患者を担当し、診療計画を実施する。臨床、基礎研究に関して上級医とともに活動する。

4 年次

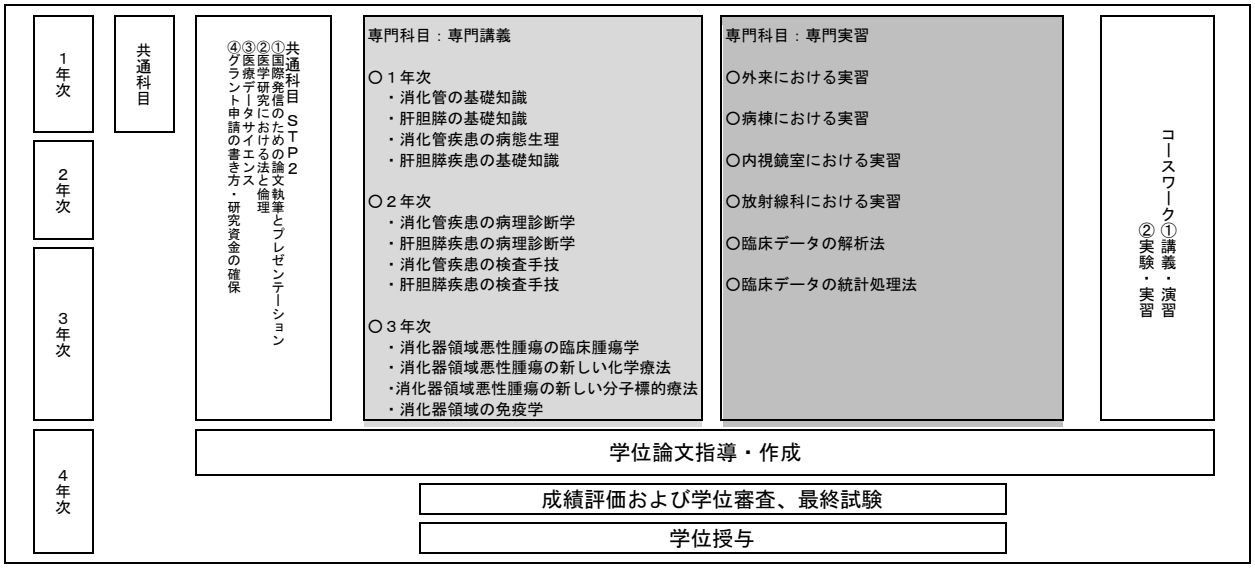
病棟にて診療に当たるとともに、外来診療にも参加する。臨床、基礎研究課題を選択し、実施する。

Ⅴ．授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当年次	単位
1	講・演	糖尿病学総論	高本　偉碩	1	2
2	講・演	内分泌学総論	高本　偉碩	1	2
3	講・演	糖尿病診断	高本　偉碩	2	2
4	講・演	症例検討会	高本　偉碩	3-4	2
1	験・習	チャート回診	高本　偉碩	1	5
2	験・習	甲状腺超音波検査	高本　偉碩	2	2
3	験・習	病棟回診	高本　偉碩	3-4	3
4	験・習	病棟実習	高本　偉碩	3-4	4

―― 消化器内科学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
教　　授	池上　　正	月･火･金　9:00～10:30	医局（電話、Eメールはいつでも可）
教　　授	本多　　彰	月･火･木　9:00～10:30	医局（電話、Eメールはいつでも可）
教　　授	岩本　淳一	月･水･金　9:00～10:30	医局（電話、Eメールはいつでも可）
准 教 授	平山　　剛	月･火･金　9:00～10:30	医局（電話、Eメールはいつでも可）
准 教 授	宮﨑　照雄	月 ～ 金　9:00～16:30	共同研究センター管理室

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、広い消化器領域をまんべんなく理解し、診療できる優れた消化器内科専門医の養成である。大学院での研究を通じてＥＢＭに基づいて病態を考える能力を養うとともに、先端技術も駆使した消化器疾患の診断治療を実行することができる医師の養成を行うことが目的である。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

消化器内視鏡検査、腹部超音波検査、各種内視鏡治療（消化管、胆膵)、超音波ガイド下検査治療
研究テーマの臨床的背景（アンメット・ニーズ)・学術的背景（求められるシーズ）について、講義や文献検索を通じて情報を収集する。研究に関する国内外の研究動向や位置付けついて学習する。研究デザインの立て方　文献検索の仕方を学ぶ。臨床研究法に基づいた倫理について学ぶ。

2 年次

消化管疾患の病理診断学、肝胆膵疾患の病理診断学実習
研究テーマを明確にし、具体的な研究目標・計画を立案する
研究計画に沿って研究を実施し、その結果を評価し担当教官と討論する。新たな問題や改善点を見出し研究計画の見直しを進め、研究を継続する。臨床データの解析、統計処理方法を学ぶ。臨床研究の場合、倫理審査委員会に対する審査依頼の方法や、多施設研究における審査の方法について学び、実践する。

3 年次

消化器領域悪性腫瘍の臨床腫瘍学、消化器領域悪性腫瘍の新しい化学療法の実習
研究計画に沿って研究を実施し、その結果を評価し担当教官と討論する。新たな問題や改善点を見出し研究計画の見直しを進め、研究を継続する。外部研究資金の獲得について、科研費などの申請について学ぶ。

4 年次

研究内容を総括し、その内容を学会及び学術論文に投稿する。

Ⅴ．授業科目・内容

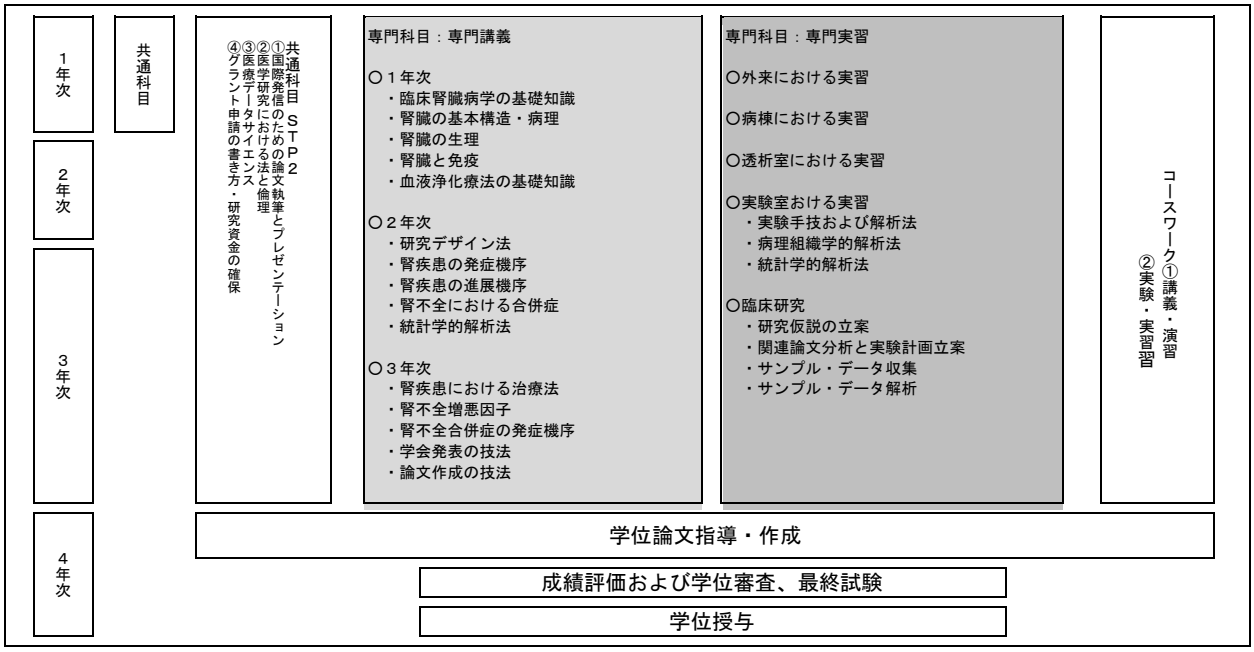
【一般大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	炎症性腸疾患について	岩本　淳一	1	2
2	講・演	肝疾患の診断治療	池上　正	2	2
3	講・演	消化器画像とトランスリレーショナル・リサーチ	池上　正、岩本　淳一	3	2
1	験・習	クリニカルクエスチョンの抽出	池上　正、岩本　淳一	1	5
2	験・習	クリニカルクエスチョン解決のための計画	池上　正、岩本　淳一	2	5
3	験・習	クリニカルクエスチョンに対する回答	池上　正、岩本　淳一	3-4	4

―― 腎 臓 内 科 学 ――

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　所
教　授	平山　浩一（腎臓内科）	火･木　10:00～12:00	東2F腎臓内科医局
教　授	本多　　彰（共同研究センター）	火･金　10:00～12:00	共同研究センター
教　授	小林　大輝（総合診療科）	火･金　10:00～12:00	総合診療科医局
准教授	宮崎　照雄（共同研究センター）	火･金　10:00～12:00	共同研究センター
講　師	丸山　浩史（腎臓内科）	火･水　10:00～12:00	東2F腎臓内科医局

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

腎疾患における発症・進展機序を解明して、新たな診断・治療法の開発を遂行できる医療人を養成するために、腎疾患の病態と研究方法を統合的に理解し、研究実施・公表能力を修得することを目的とする。

【社会人大学院】

腎疾患における発症・進展機序を解明して、新たな診断・治療法の開発を遂行できる医療人を養成するために、腎疾患の病態と研究方法を統合的に理解し、研究実施・公表能力を修得することを目的とする。

Ⅳ. 教育プログラム

【一般大学院】

1 年次

研究テーマを選定するために、腎泌尿器系の発生・構造・機能および生態内部環境の調節を学習し、腎疾患の疫学・病因・病態（生理学・生化学・病理学・免疫学的）・診断方法を統合的に理解し、修得することを目標とする。

2 年次

研究計画を作成するために、基本的実験手技（生化学的・免疫学的・病理組織学的・分子生物学的・遺伝子学的手法）と研究デザイン法（医学統計学・医学倫理を含む）を学習し、研究課題に関連した病態ならびに研究課題の解決方法を理解し、研究遂行能力を修得することを目標とする。

3 年次

研究課題を解決するために、臨床研究（データの取得・集積・解析）を実施し、先行研究結果も踏まえて研究遂行における問題を選択的に理解し、研究成果の公表方法（学会発表法・論文作成法）を修得することを目標とする。

4 年次

研究テーマを発展させるために、研究成果を公表し、研究テーマの新たな課題を抽出・解決方法を考察し、研究永続能力、研究指導能力ならびに新たな診断・治療法を開発する能力を修得する。

【社会人大学院】

1 年次

研究テーマを選定するために、腎泌尿器系の発生・構造・機能および生態内部環境の調節を学習し、腎疾患の疫学・病因・病態（生理学・生化学・病理学・免疫学的）・診断方法を統合的に理解し、修得することを目標とする。

2 年次

研究計画を作成するために、基本的実験手技（生化学的・免疫学的・病理組織学的・分子生物学的・遺伝子学的手法）と研究デザイン法（医学統計学・医学倫理を含む）を学習し、研究課題に関連した病態ならびに研究課題の解決方法を理解し、研究遂行能力を修得することを目標とする。

3 年次

研究課題を解決するために、臨床研究（データの取得・集積・解析）を実施し、先行研究結果も踏まえて研究遂行における問題を選択的に理解し、研究成果の公表方法（学会発表法・論文作成法）を修得することを目標とする。

4 年次

研究テーマを発展させるために、研究成果を公表し、研究テーマの新たな課題を抽出・解決方法を考察し、研究永続能力、研究指導能力ならびに新たな診断・治療法を開発する能力を修得する。

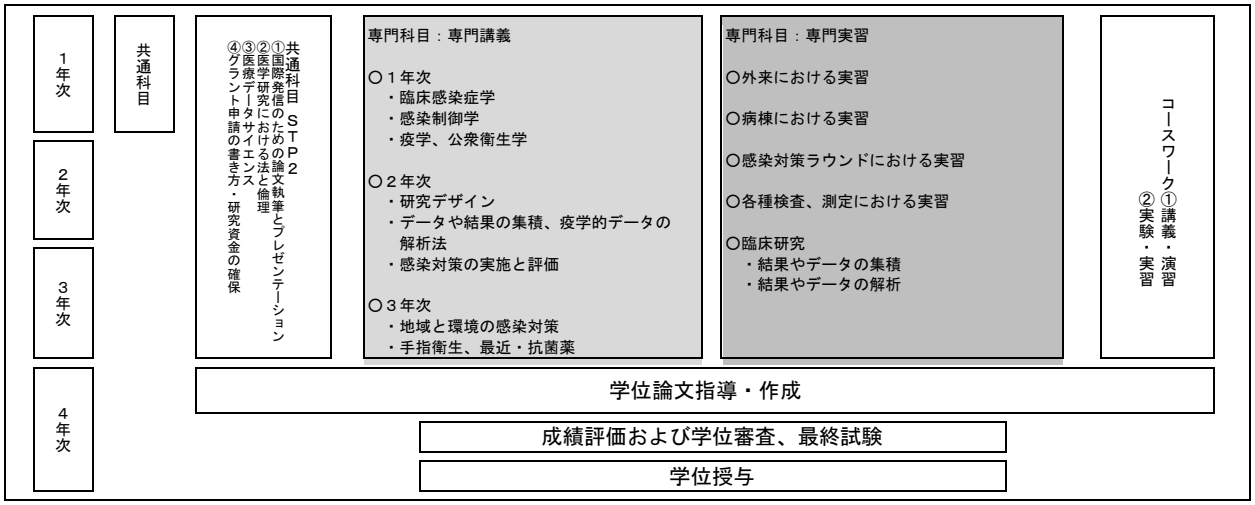
Ⅴ. 授業科目・内容

【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講・演 験・習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	腎泌尿器系の発生・構造・機能	丸山　浩史	1	2
2	講・演	糸球体疾患の病態・診断・治療	平山　浩一	2	2
3	講・演	腎不全の病態・診断・治療	丸山　浩史	2	2
4	講・演	研究デザイン学	小林　大輝	3	2
1	験・習	入院症例検討会	丸山　浩史	1	1
2	験・習	腎病理組織実習 （光学顕微鏡・蛍光抗体法）	平山　浩一	1	2
3	験・習	臨床実習 （内シャント・経皮的シャント拡張術、等）	丸山　浩史	1	2
4	験・習	外来症例検討会	平山　浩一	2	1
5	験・習	免疫学的実習 （ELISA・FCM 等）	平山　浩一	2	2
6	験・習	生化学的実習 （LS-MS 等）	本多　彰	3	2
7	験・習	分子生物学的実習 （RT-PCR、Sequence 等）	宮崎　照雄	3	2
8	験・習	論文作成法	平山　浩一、本多　彰	3-4	2

―― 臨床感染症学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名 前	オフィスアワー	場 所
教 授	渡邉 秀裕	適宜	教育研究棟10F教授室、病院棟8F感染制御部
准 教 授	中村 造	適宜	病院棟8F感染制御部
准 教 授	福島 慎二	適宜	渡航者医療センター、病院棟8F感染制御部
兼任准教授	町田 征己	適宜	大学（公衆衛生学)、病院棟8F感染制御部
講 師	小林 勇仁	適宜	病院棟8F感染制御部
講 師	藤田 裕昭	適宜	病院棟8F感染制御部

Ⅲ．人材養成の目的

臨床感染症学の理論及び応用を研究し、さらに感染制御に関する専門能力を培い、医学の進展に寄与することを目的とする。この領域における探求心や洞察力を養い、医療関係（学）部門との協調性を目指した合理的な感染症治療並びに制御を専門とする臨床感染症医を育成していきたい。新興再興、医療関連感染などを含む感染症について、新たな知見や探索や収集から対策制御を見出せるよう柔軟な思考力、実行力を養う。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

日本感染症学会・日本化学療法学会・日本環境感染学会が定めている専門医カリキュラムに準じて臨床感染症・感染制御の基本を学習する。特殊な感染症を含む臓器組織をまたぐような感染症の診断・抗微生物薬治療の基本的原理を学習する。臨床例をとりあげ海外文献・論文等を参考にまとめ、可能であれば症例報告としてまとめ邦文や英文で投稿する。

2 年次

上級研究者のアウトブレイク対策に随伴し，感染制御における疫学的成績の集積方法や評価・統計解析方法を学習する。分子生物学的な手法の基礎を習得する。

3 年次

指導教官および本人とで相談の上、学位研究のテーマと研究方法を決定する。臨床研究や症例対照・疫学的研究を指導教官とともにテーマに沿い丹念に成績を集積する。研究の進捗状況を相談しながら、方向の修正を加えながら研究を進め、研究会・学会等で発表する．この時発表方法についても学ぶ。

4 年次

臨床研究や症例対照・疫学的研究をあるいは基礎研究をまとめ、論文作成する。

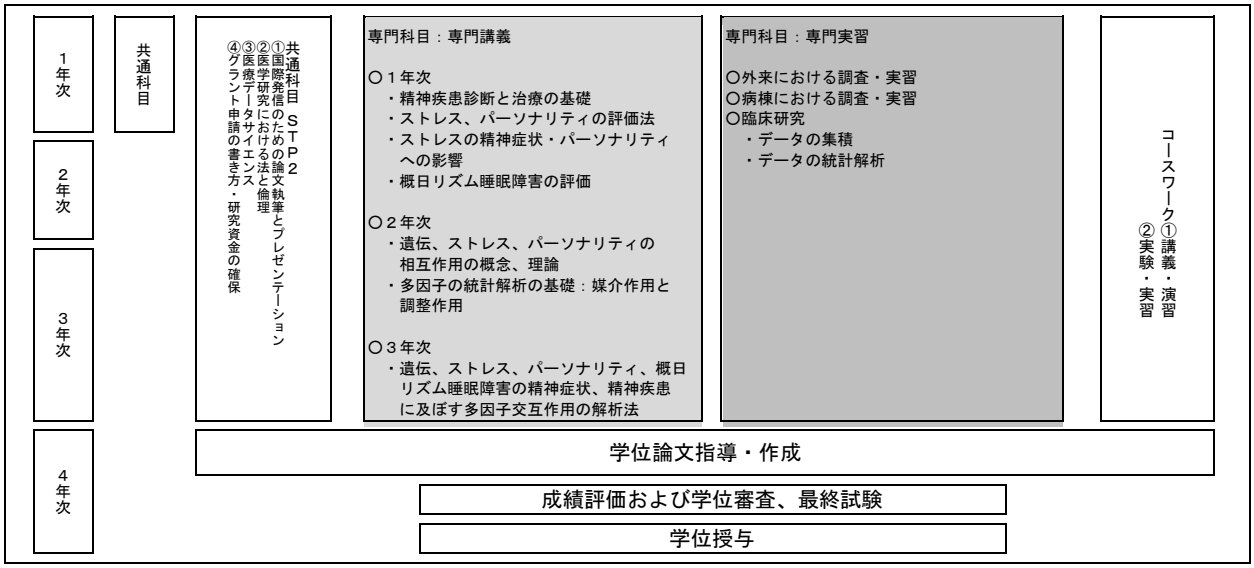
Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	臨床感染症学の基礎・総論	渡邉　秀裕、中村　　造、福島　慎二、 小林　勇仁、町田　征己、藤田　裕晃	1	2
2	講・演	耐性菌の発生機序と病院としての感染対策	渡邉　秀裕、中村　　造、福島　慎二、 小林　勇仁、町田　征己、藤田　裕昭	1-2	2
3	講・演	感染対策とアウトブレイク、症例対照研究	渡邉秀　裕、中村　　造、福島　慎二、 小林　勇仁、町田　征己、藤田　裕昭	2-3	2
1	験・習	培養検体採取・培養・解析と研究への応用と管理	渡邉　秀裕、中村　　造、福島　慎二、 小林　勇仁、町田　征己、藤田　裕晃	1-2	4
2	験・習	臨床感染症学の各論とその発展	渡邉　秀裕、中村　　造、福島　慎二、 小林　勇仁、町田　征己、藤田　裕晃	2-3	3
3	験・習	感染制御ラウンドとその応用	渡邉　秀裕、中村　　造、福島　慎二、 小林　勇仁、町田　征己、藤田　裕晃	3	3
4	験・習	感染症と免疫反応その臨床研究に向けて	渡邉　秀裕、中村　　造、福島　慎二、 小林　勇仁、町田　征己、藤田　裕晃	3-4	4

―― 精 神 医 学 ――

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	桝屋　二郎	連絡の上で日時と場所を決定	（精神医学分野医局）
教　　授	市来　真彦	連絡の上で日時と場所を決定	（精神医学分野医局）
准 教 授	本屋敷美奈	連絡の上で日時と場所を決定	（精神医学分野医局）
准 教 授	石井　礼花	連絡の上で日時と場所を決定	（精神医学分野医局）
講　　師	森下　千尋	連絡の上で日時と場所を決定	（精神医学分野医局）
講　　師	玉田　　有	連絡の上で日時と場所を決定	（精神医学分野医局）
講　　師	積　　知輝	連絡の上で日時と場所を決定	（精神医学分野医局）

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

うつ病、ストレス関連精神疾患などの診断・治療は重要である。一方、その発症機序や病態はまだ十分に解明されていないため、ストレス、パーソナリティ、遺伝の観点から、機序、病態を解明することが必要とされている。このような観点から、精神疾患に興味をもち、診断・治療を追究し、その原因を探求する人材を育成したい。

【社会人大学院】

うつ病、ストレス関連精神疾患などの診断・治療は重要である。一方、その発症機序や病態はまだ十分に解明されていないため、ストレス、パーソナリティ、遺伝の観点から、機序、病態を解明することが必要とされている。このような観点から、精神疾患に興味をもち、診断・治療を追究し、その原因を探求する人材を育成したい。

Ⅳ. 教育プログラム

【一般大学院】／【社会人大学院】

1 年次

講義と文献検索、臨床研究、統計解析の基礎を学ぶ

2 年次

多要因の交互作用の解析法の理論を実際のデータから学ぶ

3 年次

データの集積と統計解析を行い、学会発表の方法を学ぶ

4 年次

論文作成

Ⅴ. 授業科目・内容

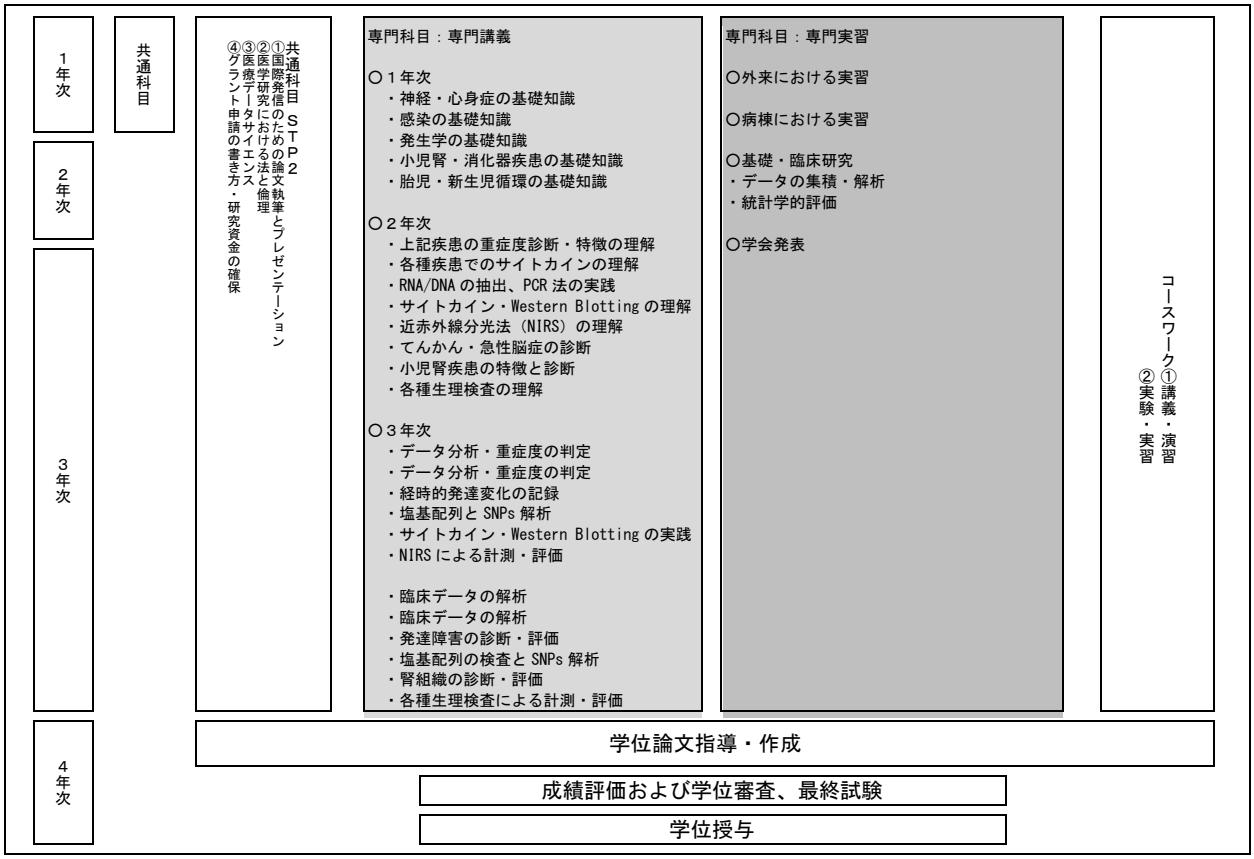
【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講･演	ストレスとうつ	桝屋　二郎、本屋敷　美奈	1	2
2	講･演	ストレスと不安	市来　真彦、玉田　有	1	2
3	講･演	ストレスと小児期の不安・うつ	桝屋　二郎、石井　礼花	1	2
1	習･験	論文作成指導 1	桝屋　二郎、本屋敷　美奈、石井　礼花、 森下　千尋、玉田　有、積　知輝	1	5
2	習･験	論文作成指導 2	桝屋　二郎、本屋敷　美奈、石井　礼花、 森下　千尋、玉田　有、積　知輝	2	5
3	習･験	論文作成指導 3	桝屋　二郎、本屋敷　美奈、石井　礼花、 森下　千尋、玉田　有、積　知輝	3-4	4

—— 小児科・思春期科学 ——

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　所
主任教授	山中　岳	火曜日　15:30～16:30	小児科・思春期科　教授室
准 教 授	柏木　保代	火曜日　15:30～16:30	小児科・思春期科　医局
准 教 授	山崎　崇志	火曜日　15:30～16:30	小児科・思春期科　医局
准 教 授	西亦　繁雄	火曜日　15:30～16:30	小児科・思春期科　医局
准 教 授	奥野　博庸	火曜日　15:30～16:30	小児科・思春期科　医局
講　師	石田　悠	火曜日　15:30～16:30	小児科・思春期科　医局
講　師	森地振一郎	火曜日　14:30～15:30	小児科・思春期科　医局
臨床講師	奈良昇乃助	水曜日　15:30～16:30	小児科・思春期科　医局
助　教	赤松　信子	火曜日　15:30～16:30	小児科・思春期科　医局
助　教	羽生　直史	火曜日　15:30～16:30	小児科・思春期科　医局
助　教	渡邊　由祐	火曜日　15:30～16:30	小児科・思春期科　医局

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

小児科の一般臨床では多彩な疾患を扱うため、それぞれの疾患の病因や発生機序について基本事項を理解するとともに基礎的な研究技法を学ぶ。また、臨床経験や文献検索から得られた情報を解析し、基礎的研究技法を用いて検証・応用する能力を育成する。こうして得られた研究成果を診療や医学教育に生かし、社会に還元することを目的とする。

【社会人大学院】

小児科の多彩な疾患に対し、一つもしくは二つの疾患について焦点を絞り、臨床経験や文献検索から得られた情報を集積・調査し、様々な角度から解析する能力を習得する。基礎的な研究技法も学び、臨床データを検証・応用する能力を育成する。こうして得られた研究成果を診療や医学教育に生かし、社会に還元することを目的とする。

Ⅳ．教育プログラム

【一般大学院】

1 年次

各専門分野の基礎となる小児疾患に関して幅広く学習を行う。研究に必要となる検査機器・診断方法等の基本的知識を習得する。

2 年次

小児疾患の基本的病因・病態を理解する。研究に必要となる診断方法・検査機器の操作方法等を習得する。

3 年次

データ分析しそれぞれの専門学会で報告を行う。

4 年次

専門学会での発表を行うとともに論文を作成する。

【社会人大学院】

1 年次

各専門分野の基礎となる小児疾患に関して幅広く学習を行う。疾患に関連した文献検索を行い知識を深める。

2 年次

実際の臨床臨床現場で診断法・治療等を経験する。引き続き疾患の病因、病態に関して知識を深める。

3 年次

臨床データの分析を行い、それぞれの専門学会で発表する。

4 年次

専門学会での発表を行うとともに論文を作成する。

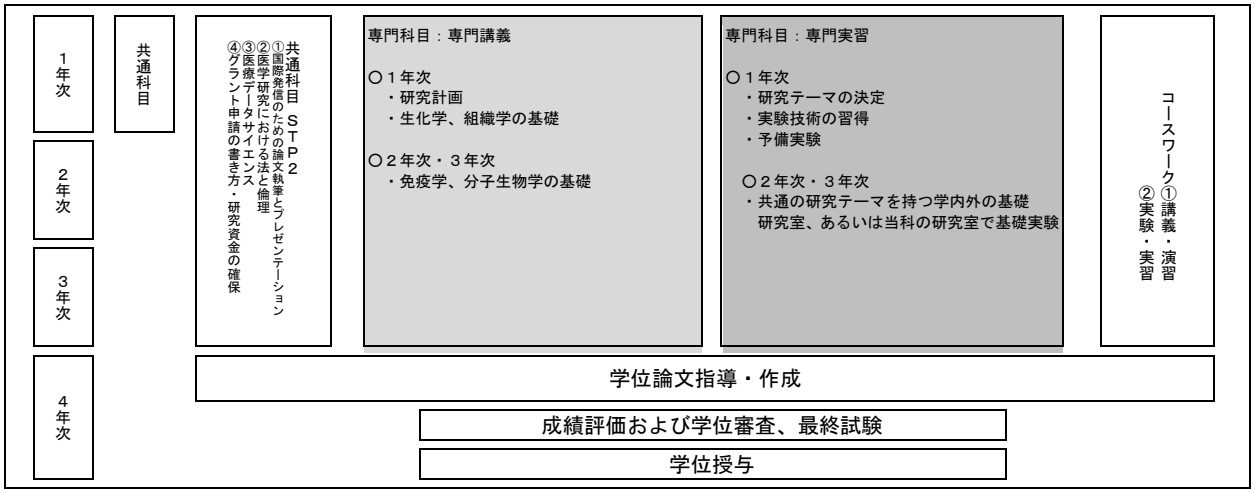
Ⅴ．授業科目・内容

【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	小児腎疾患	柏木　保代	1	2
2	講・演	小児消化器疾患	西亦　繁雄	1	2
3	講・演	原発性免疫不全症と自己炎症疾患	山崎　崇志	2	2
4	講・演	小児心身症	石田　悠	2	2
5	講・演	小児神経疾患	山中　岳	3	2
6	講・演	小児の虐待	石田　悠	3	2
1	験・習	サイトカインの測定と ELISA の実践	柏木　保代	1	2
2	験・習	免役解析の実際	山崎　崇志	1	2
3	験・習	小児肝臓疾患	西亦　繁雄	1	2
4	験・習	小児アレルギー疾患	赤松　信子	1	2
5	験・習	新生児呼吸障害	羽生　直史	1	2
6	験・習	小児けいれん性疾患における血液脳関門の機能障害の検討	山中　岳	2	2
7	験・習	小児の自己免疫疾患と血管炎（主に川崎病）	山崎　崇志	2	2
8	験・習	小児けいれん性疾患の免疫学的研究	森地 振一郎、渡邊 由祐	2	2
9	験・習	乳児てんかん性スパスム症候群(West症候群)における病態解明	森地 振一郎、渡邊 由祐	2	2
10	験・習	小児の循環器疾患	奈良　昇乃助	2	2
11	験・習	遺伝性疾患	奥野　博庸	3-4	2
12	験・習	小児先天異常	奥野　博庸	3-4	2
13	験・習	ビデオ脳波同時記録装置を用いた発作の評価	石田　悠、渡邊　由祐	3-4	2
14	験・習	脳循環酸素代謝を指標とした早産児管理	奈良　昇乃助	3-4	2

―― 皮 膚 科 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名 前	オフィスアワー	場 所
主任教授	原田 和俊	金曜日 9:00～12:00	新教育研究棟8階
教 授	伊藤 友章	木曜日 14:00～18:00	新教育研究棟8階
特任教授	大久保ゆかり	金曜日 14:00～18:00	新教育研究棟8階
准 教 授	堺 則康	金曜日 9:00～12:00	新教育研究棟8階
講 師	阿部名美子	木曜日 9:00～12:00	新教育研究棟8階
講 師	沼田 貴史	木曜日 14:00～18:00	新教育研究棟8階

Ⅲ．人材養成の目的

臨床皮膚科学に直結した研究テーマを持ち、自ら研究計画を立て、指導できる人材を養成する。将来的に研究テーマをさらに発展させることができる知識、技術を身につけることを目標とする。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

研究テーマを決定し、研究計画を立てる。必要な実験技術を習得させる。研究テーマに沿って予備実験を実習する。
臨床業務では、病棟と外来を約３ヶ月交代でローテーションする。外来では一般診療を担当する。

2 年次

共通の研究テーマを持つ、学内外の基礎研究室、あるいは当科の研究室で基礎研究を行う。
臨床業務では、再診外来、及び研究テーマに関連した専門外来を担当する。

3 年次

2 年次と同じ。

4 年次

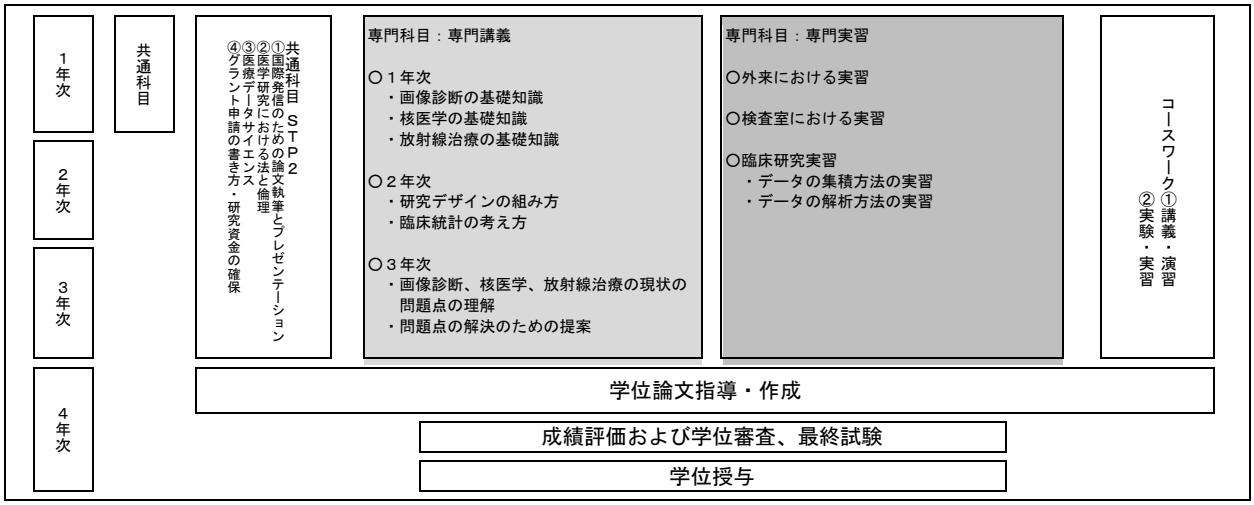
必要なデータを追加し、学位論文を作成する。
臨床業務では再診外来及び研究テーマに関連した専門外来を担当する。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	皮膚免疫アレルギー疾患の病態と治療	大久保　ゆかり	1	2
2	講・演	アレルギーの基礎と肥満細胞症の最新の知見	伊藤　友章	2	2
3	講・演	皮膚付属器学	原田　和俊	3	2
1	験・習	皮膚免疫アレルギー疾患の病態と解析	大久保　ゆかり	1	2
2	験・習	遺伝子機能解析	原田　和俊	2	2
3	験・習	細胞培養と応用	伊藤　友章	2	2
4	験・習	末梢血単核球からの遺伝子抽出とNF1遺伝子の変異検索	堺　　則康	3	2
5	験・習	臨床統計	阿部　名美子	3	2
6	験・習	遺伝子改変マウスと疾患モデルマウスを用いた実験手技の確立	沼田　貴史	3-4	4

―― 放 射 線 医 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	齋藤　和博	金曜日　16:00～18:00	読影室、教授室
教　　授	吉村　真奈	金曜日　16:00～18:00	核医学検査室
教　　授	中井　資貴	水曜日　16:00～18:00	読影室
特任教授	若林ゆかり	特に設けていない。	事前にアポイントメントをとること。
准 教 授	石田　尚利	水曜日以外 16：00～17：00	読影室
准 教 授	岡田　幸法	適時	事前にアポイントメントをとること。
講　　師	佐口　　徹	水曜日　16:00～18:00	読影室
講　　師	杉原　英治	特に設けていない。	事前にアポイントメントをとること。
講　　師	三上　隆二	金曜日　16:00～18:00	放射線治療計画室
講　　師	糸永　知広	適時	事前にアポイントメントをとること。
助　　教	田中　太郎	特に設けていない。	事前にアポイントメントをとること。
助　　教	山田　隆文	特に設けていない。	事前にアポイントメントをとること。
助　　教	安富　美香	特に設けていない。	事前にアポイントメントをとること。

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、科学する心を持った放射線科専門医の養成である。様々な知識を吸収するだけでなく、発信できる何かを持とうとする気持ちを持続することにより、学問の面白さを実感することにある。このような研究生活を通して、実績を積むだけでなく、医療のあらゆる場で役立つ力を身につけることを目的とする。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

基礎的な知識の吸収

2 年次

自らテーマを探す練習と上級医による研究計画の指導

3 年次

研究データの収集と解析法の取得

4 年次

英文論文の書き方

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	画像診断学の基礎	齋藤和博、吉村真奈、中井資貴、若林ゆかり、石田尚利、佐口　徹、三上隆二、山田隆文	1	2
2	講・演	画像診断学の最新論文の抄読	齋藤和博、吉村真奈、中井資貴、若林ゆかり、石田尚利、佐口　徹、杉原英治、三上隆二、田中太郎、山田隆文	1	2
3	講・演	放射線治療の基礎	岡田幸法、三上隆二、糸永知広	1	2
4	講・演	頭頚部画像診断・放射線治療	齋藤和博、吉村真奈、岡田幸法、三上隆二、糸永知宏、田中太郎、山田隆文、	2	2
1	験・習	CT 画像診断実習	齋藤和博、吉村真奈、中井資貴、石田尚利、糸永知広、田中太郎、山田隆文、	2	3
2	験・習	MRI 画像診断実習	齋藤和博、若林ゆかり、石田尚利、糸永知広、田中太郎	2	3
3	験・習	IVR 実習	中井資貴、佐口　徹、杉原英治	2	3
4	験・習	核医学実習	齋藤和博、吉村真奈、安富美香	2	3
5	験・習	放射線治療実習	岡田幸法、三上隆二、糸永知広	3	3

―― 臨床検査医学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	木内　　英	9:00～17:00	教授室
教　　授	天野　景裕	9:00～17:00 金曜除く	臨床検査医学科医局
准 教 授	四本美保子	9:00～17:00 月･金曜 AM 除く	臨床検査医学科医局
客員准教授	稲葉　　浩	9:00～17:00	臨床検査医学科実験室
客員准教授	蜂谷　敦子	9:00～17:00　水曜のみ	臨床検査医学科医局
講　　師	野坂(篠澤)圭子	9:00～17:00	臨床検査医学科実験室
講　　師	近澤　悠志	9:00～17:00	臨床検査医学科医局
講　　師	備後　真登	9:00～17:00	臨床検査医学科医局
臨床講師	村松　　崇	9:00～17:00 金曜除く	臨床検査医学科医局
助　　教	一木　昭人	9:00～17:00	臨床検査医学科医局
助　　教	宮下　竜伊	9:00～17:00	臨床検査医学科医局
	松田　将門	9:00～17:00	臨床検査医学科実験室

Ⅲ．人材養成の目的

臨床検査が臨床医によって合理的に利用され、臨床医学の発展に貢献するために、技術の開発と応用研究を行うことにより、この領域における専門医と専門性の高い研究者を養成することを目的とする。特に、血液凝固異常症とヒト免疫不全ウイルス感染症を中心とした医療を実践し、基礎研究・臨床研究を行うことにより臨床医学に密着した検査技術開発や治療法の開発を行う能力を養う。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

日本臨床検査医学会が定めている専門医カリキュラムに準じて臨床検査の基本を学習する。血液凝固異常症とヒト免疫不全ウイルス感染症を中心に、診断と治療の基本的原理を学び、臨床検査医学的な病態解析技術と臨床研究の基本を講義と演習を通じて習得する。

2 年次

日本臨床検査医学会が定めている専門医カリキュラムに準じて臨床検査の基本を学習する。分子生物学的な手法、特に、蛋白解析、遺伝子解析と蛋白発現を利用した分子生物学的研究の基礎を習得する。臨床研究を主体とすることを希望する者は、臨床症例の統計学的な手法による解析を中心とした研究方法を学習する。

3 年次

日本臨床検査医学会が定めている専門医カリキュラムに準じて臨床検査の基本を学習する。2 年間の実績と本人の意向をもとに、主任教授と指導教官および本人とで協議の上、学位研究のテーマと研究方法を決定し、指導教官とともにテーマに沿った研究を開始する。研究の進捗状況を評価し、目標の修正を加えながら研究を進め、学会等での研究発表を行なう。

4 年次

日本臨床検査医学会が定めている専門医カリキュラムに準じて臨床検査の基本を学習する。学位研究のテーマに沿った研究の進捗状況を評価し、目標の修正を加えながら研究を進め、最終目標へ到達する。研究について総合的に評価し、研究論文を作成し学位を取得する。

Ⅴ. 授業科目・内容

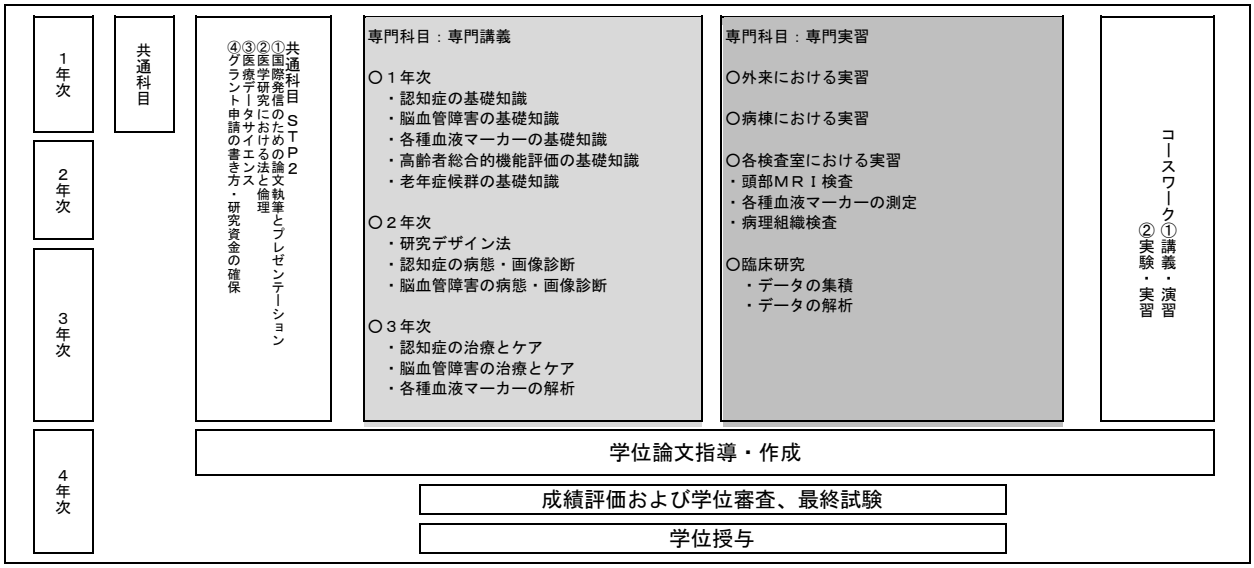
No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	臨床検査医学の総論から応用まで	木内　英、天野景裕、四本美保子、野坂(篠澤)圭子、 近澤悠志、備後真登、村松　崇、一木昭人、宮下竜伊	1	2
2	講・演	HIV 感染症の診断、治療	四本美保子、近澤悠志、備後真登、村松　崇、 一木昭人	1	2
3	講・演	研究計画の作成と施行の実際	稲葉　浩、野坂(篠澤)圭子、近澤悠志、備後真登、 松田将門	1	2
4	講・演	血液凝固異常症の診断、治療	木内　英、天野景裕、稲葉　浩、野坂(篠澤)圭子、 近澤悠志、備後真登、松田将門	2	2
5	講・演	抗HIV薬の種類･作用機序とその特徴	蜂谷敦子	2	2
6	講・演	症例検討会 1	木内　英、天野景裕、野坂(篠澤)圭子、近澤悠志、 備後真登、宮下竜伊、松田将門、	2	2
7	講・演	症例検討会 2	木内　英、天野景裕、四本美保子、近澤悠志、 村松　崇、備後真登、一木昭人、宮下竜伊	3	2
8	講・演	遺伝子技術と応用	稲葉　浩、野坂(篠澤)圭子	3	2
1	験・習	病棟回診	木内　英、天野景裕、四本美保子、近澤悠志、 備後真登、村松　崇、一木昭人、宮下竜伊	1	2
2	験・習	外来陪席　血液凝固･輸血･感染免疫	木内　英、天野景裕、四本美保子、近澤悠志、 備後真登、村松　崇、一木昭人、宮下竜伊	1	3

3	験・習	病棟実習	木内　英、天野景裕、近澤悠志、備後真登、 村松　崇、一木昭人、宮下竜伊	2	3
4	験・習	臨床検査・輸血部門実習	木内　英、天野景裕、四本美保子、近澤悠志、 備後真登、村松　崇、一木昭人、宮下竜伊	2	3
5	験・習	専門検査　遺伝子検査等	野坂(篠澤)圭子	3-4	3

―― 高齢総合医学 ――

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	清水聰一郎	火曜日　14:00～16:00 17:00～19:00 水曜日　11:30～13:00	新教育研究棟7階　医局
准 教 授	佐藤　友彦	火曜日　17:00～19:00 水曜日　11:30～13:00	新教育研究棟7階　医局
講　　師	阿部　晋衛	火曜日　14:00～16:00	新教育研究棟7階　医局
講　　師	廣瀬　大輔	火曜日　17:00～19:00	新教育研究棟7階　医局
非常勤講師	植松　淳一	－	－

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

老年医学の目標は高齢者のＡＤＬ、ＱＯＬを維持･向上させ、健康寿命を延長させることにある。このため、これらを阻害する老年症候群の予防、治療、介護が必要であり、特に予防が重要視される。しかし、その守備範囲は広く、これらの病因・病態を科学的に究明していかなければならないが、本講座では認知症、脳血管障害をはじめとする神経疾患や老年症候群、フレイル、サルコペニアが研究の対象となっている。

【社会人大学院】

老年医学の目標は高齢者のＡＤＬ、ＱＯＬを維持･向上させ、健康寿命を延長させることにある。このため、これらを阻害する老年症候群の予防、治療、介護が必要であり、特に予防が重要視される。しかし、その守備範囲は広く、これらの病因・病態を科学的に究明していかなければならない

が、本講座では認知症、脳血管障害をはじめとする神経疾患や老年症候群、フレイル、サルコペニアが研究の対象になっている。

Ⅳ．教育プログラム

【一般大学院】

1 年次

認知症・脳血管障害・老年症候群（フレイル/サルコペニアを含む）の基礎知識（病因、病態、遺伝学的背景、早期診断、画像診断、治療）について学習する。

2 年次

認知症・脳血管障害・老年症候群（フレイル/サルコペニアを含む）に関して広く国内外の論文を抄読し、最新の情報と現状の問題点、今後の展望・方向性について学習する。

3 年次

認知症・脳血管障害・老年症候群（フレイル/サルコペニアを含む）の中で、研究課題に関する国内外の論文を抄読し、最新の情報と問題点を把握し、研究方法を確立して研究を開始する。

4 年次

研究・解析成績を論文に仕上げる指導を行う。

【社会人大学院】

1 年次

認知症・脳血管障害・老年症候群（フレイル/サルコペニアを含む）の基礎知識（病因、病態、遺伝学的背景、早期診断、画像診断、治療）について学習する。

2 年次

認知症・脳血管障害・老年症候群（フレイル/サルコペニアを含む）に関して広く国内外の論文を抄読し、最新の情報と現状の問題点、今後の展望・方向性について学習する。

3 年次

認知症・脳血管障害・老年症候群（フレイル/サルコペニアを含む）の中で、研究課題に関する国内外の論文を抄読し、最新の情報と問題点を把握し、研究方法を確立して研究を開始する。

4 年次

研究・解析成績を論文に仕上げる指導を行う。

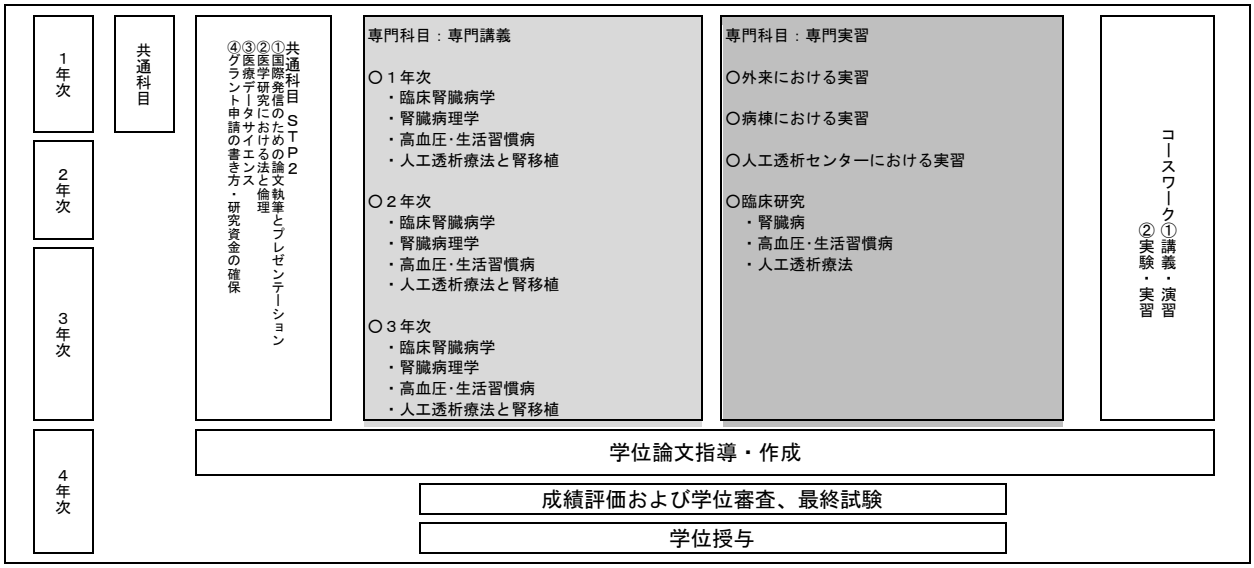
Ⅴ．授業科目・内容

【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	高齢者総合的機能評価と老年症候群	廣瀬　大輔	1	2
3	講・演	認知症、フレイル／サルコペニアの診断	清水　聰一郎	2	2
4	講・演	認知症の治療とケア	清水　聰一郎	3	2
1	験・習	認知症の実践１	清水　聰一郎、佐藤　友彦、廣瀬　大輔	1	4
2	験・習	認知症の実践２	清水　聰一郎、佐藤　友彦、廣瀬　大輔	2	4
3	験・習	認知症・神経疾患・老年疾患の実践	清水　聰一郎、佐藤　友彦、阿部　晋衛、 廣瀬　大輔、植松　淳一	2	4
4	験・習	認知症・神経疾患の実践	清水　聰一郎、佐藤　友彦、阿部　晋衛、 廣瀬　大輔	3	3

―― 腎 臓 内 科 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	菅野　義彦	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　教授室
教　　授	森山　能仁	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
教　　授	尾田　高志	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
教　　授	平山　浩一	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
教　　授	岩本　　整	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
准 教 授	山田　宗治	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
准 教 授	今野　　理	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
客員准教授	竹口　文博	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
講　　師	長井　美穂	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
講　　師	内田　貴大	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
講　　師	藤井　理恵	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
講　　師	丸山　浩史	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局
助　　教	齋藤　　優	水曜日　15:00～16:00	新教育研究棟8階　医局

Ⅲ．人材養成の目的

高血圧など生活習慣病を含む腎臓病学を専門とする内科医を育成する。研究を通して腎臓病にかかわる情報を収集し、整理、統合した上で、自らの経験や研究結果との比較から得られた知見をわかりやすい形で情報発信できる、指導的な立場を務め得る内科医を育成する。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

内科医としての知識と経験を身につけるために、初期臨床研修で経験が不充分な分野について研修を行う。これにより腎臓と全身疾患との関連も理解する。平行して腎臓病学に関する基本的な知識を各人の能力に合わせて指導者が選んだ教科書で学ぶ。臨床活動の中で興味のある事象から研究テーマを考える。

2 年次

腎臓病の診療を担当することにより、腎疾患の診療姿勢を学ぶ。平行して自らの研究テーマに必要な方法を検討し、その準備を行う。国内外の他施設で学習する必要性があればその準備を行う。腎臓に関する国際学会に出席し、興味のある領域の最新情勢を体感する。

3 年次

腎臓病の診療を継続しながら、自らの研究テーマに関する研究活動を行う。診療・研究に関して下級生の指導も行う。得られたデータを国内外の学会で発表する。

4 年次

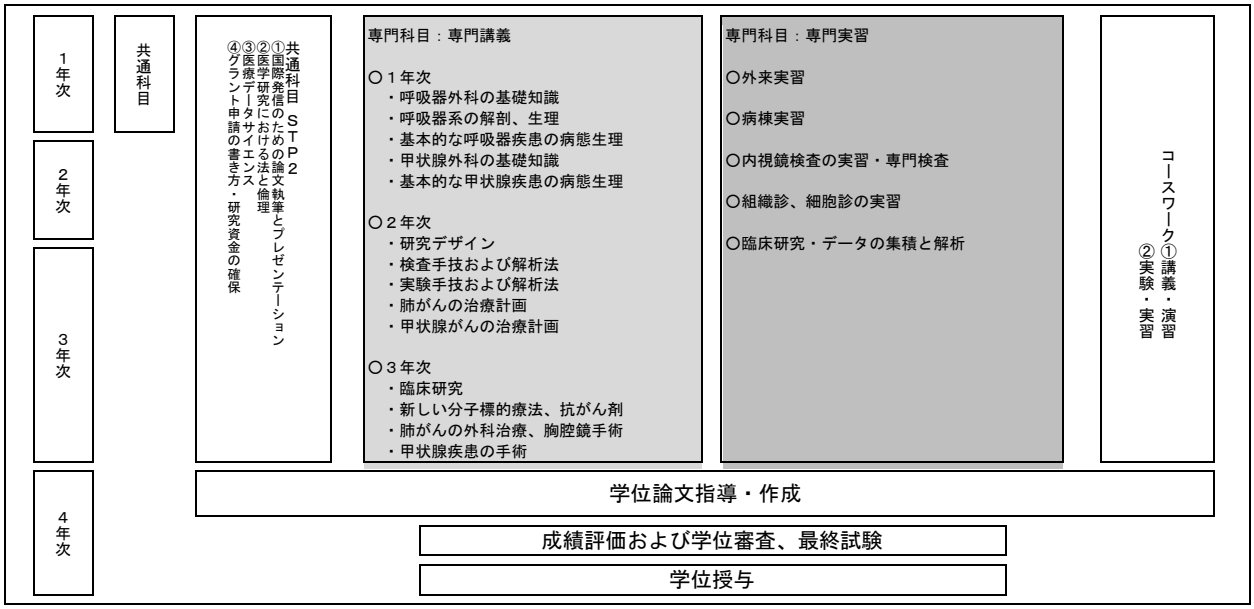
腎臓病の診療を継続しながら、博士論文を作成する。診療・研究に関して下級生の指導を行う。また卒後の方向性について準備を行う。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	高血圧症の診断、治療法	菅野義彦	1	2
2	講・演	腎臓病学総論	菅野義彦、森山能仁、尾田高志、平山浩一	1	2
3	講・演	腎機能にあわせた腎置換療法	菅野義彦、岩本　整、竹口文博、長井美穂、齋藤　優	1	2
4	講・演	長期人工透析療法の実際	菅野義彦、森山能仁、竹口文博、長井美穂、齋藤　優	2	2
5	講・演	主な腎疾患の診断、治療指針	平山浩一、森山能仁、丸山浩史、齋藤　優、	2	2
6	講・演	腎疾患に関する最新の知識	菅野義彦、森山能仁、尾田高志	3	2
1	験・習	尿沈査実習	長井美穂、齋藤　優	1	2
2	験・習	長期人工透析療法の実際	菅野義彦、森山能仁、今野　理、長井美穂、斎藤　優	2	2
3	験・習	外来陪席	菅野義彦、森山能仁、山田宗治、長井美穂、齋藤　優	2	2
4	験・習	病棟回診	菅野義彦	3-4	2
5	験・習	腎病理実習	森山能仁、齋藤　優	3-4	2
6	験・習	腎生検実習	森山能仁、齋藤　優	3-4	2
7	験・習	症例検討会	今野　理、内田貴大、藤井理恵、齋藤　優	3-4	2

—— 呼吸器・甲状腺外科学 ——

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	工藤　勇人	月曜日　18:00～19:00	外科医局
教　　授	筒井　英光	月曜日　18:00～19:00	外科医局
教　　授	大平　達夫	月曜日　18:00～19:00	外科医局
准 教 授	垣花　昌俊	月曜日　18:00～19:00	外科医局
講　　師	矢野由希子	月曜日　18:00～19:00	外科医局
講　　師	古本　秀行	月曜日　18:00～19:00	外科医局
助　　教	雨宮　亮介	月曜日　18:00～19:00	外科医局
助　　教	江里口大介	月曜日　18:00～19:00	外科医局
助　　教	山道　　尭	月曜日　18:00～19:00	外科医局

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、呼吸器・甲状腺の外科適応となる疾患を中心にエビデンスに基づいて診断・治療を遂行するとともに、研究も両立できる呼吸器外科専門医、甲状腺外科専門医を養成することである。肺癌や甲状腺疾患の診断、外科治療、薬物療法　等について基礎研究、臨床研究を行い、論理的に診断、治療を計画できる能力を養う。また新しい診断法や治療法の開発についても積極的に参加する。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

対象とする研究領域の背景を理解することを目的に実際の臨床での診療現場を経験し、研究テーマの目標と必要性を理解する。指導者と共に具体的な実験計画を立案し、実施に移す。

2 年次

研究計画に基づく研究の実施。必要に応じて学内外の研究施設で研究を継続する。

3 年次

研究計画に基づく研究の実施。必要に応じて学内外の研究施設で研究を継続する。

4 年次

研究成果を論文にまとめる。

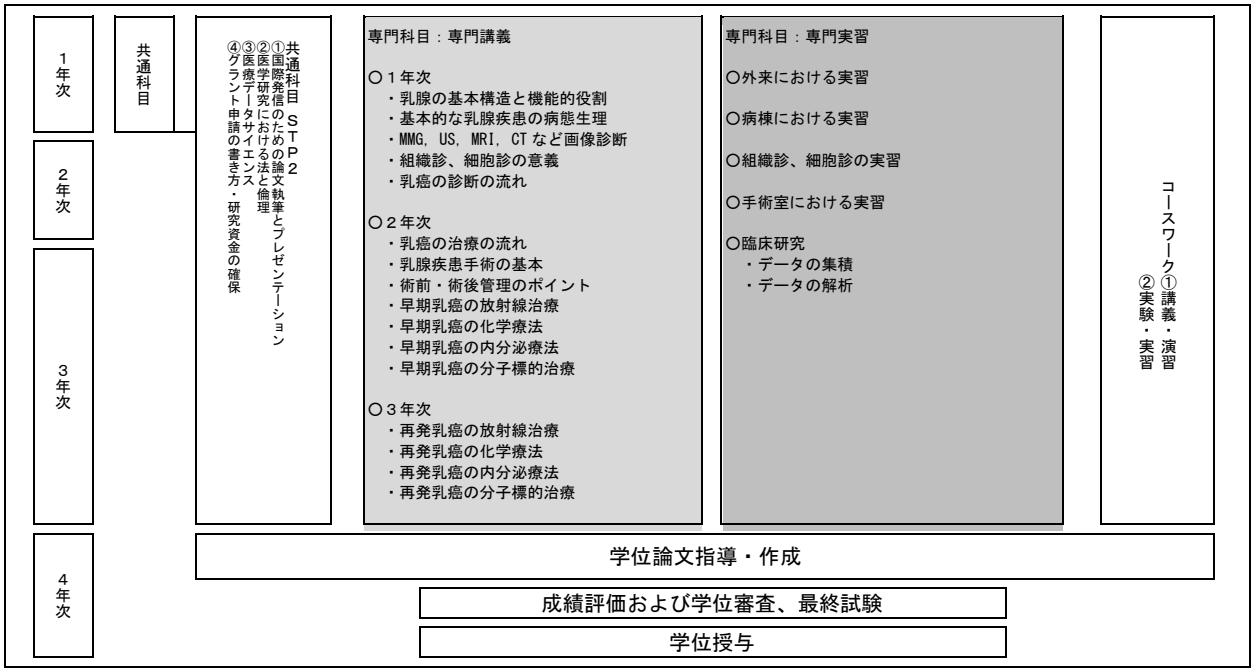
Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	肺癌の現状と将来	工藤勇人、大平達夫、垣花昌俊、古本秀行	1	2
2	講・演	甲状腺疾患の診断と治療	筒井英光、矢野由希子	2	2
3	講・演	肺癌のトランスレーショナルリサーチ	工藤勇人、大平達夫、垣花昌俊、	3	2
4	講・演	肺癌の薬物療法	工藤勇人、大平達夫	3	2
5	講・演	呼吸器疾患の移植再生医療・ロボット外科	工藤勇人、大平達夫、古本秀行、雨宮亮介、江里口大介	3-4	2
6	講・演	肺癌に対する集学的治療	工藤勇人、大平達夫、古本秀行、雨宮亮介、江里口大介	3-4	2
7	講・演	肺癌の気道狭窄に対するインターベンション	工藤勇人、垣花昌俊、古本秀行、雨宮亮介	3-4	2
1	験・習	病棟回診	工藤勇人、大平達夫、垣花昌俊、雨宮亮介	1	3
2	験・習	手術実習	大平達夫、筒井英光、古本秀行、江里口大介	1	3
3	験・習	病棟実習	筒井英光、垣花昌俊、古本秀行、雨宮亮介、江里口大介	1	5
4	験・習	外来実習	江里口大介	1	5
5	験・習	気管支鏡検査実習	垣花昌俊、雨宮亮介、江里口大介、山道　尭	2	4
6	験・習	細胞診実習	垣花昌俊	3-4	4

―― 乳 腺 科 学 ――

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	石川　　孝	水曜日　17:00～18:00	医局
教　　授	山田　公人	-	八王子医療センター
准 教 授	堀本　義哉	金曜日　16:00～17:00	医局
講　　師	河手　敬彦	金曜日　16:00～17:00	医局
助　　教	日馬　弘貴	金曜日　16:00～17:00	医局

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

本コースの目的は、探究心旺盛で人間味にあふれる乳腺専門医の養成である。大学院での研究を通じて、エビデンスに基づいて論理的に診断・治療を組み立てて行く能力を養うとともに、新しい診断・治療法の開発や疾患概念の見直しができる柔軟な思考力、それを現実の形にするための実行力を養う。

【社会人大学院】

本コースの目的は、探究心旺盛で人間味にあふれる乳腺専門医の養成である。大学院での研究を通じて、エビデンスに基づいて論理的に診断・治療を組み立てて行く能力を養うとともに、新しい

診断・治療法の開発や疾患概念の見直しができる柔軟な思考力、それを現実の形にするための実行力を養う。

Ⅳ．教育プログラム

【一般大学院】／【社会人大学院】

1 年次

乳腺の解剖・生理および乳腺疾患の病態生理など基礎的知識、そして適切な診断技能の習得を図る。

2 年次

適切な診断に続き、乳癌の治療の流れを把握し、早期乳癌に対する各治療法の知識の習得・整理を図るとともに、手術を中心とする実習を重点的に実施する。研究デザインを計画し、データの集積の準備をする。

3 年次

乳癌の治療の流れを把握し、再発乳癌に対する各治療法の知識の習得・整理を図るとともに、患者および家族に親身な態度で、適切な説明する実習を実施する。研究データの集積と解析をする。

4 年次

研究データの集積と解析をすすめ、論文作成を行い、学術雑誌に投稿する。論文の掲載許可を以て、大学院の課程が修了したものと見做す。

Ⅴ．授業科目・内容

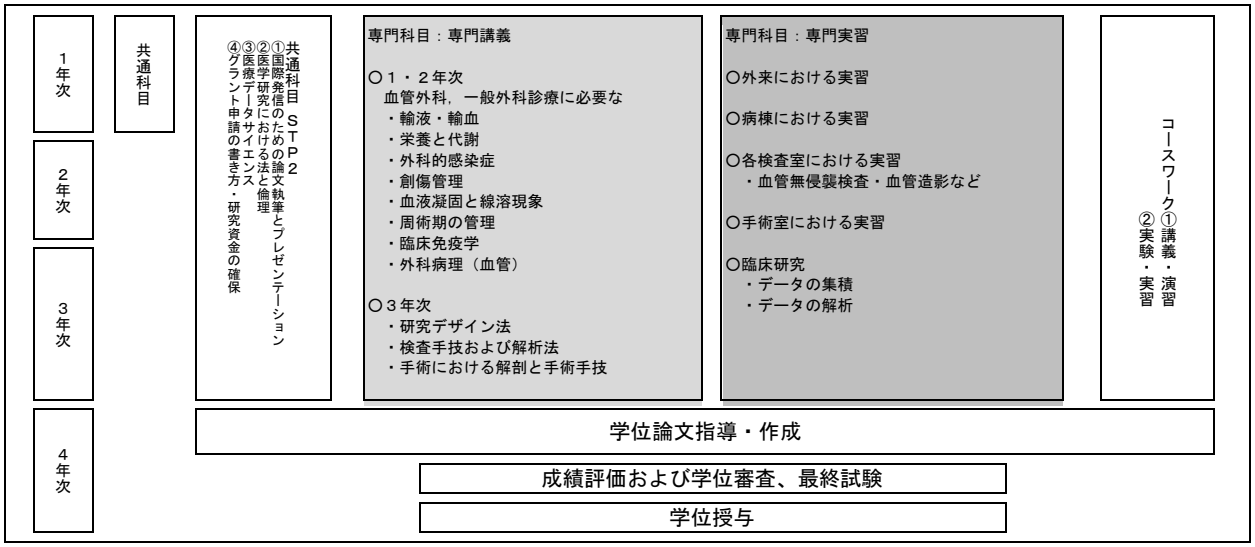
【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	乳癌・乳腺疾患の診断	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	1	2
2	講・演	乳癌の放射線療法	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	1	2
3	講・演	乳癌の外科治療	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	1-3	3
4	講・演	乳癌の化学療法・分子標的療法	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	1-3	3
5	講・演	再発乳癌の治療	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	1-3	3
6	講・演	術前・術後 症例検討会	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	1-3	3
7	講・演	乳癌診療・研究の現状と将来	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	3-4	3
1	験・習	病棟回診	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	1	2
2	験・習	外来実習 1	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	1-3	2
3	験・習	病棟患者カンファレンス	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	1-3	3

4	験・習	手術実習 1	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	1-3	4
5	験・習	外来実習 2	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	3	3
5	験・習	手術実習 2	石川　孝、山田公人、堀本義哉、河手敬彦、日馬弘貴	3-4	2
7	験・習	外来実習 3	石川　孝、山田公人、堀本義哉、日馬弘貴	3-4	2

—— 心臓血管外科学 ——

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	島原　佑介	月～金　9:00～17:00	新教育研究棟9階　医局
教　　授	福田　尚司	月～金　9:00～17:00	新教育研究棟9階　医局
准 教 授	岩橋　　徹	月～金　9:00～17:00	新教育研究棟9階　医局
准 教 授	藤吉　俊毅	月～金　9:00～17:00	新教育研究棟9階　医局
講　　師	加納　正樹	月～金　9:00～17:00	新教育研究棟9階　医局

Ⅲ．人材養成の目的

本コースを通じて心臓血管外科における基本的問題解決に必要な基礎的知識、技能を修得する。また学術研究を積極的に行い、直面している症例を臨床・基礎の両面より科学的に分析する能力を養うことを目的とする。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

心臓血管外科の基本的問題解決に必要な基礎的知識、技能の修得を図るとともに、講義演習と実験・実習を重点的に実施する。専門医取得を目的とした手術経験を積む。

2 年次

心臓血管外科の基本的問題解決に必要な基礎的知識、技能の修得を図るとともに、講義演習と実験・実習を重点的に実施する。専門医取得を目的とした手術経験を積む。

3 年次

実験・実習の結果を解析する。また解析結果によっては、実験・実習を追加して行い、目的とした結論が得られるようにする。論文作成を行い、できる限り国際的に権威のある雑誌に投稿する。論文の掲載許可をもって大学院の課程が終了したものとみなす。

4 年次

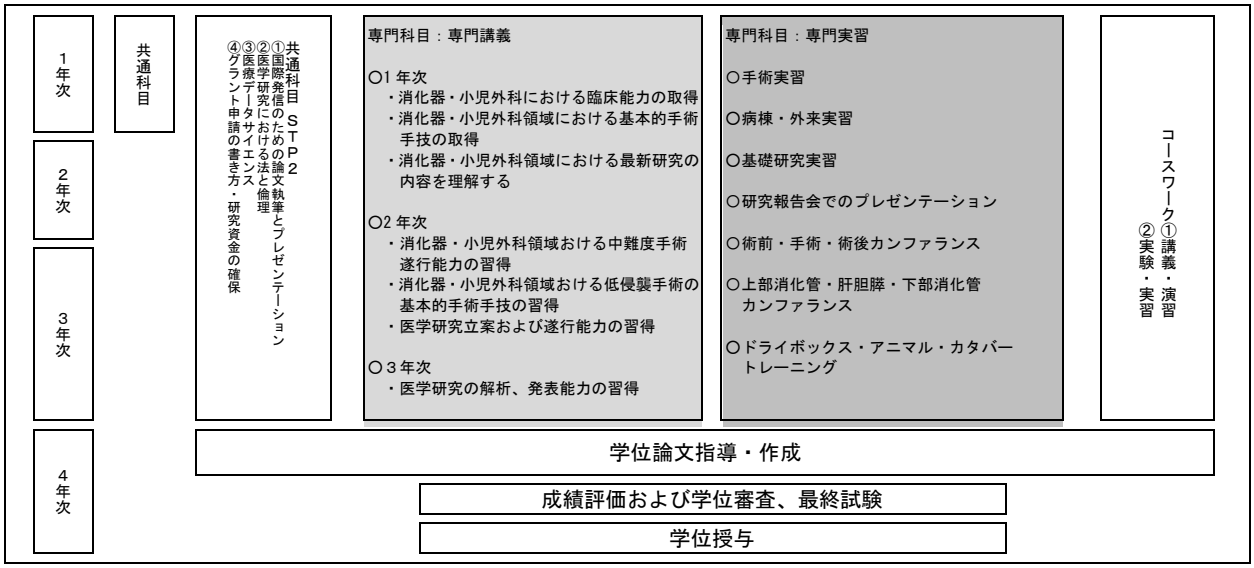
実験・実習の結果を解析する。また解析結果によっては、実験・実習を追加して行い、目的とした結論が得られるようにする。論文作成を行い、できる限り国際的に権威のある雑誌に投稿する。論文の掲載許可をもって大学院の課程が終了したものとみなす。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当年次	単位
1	講・演	心臓血管外領域における CT 画像解析	島原佑介、福田尚司、岩橋　徹、藤吉俊毅、加納正樹	1	2
2	講・演	心臓手術	島原佑介	1-3	2
3	講・演	下肢末梢血管疾患および再生医療	福田尚司、岩橋　徹、加納正樹	1-3	2
4	講・演	大動脈ステントグラフト内挿術	岩橋　徹	1-3	2
5	講・演	大動脈手術	藤吉俊毅	1-3	2
1	験・習	手術Ⅰ	島原佑介、岩橋　徹、藤吉俊毅、加納正樹	1	3
2	験・習	手術Ⅱ	島原佑介、岩橋　徹、藤吉俊毅、加納正樹	2	3
3	験・習	モーニングカンファレンス	島原佑介、福田尚司、岩橋　徹、藤吉俊毅、加納正樹	1-3	2
4	験・習	病棟回診	島原佑介、福田尚司、岩橋　徹、藤吉俊毅、加納正樹	1-3	1
5	験・習	症例検討会	島原佑介、福田尚司、岩橋　徹、藤吉俊毅、加納正樹	1-3	2
6	験・習	手術Ⅲ	島原佑介、岩橋　徹、藤吉俊毅、加納正樹	3-4	3

―― 消化器・小児外科学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　所
主任教授	永川　裕一	火曜日　18:00～20:00	新教育研究棟9階　医局
准 教 授	金沢　景繁	火曜日　18:00～20:00	新教育研究棟9階　医局
准 教 授	古賀　寛之	火・金　18:00～20:00	新教育研究棟9階　医局
准 教 授	小熊　潤也	火曜日　18:00～20:00	新教育研究棟9階　医局
准 教 授	真崎　純一	水・金　18:00～20:00	新教育研究棟9階　医局
講　　師	栗原　　寛	火曜日　17:30～18:00	新教育研究棟9階　医局
講　　師	刑部　弘哲	火曜日　18:00～20:00	新教育研究棟9階　医局
講　　師	笠原　健大	火曜日　18:00～20:00	新教育研究棟9階　医局

Ⅲ．人材養成の目的

消化器外科・小児外科領域おける最新の低侵襲手術や個別化医療を学習し、高度な外科的治療や最新の治療法を習得するとともに、国際的に通用する独創性の高い研究を遂行できる Academic surgeon の養成を目的とする。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

・消化器・小児外科における臨床問題解決能力の習熟および深化を図るとともに、プレゼンテーション能力を育成する。
・消化器・小児外科領域における基本的手術手技を取得し、論理的な観点からも手術の本質を理解する。
・消化器・小児外科領域における最新研究の内容を理解する。

2 年次

・消化器外科・小児外科領域での中難度手術を習得し、指導医のもと実践できる能力を習得する。
・消化器・小児外科領域での低侵襲手術における基本的手術手技を理解し習得する。
・臨床における解決すべき課題を見出し、その解決のために自立して研究計画を立案して実行することができる基本的研究能力を養う。

3 年次

・研究結果を解析して適切に評価し、研究を自立して推進していくことができる能力を育成する。
・研究成果を的確にプレゼンテーションし、結果に関して他の研究者とデスカッションできる能力を養う。

4 年次

・研究成果をまとめ、論文作成を行い、できる限り国際的に権威のある学術雑誌に投稿する。
・論文の掲載許可をもって大学院の課程が終了したものとみなす。

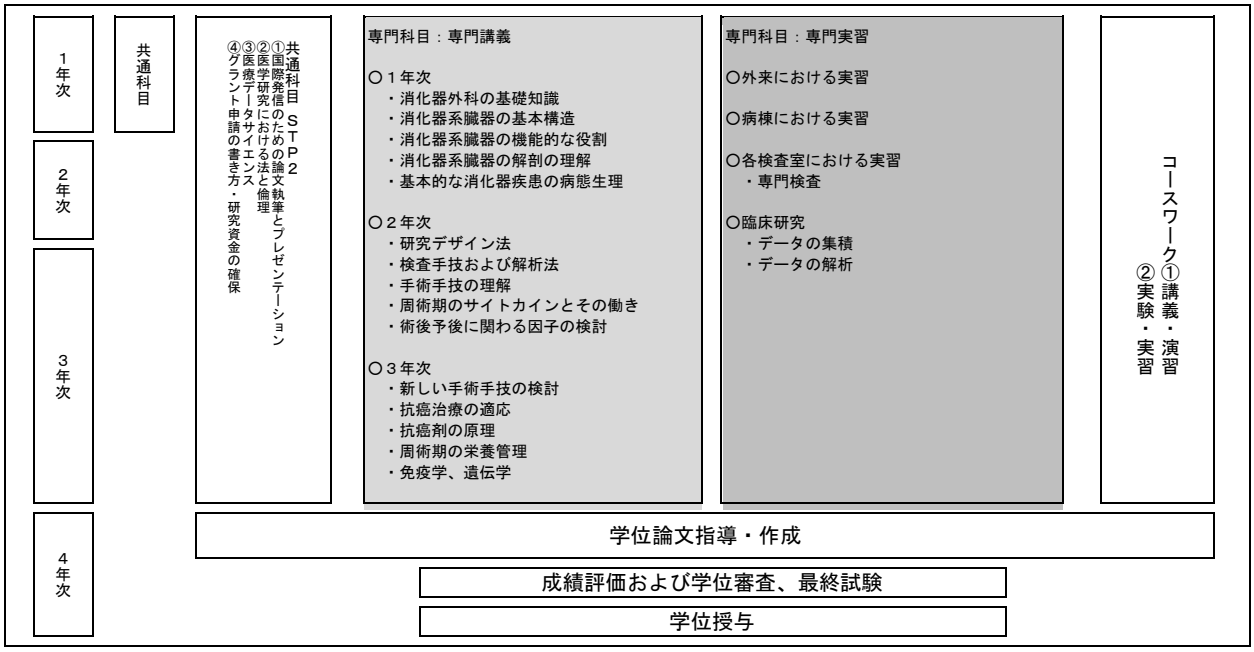
Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	術前・手術カンファランス	永川裕一	1	2
2	講・演	術後カンファランス	永川裕一	1	2
3	講・演	肝胆膵領域における 外科的治療・低侵襲手術・個別化医療	永川裕一、金沢景繁、刑部弘哲、笠原健大	2	2
4	講・演	消化器・小児外科領域における最新研究	古賀寛之、小熊潤也、真崎純一、笠原健大	2	2
5	講・演	上部消化管領域における 外科的治療・低侵襲手術・個別化医療	小熊潤也	2	2
6	講・演	下部消化管領域における 外科的治療・低侵襲手術・個別化医療	真崎純一	2	2
1	験・習	ドライボックストレーニング	永川裕一、金沢景繁、古賀寛之、小熊潤也、 真崎純一、桑原　寛、刑部弘哲、笠原健太	1	2
2	験・習	外来実習	永川裕一、金沢景繁、古賀寛之、小熊潤也、 真崎純一、桒原　寛	1	2
3	験・習	病棟実習	永川裕一、金沢景繁、古賀寛之、小熊潤也、 真崎純一、桒原　寛	1	2
4	験・習	手　術（肝胆膵）	永川裕一、金沢景繁、刑部弘哲、笠原健大	3-4	2
5	験・習	手　術（小児）	古賀 寛之	3-4	2
6	験・習	手　術（上部消化管）	小熊潤也	3-4	2
7	験・習	手　術（下部消化管）	真崎純一、笠原健大	3-4	2

―― 消化器外科学 ――

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　所
主任教授	鈴木　修司	月曜日　17:00～18:00	教授室
教　授	下田　貢	月曜日　17:00～18:00	医局
准教授	島崎　二郎	月曜日　17:00～18:00	医局
講　師	宮本　良一	月曜日　17:00～18:00	医局
講　師	渡邊　充	月曜日　17:00～18:00	医局
助　教	椎原　正尋	月曜日　17:00～18:00	医局

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

本コースの目的は、誠実で真摯な消化器外科専門医の養成である。大学院での研究を通じて、幅広い知識と実践的な研究成果を追求する能力を養う。苦しんでいる患者のためになにができるかを真剣に考えその中で、医師としての社会貢献を探究していく。

【社会人大学院】

本コースの目的は、大学院での研究を通じて、幅広い知識と実践的な研究成果を追求する能力を養うことである。苦しんでいる患者のためになにができるかを真剣に考えその中で、医学に関わる研究者としての社会貢献の方法を探究していく。

Ⅳ．教育プログラム

【一般大学院】／【社会人大学院】

1 年次

テーマに合った国内外の論文の検索と抄読を中心に行い、学会、研究会参加で知識を習得。

2 年次

実際の手術や手術材料、周術期の患者検体を用い、癌に関わる各種因子を検討する。

3 年次

研究内容の学会発表、論文作成。

4 年次

論文誌上発表。

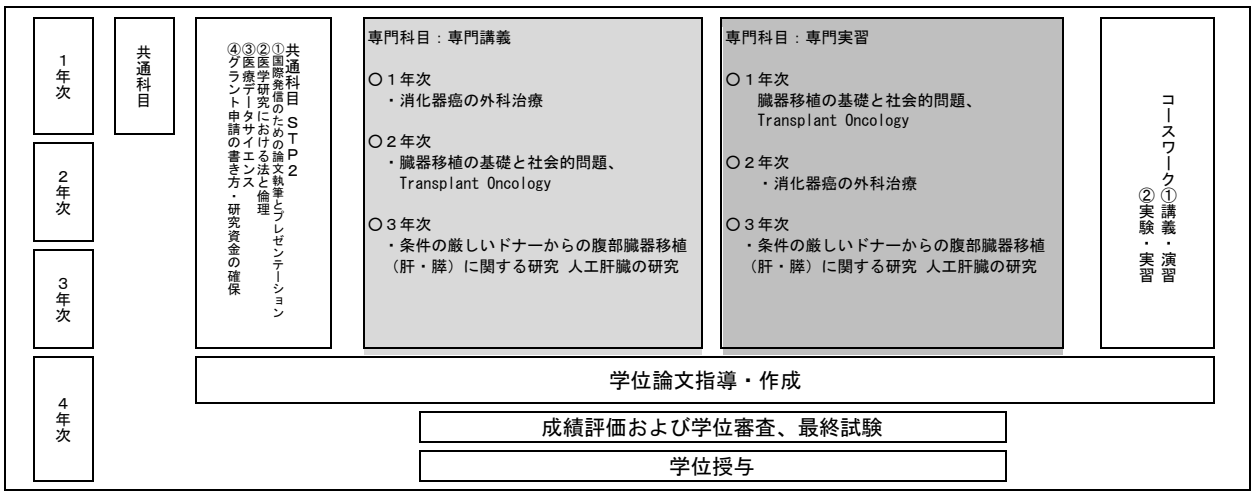
Ⅴ．授業科目・内容

【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	消化器外科学総論	鈴木　修司	1	2
2	講・演	鏡視下外科の診断、治療指針	島崎　二郎、宮本　良一	1	2
3	講・演	食道胃外科の診断、治療指針	鈴木　修司	2	2
4	講・演	肝胆膵外科の診断、治療指針	下田　貢	2	2
5	講・演	大腸肛門外科の診断、治療指針	島崎　二郎、渡邊　充	2	2
6	講・演	症例検討会	鈴木　修司	3	2
7	講・演	手術侵襲と生体反応	島崎　二郎	3-4	2
1	験・習	病棟実習	島崎　二郎	1	2
2	験・習	病棟回診	宮本　良一、椎原　正尋	1	2
3	験・習	手術実習	鈴木　修司、下田　貢	2	2
4	験・習	手術標本整理	椎原　正尋	2	2
5	験・習	外来陪席	宮本　良一	3	2
6	験・習	上部内視鏡検査	島崎　二郎	3-4	2
7	験・習	大腸内視鏡検査	島崎　二郎	3-4	2

—— 消化器外科・移植外科学 ——

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　所
主任教授	河地　茂行	金曜日　17:00～18:30	八王子医療センター　消化器外科・移植外科学　医局
准 教 授	千葉　斉一	金曜日　17:00～18:30	八王子医療センター　消化器外科・移植外科学　医局
講　　師	田渕　　悟	金曜日　17:00～18:30	八王子医療センター　消化器外科・移植外科学　医局
講　　師	佐野　　達	金曜日　17:00～18:30	八王子医療センター　消化器外科・移植外科学　医局
助　　教	小林　敏倫	金曜日　17:00～18:30	八王子医療センター　消化器外科・移植外科学　医局
助　　教	郡司　崇裕	金曜日　17:00～18:30	八王子医療センター　消化器外科・移植外科学　医局

Ⅲ．人材養成の目的

（調整中）

Ⅵ．教育プログラム

1 年次

講義実習中心となる。
実験実習の中からテーマを持ち周辺領域の学習ならびに実験手技を習得する。

2 年次

テーマにそって、調査を行い、統計を学ぶ。
講座内でのリサーチカンファレンスで発表。研究の進行度をチェックする。

3 年次

テーマにそって、調査を行い、統計を学ぶ。
講座内でのリサーチカンファレンスで発表。研究の進行度をチェックする。

4 年次

英語論文を必須とする。国外での発表を希望する。

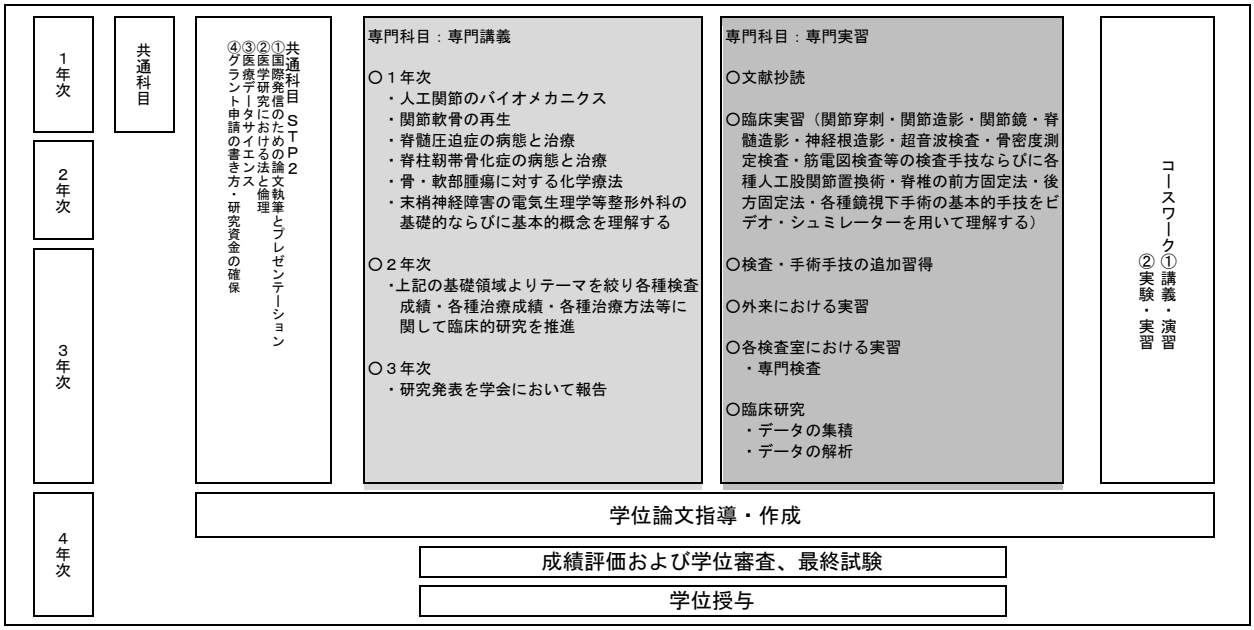
Ⅴ. 授 業 内 容

No	講・演 験・習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	消化器癌の外科治療	千葉　斉一、田渕　悟、佐野　達、 小林　敏倫、郡司　崇裕	1	2
2	講・演	臓器移植の基礎と社会的問題、Transplant Oncology	河地　茂行、千葉　斉一、佐野　達、 郡司　崇裕	2	2
3	講・演	条件の厳しいドナーからの腹部臓器移植（肝・膵） に関する研究 人工肝臓の研究	河地　茂行、千葉　斉一、佐野　達、 郡司　崇裕	3	2
1	習・験	小動物の肝移植モデル	河地　茂行、千葉　斉一、佐野　達、 郡司崇裕	1	5
2	習・験	抗がん剤感受性試験	千葉　斉一、田渕　悟、小林　敏倫、 郡司　崇裕	2	5
3	習・験	DSA の測定法	河地　茂行、千葉　斉一、田渕　悟、 佐野　達、小林　敏倫、郡司　崇裕	3-4	4

—— 整形外科学 ——

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　所
主任教授	山本　謙吾	随時	新教育研究棟10階　教授室
教　授	遠藤　健司	随時	新教育研究棟12階　整形外科医局
准教授	立岩　俊之	随時	新教育研究棟12階　整形外科医局
臨床准教授	小山　尊士	随時	新教育研究棟12階　整形外科医局
講　師	石田　常仁	随時	新教育研究棟12階　整形外科医局
講　師	西村　浩輔	随時	新教育研究棟12階　整形外科医局
助　教	高橋　康仁	随時	新教育研究棟12階　整形外科医局
助　教	畠中　孝則	随時	新教育研究棟12階　整形外科医局
助　教	永井　太朗	随時	新教育研究棟12階　整形外科医局
助　教	松岡　恒弘	－	－

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

本コースの目的は、探究心旺盛で、独創性にあふれる医師を養成することである。大学院での実験・研究を通し、論理的に新規の研究計画を組み立てていく能力を養うとともに、後輩医師に対しての研究指導ができる能力を養う。

【社会人大学院】

本コースの目的は、探究心旺盛で、人間味にあふれる整形外科専門医を養成することである。大学院での研究を通し、論理的に診断・治療を組み立てていく能力を養うとともに、新しい診断・治療法の開発や疾患概念の見直しができる柔軟な思考力､それを現実の形にするための実行力を養う。

Ⅳ．教育プログラム

【一般大学院】

1 年次

骨・関節軟骨の解剖・バイオメカニクス・関節軟骨の代謝・脊髄圧迫症の病態解明・脊柱靭帯骨化症の病態と治療・骨軟部腫瘍の病態と化学療法・末梢神経障害の電気生理学等の整形外科の基礎的ならびに基本的概念を理解する。

2 年次

上記の基礎領域よりテーマを絞り、実験動物などを用いた基礎的研究を行う。

3 年次

研究発表を学会において報告する。

4 年次

研究結果を論文にまとめ、権威ある学術誌に投稿する。

【社会人大学院】

1 年次

人工関節のバイオメカニクス・関節軟骨の再生・脊髄圧迫症の病態と治療・脊柱靭帯骨化症の病態と治療・骨軟部腫瘍の病態と化学療法・末梢神経障害の電気生理学等の整形外科の基礎的ならびに基本的概念を理解する。

2 年次

上記の基礎領域よりテーマを絞り各種検査成績・各種治療成績・各種治療方法等に関して臨床的研究を推進する。

3 年次

研究発表を学会において報告する。

4 年次

研究結果を論文にまとめ、権威ある学術誌に投稿する。

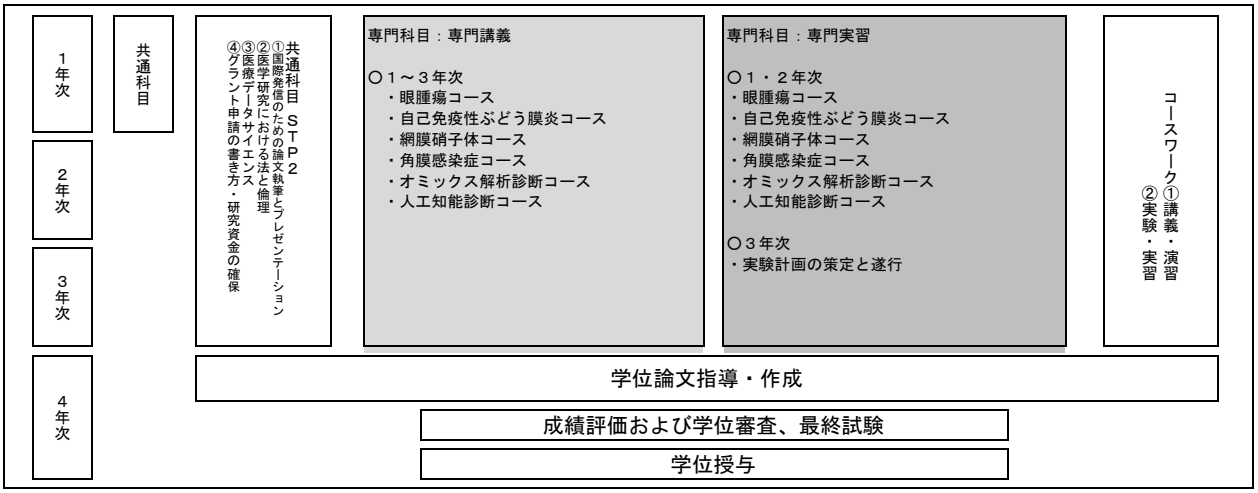
Ⅴ．授業科目・内容

【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	脊髄圧迫症の病態と治療	遠藤健司	1	2
2	講・演	脊椎外科手術と合併症	遠藤健司、西村浩輔	1	2
3	講・演	人工関節のバイオメカニクス､骨切り手術の理論	立岩俊之、石田常仁、高橋康仁	2	2
4	講・演	骨軟部腫瘍の病態と治療･手屈筋腱のバイオメカニクス	畠中孝則、永井太朗	2	2
5	講・演	変形性関節症の病態と治療	立岩俊之、石田常仁	3	2
5	講・演	骨・関節軟骨の代謝、関節軟骨の再生	立岩俊之、石田常仁	3	2
7	講・演	関節靭帯の解剖、バイオメカニクス	遠藤宏朗、小山尊士	3	2
1	験・習	脊椎外科　検査・手術手技	遠藤健司、西村浩輔	1	5
2	験・習	病棟回診	立岩俊之	1-3	4
3	験・習	手術実習	遠藤健司、立岩俊之、石田常仁、西村浩輔、遠藤宏朗、畠中孝則、永井太朗	1-3	4
4	験・習	症例検討会	遠藤健司、立岩俊之、石田常仁、西村浩輔、畠中孝則、永井太朗	1-3	4
5	験・習	外来陪席	立岩俊之、石田常仁、永井太朗	2	5
6	験・習	超音波検査、骨密度測定検査、筋電図検査の手技	西村浩輔、畠中孝則、永井太朗、松岡恒弘	2	5
7	験・習	微小外科手術手技	畠中孝則、永井太朗	3	5

―― 眼　科　学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
教　　授	若林　美宏	毎日　17:00 以降	新教育研究棟15階　眼科研究室
准 教 授	臼井　嘉彦	水曜日　15:00～17:00 木曜日　14:00～17:00	新教育研究棟15階　眼科研究室
准 教 授	馬詰和比古	木曜日　14:00～17:00	新教育研究棟15階　眼科研究室
講　　師	成松　明知	火曜日　14:00～17:00	新教育研究棟15階　眼科研究室
講　　師	坪田　欣也	火曜日　14:00～17:00	新教育研究棟15階　眼科研究室
講　　師	山本　香織	木曜日　15:00～17:00	新教育研究棟15階　眼科研究室
臨床講師	川上　摂子	木曜日　15:00～17:00	新教育研究棟15階　眼科研究室
非常勤講師	服部　貴明	月曜日　15:00～17:00	新教育研究棟15階　眼科研究室

Ⅲ．人材養成の目的

倫理観と研究的視点を有する臨床医・臨床研究者・生命科学研究者の育成。

Ⅳ．教育プログラム

1・2 年次

各専門領域の基本的手技の習得を第一に行う。他施設との合同ミーティング等に参加する。

3 年次

実験計画の策定とその遂行に努める。

4 年次

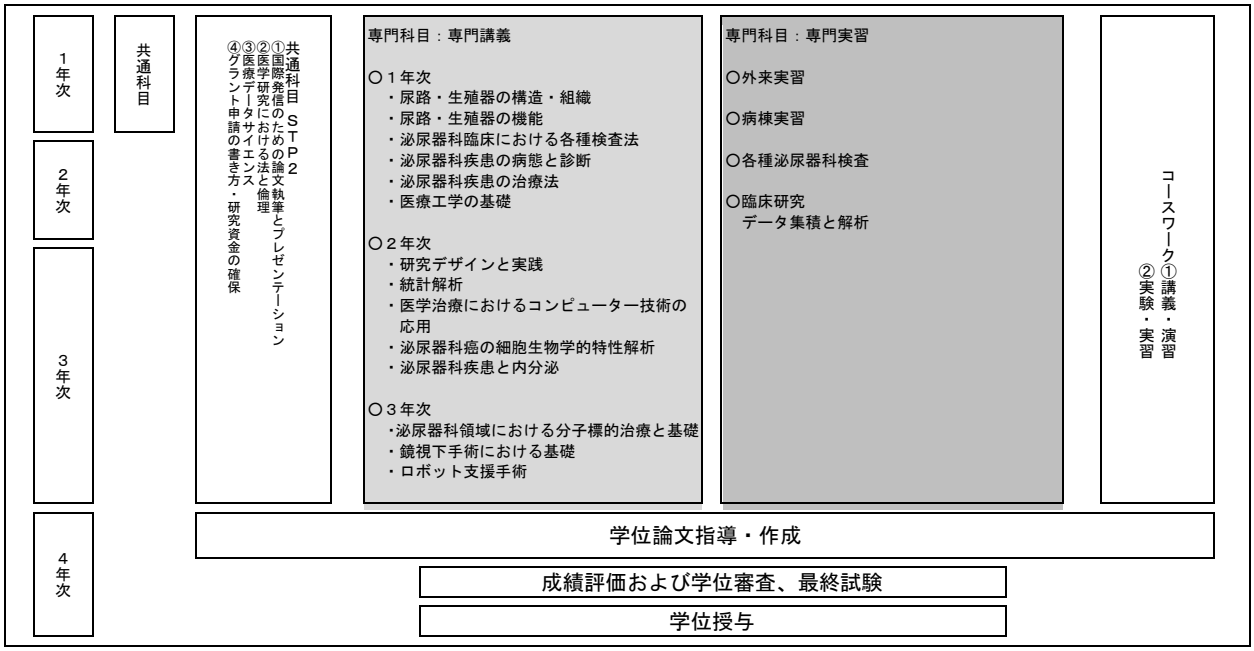
研究発表および論文作成が可能になるように研究を推進、完成させる。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	眼腫瘍の疫学	臼井　嘉彦	1	2
2	講・演	眼の免疫学的特異性	臼井　嘉彦	1	2
3	講・演	眼腫瘍の新しい治療法（低侵襲手術・重粒子線治療）、人工知能の応用による画像診断	臼井　嘉彦	1	2
4	講・演	眼腫瘍の病理組織学的検討	臼井　嘉彦	1	2
5	講・演	眼腫瘍の診断（従来の診断法と問題点）	臼井　嘉彦、坪田　欣也	1	2
6	講・演	網膜硝子体疾患の病態解析	若林　美宏、臼井　嘉彦、馬詰　和比古	1	2
7	講・演	網膜硝子体疾患の疫学	若林 美宏、馬詰　和比古、山本　香織、川上　摂子	1	2
1	験・習	自己免疫病の発症メカニズム	臼井　嘉彦	1	5
2	験・習	網膜硝子体疾患の病態解析	臼井　嘉彦、馬詰　和比古	2	5
3	験・習	角膜移植と免疫	成松　明知、服部　貴明	3-4	4

―― 泌 尿 器 科 学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名 前	オフィスアワー	場 所
主任教授	大野 芳正	8:30～17:00	教育研究棟11階 泌尿器科医局
准 教 授	橋本 剛	8:30～17:00	教育研究棟11階 泌尿器科医局
講 師	佐竹 直哉	8:30～17:00	教育研究棟11階 泌尿器科医局
講 師	平澤 陽介	8:30～17:00	教育研究棟11階 泌尿器科医局
臨床講師	鹿島 剛	8:30～17:00	教育研究棟11階 泌尿器科医局

Ⅲ．人材養成の目的

本コースは、泌尿器科学での高度な知識と技術の習得を目標とし、大学院卒業時点において、これらの知識と技術をもった優れた泌尿器科臨床医の育成にある。また自らトランスレーショナルリサーチの実践あるいは鏡視下手術およびロボット支援手術、さらには各種機能温存手術などの特殊技能を持ち合わせた臨床医の育成にある。

Ⅳ．教育プログラム

1年次

泌尿器科学における基礎的知識の修得。即ち、泌尿器科学一般の知識とともに、病理学、腎臓病学、内分泌学、代謝学、一般外科学等における基礎的知識を修得するとともに、それらに伴う基礎的診断・治療技術の実際を学ぶ。

2 年次

第 1 学年に修得した知識と技術を更に充実させ、より高度なものとする。具体的には第 1 学年において興味を持った課題に対し、より深く学習を進め完成度をより高度なものに高める。そのためには短期の他の臨床科あるいは基礎医学講座へのローテーションを考慮する。また、特定な疾患あるいは治療法等に対する講座内における症例の総括を行い、その反省点、改良点などの検証を行い、これを小論文としてまとめる。また短期の基礎医学講座へのローテーションも考慮する。

3 年次

トランスレーショナルリサーチの組み立て・発案・鏡視下手術およびロボット支援手術の特殊技術の修得、さらには各種機能温存手術などの特殊技能の修得を目指す。その実現のために国内における関連施設への短期ローテーションを考慮する。

4 年次

前 3 年間の実績を実際の臨床の場に反映するように実行し、その成果を総括する。また、これらの成果を自著論文としてまとめ、その修得した技術あるいは知識を完成させる。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	泌尿器科学総論	大野芳正、橋本　剛、佐竹直哉、平澤陽介、 鹿島　剛	1	2
2	講・演	泌尿器感染症の診断・治療	佐竹直哉、鹿島　剛	1	1
3	講・演	症例検討会	大野芳正、橋本　剛、佐竹直哉、平澤陽介、 鹿島　剛	1-3	2
4	講・演	尿路上皮癌の診断・治療	大野芳正、橋本　剛、佐竹直哉、平澤陽介、 鹿島　剛	2	2
5	講・演	前立腺癌の診断・治療	橋本　剛	2	2
6	講・演	腎細胞癌の診断・治療	大野芳正、橋本　剛、佐竹直哉、平澤陽介、 鹿島　剛	3	2
1	験・習	内視鏡検査	大野芳正、橋本　剛、佐竹直哉、平澤陽介、 鹿島　剛	1	2
2	験・習	化学療法実習	大野芳正、橋本　剛、佐竹直哉、平澤陽介	1	2
3	験・習	病棟回診	大野芳正、橋本　剛、佐竹直哉、平澤陽介、 鹿島　剛	1-3	3
4	験・習	前立腺腫瘍の基礎と研究	橋本　剛、平澤陽介	2	2
5	験・習	手術実習①	橋本　剛、平澤陽介、鹿島　剛	3-4	3
6	験・習	手術実習②	橋本　剛、佐竹直哉、平澤陽介、鹿島　剛	3-4	3

―― 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	塚原　清彰	水曜日　16:00～17:00	教育研究棟8階　塚原教授室
教　　授	稲垣　太郎	水曜日　16:00～17:00	教育研究棟8階　医局
教　　授	岡本　伊作	水曜日　16:00～17:00	教育研究棟8階　医局
准 教 授	本橋　　玲	水曜日　16:00～17:00	教育研究棟8階　医局
准 教 授	近藤　貴仁	水曜日　16:00～17:00	教育研究棟8階　医局
准 教 授	白井　杏湖	水曜日　16:00～17:00	教育研究棟8階　医局
臨床准教授	西山　信宏	水曜日　16:00～17:00	教育研究棟8階　医局
講　　師	上田　百合	水曜日　16:00～17:00	教育研究棟8階　医局
講　　師	田中　英基	水曜日　16:00～17:00	教育研究棟8階　医局

備考：不在の際には医局秘書まで（内）203

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、探究心旺盛で人間味にあふれる耳鼻咽喉科専門医の養成である。大学院での研究を通じて、エビデンスに基づいて論理的に診断・治療を組み立てて行く能力を養うとともに、新しい診断・治療法の開発や疾患概念の見直しができる柔軟な思考力、それを現実の形にするための実行力を養う。本コースの目的は、専門性の高い分野である耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門医の養成である。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

研究テーマに関連する文献を広く渉猟し、内容を把握して世界における研究の進展度を理解する。これにより自らのテーマの目標を見極める。同時に実験計画を作成し、基本的な実験技術を習得する。臨床研究において必要があれば本学倫理委員会に申請書提出の上、研究遂行の承認を得ておく。耳鼻咽喉科外来において実際の耳疾患、聴覚障害者の診察にあたり、その病態の基本について学ぶ。耳・鼻副鼻腔の解剖生理学の基礎を理解する。
嚥下障害の病態を理解する。
動物実験の基本手技を理解し実行できるようにする。

2 年次

指導者の監督下に研究を開始する。耳鼻咽喉科外来において実際の耳疾患、聴覚障害者、鼻副鼻腔疾患の診察にあたり、その病態の基本について考察し、治療法を理解する。嚥下障害の手術治療を簡便なものについては自ら行うことができる。また複雑なものについては適切に助手を務めることができる。
嚥下障害の検査を自ら行い結果を解釈できる技能を修得する。
自らの研究課題に対し、基礎（動物）実験の蓄積を行う。

3 年次

前半は研究を続行し、得られたデータについて逐次指導者と討論し、検討する。必要があれば研究計画や方法を変更する。後半は確立した方法で研究を続け、データの蓄積に努める。耳鼻咽喉科外来において実際の耳疾患、聴覚障害者、鼻副鼻腔疾患の診察にあたり、診断し、患者心理について考察する。手術技術を向上させる。
個々の嚥下障害に対して必要な検査を自ら選択して研究を行う。あるいは自ら検討方法を考案する
基礎（動物）実験のデータ蓄積を継続する。

4 年次

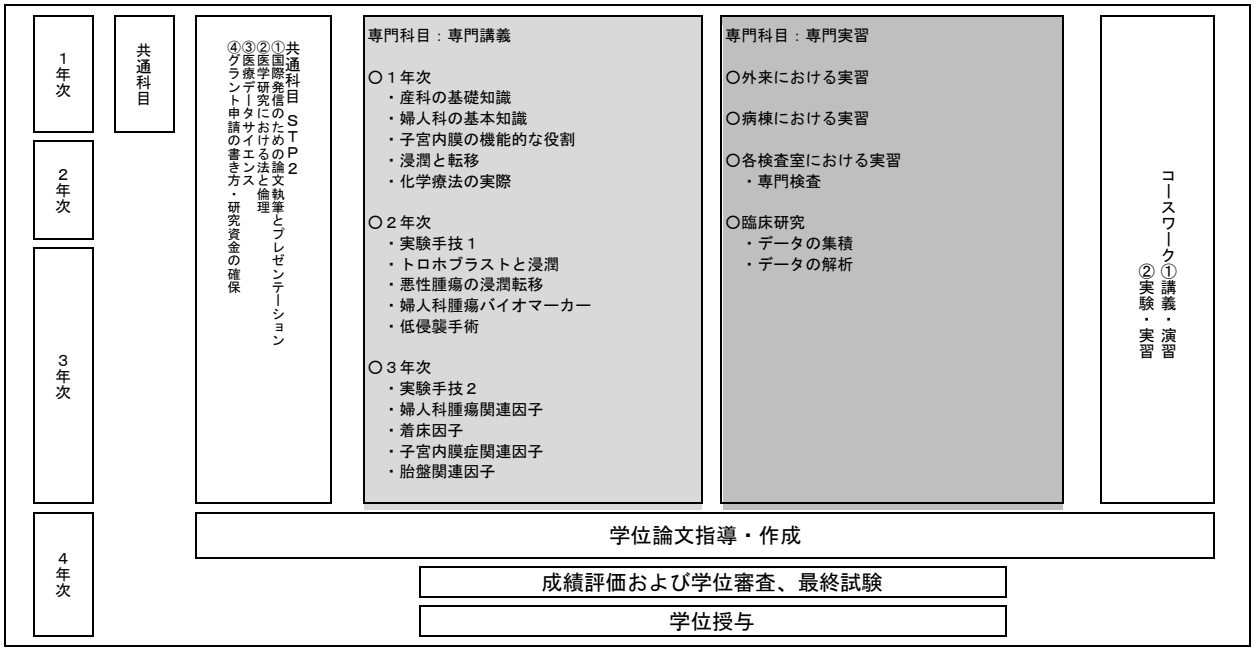
前半で、指導者と検討しつつデータを蓄積し、研究を終了する。後半で、論文作成を始め、1 か月以内に原稿作成を終了する。指導者の校閲を受け、9 月中に投稿する。耳鼻咽喉科外来において実際の耳疾患、聴覚障害者、鼻副鼻腔疾患の診察にあたり、診断し、治療し、患者心理も含めて、その結果についてまとめる。個々の嚥下障害や音声障害に対する検討・検査結果から病態に対する新しい知見や治療方法を検討する。これを研究結果としてまとめ報告する。
自らの研究課題に対し、基礎（動物）実験の結果得られた知見をまとめ、報告する。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講・演 験・習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
2	講・演	耳鼻咽喉科・頭頸部外科の概要と基礎	塚原清彰、稲垣太郎、岡本伊作、本橋　玲、 近藤貴仁、白井杏湖、西山信宏、上田百合、 田中英基	2	2
3	講・演	病態と検査	塚原清彰、稲垣太郎、岡本伊作、本橋　玲、 近藤貴仁、白井杏湖、西山信宏、上田百合、 田中英基	3	2
4	講・演	診断と治療	塚原清彰、稲垣太郎、岡本伊作、本橋　玲、 近藤貴仁、白井杏湖、西山信宏、上田百合、 田中英基	3-4	2
1	験・習	計画立案	塚原清彰、稲垣太郎、岡本伊作、本橋　玲、 近藤貴仁、白井杏湖、西山信宏、上田百合、 田中英基	1	5
2	験・習	研究の実行、診療・手術の技術向上	塚原清彰、稲垣太郎、岡本伊作、本橋　玲、 近藤貴仁、白井杏湖、西山信宏、上田百合、 田中英基	2	5
4	験・習	論文作成、診療・手術の技術獲得	塚原清彰、稲垣太郎、岡本伊作、本橋　玲、 近藤貴仁、白井杏湖、西山信宏、上田百合、 田中英基	3-4	4

―― 産科婦人科学 ――

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	西　　洋孝	火曜日　15:00～17:00	新教育研究棟12階　産科婦人科　教授室
准 教 授	佐々木　徹	水曜日　14:00～16:00	新教育研究棟11階　産科婦人科　医局
准 教 授	小島　淳哉	月曜日　14:00～16:00	新教育研究棟11階　産科婦人科　医局
講　　師	林　　茂空	月曜日　14:00～16:00	新教育研究棟11階　産科婦人科　医局
講　　師	森田　吉洋	金曜日　14:00～16:00	新教育研究棟11階　産科婦人科　医局

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、臨床・研究・教育に優れた産婦人科専門医の養成である。大学院での研究を通じて、エビデンスに基づいて論理的に診断・治療を組み立てて行く能力を養うとともに、新しい診断・治療法の開発や疾患概念の見直しができる柔軟な思考力、それを現実の形にするための実行力を養う。

Ⅳ．教育プログラム

1 年次

大学病院にて産科婦人科臨床研修を受ける。特にこの期間に産科に関しては、正常分娩や帝王切開術を含めた異常分娩を扱えるよう研修を受ける。婦人科に関しては、術者として単純子宮全摘術等の技術を周術期管理とともに学ぶ。

2 年次

関連施設にて産科婦人科臨床研修を受ける。特にこの期間に産科に関しては、正常分娩や帝王切開術を含めた異常分娩を扱えるよう研修を受ける。婦人科に関しては、術者として単純子宮全摘術等の技術を周術期管理とともに学ぶ。

3 年次

大学病院へ帰院後は臨床としての産科･婦人科を東京医科大学病院にて研修し､週に１日の勤務フリー日を享受できる｡1年間に筆頭者として少なくとも１回の学会発表を行い､コンピューターやインターネットを使った database 検索や統計処理などを学び、発表方法を学ぶ。また、２ヶ月以上の他科研修を受けられる（小児科・泌尿器科・皮膚科・消化器外科・乳腺科・麻酔科・総合診療科など)。臨床フリー期間および研究テーマが与えられ､指導スタッフのもと基礎研究または臨床研究を開始する。

4 年次

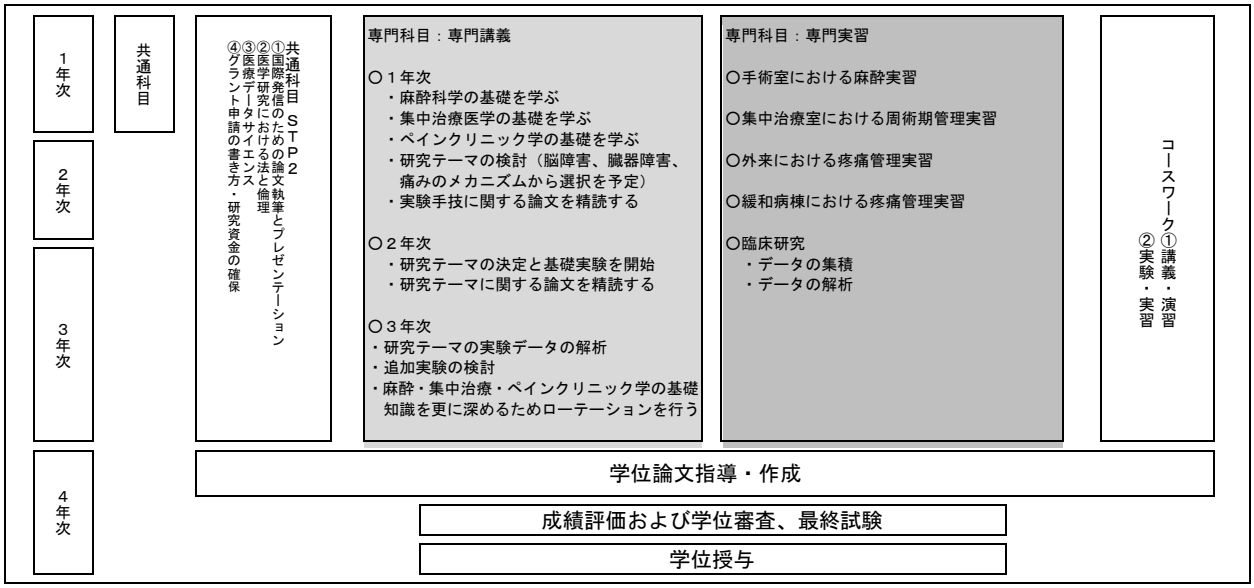
スタッフの指導のもと、初期臨床研修医・医学部学生の指導を通して医療チーム責任者としての資質を養うとともに、定期的な学会発表を通して医学者としての研究の修練を受ける。４年目（研修開始３年後）には日本産科婦人科学会認定の日本産科婦人科学会専門医試験を受験する。その後、内視鏡・腫瘍・周産期・生殖内分泌などの専門医取得をふまえた研修を受けられる。

Ⅴ．授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	症例検討会	西　洋孝	1	2
2	講・演	不妊症・生殖補助医療	森田　吉洋	1	2
3	講・演	産科疾患の取り扱い	小島　淳哉	2	2
4	講・演	低侵襲手術	佐々木　徹	3	2
1	験・習	専門検査　コルポスコピー	佐々木　徹、林　茂空、森田　吉洋	1	2
2	験・習	病棟回診	林　茂空	1	2
3	験・習	病棟実習　婦人科	林　茂空	1	2
4	験・習	専門検査　子宮鏡	森田　吉洋	2	2
5	験・習	病棟実習　産　科	小島　淳哉	2	2
6	験・習	教授外来陪席	西　洋孝	3	2
7	験・習	手術実習	佐々木　徹	3-4	2

―― 麻 酔 科 学 ――

Ⅰ．コース概要



職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	中澤　春政	－	－
教　　授	合谷木　徹	月～金 13:00～17:00	病院5階　手術室、カンファランスルーム
客員教授	大瀬戸清茂	月･木　14:00～17:00	病院4階　ペインセンター 病院5階　手術室、カンファランスルーム
客員教授	濱田　　宏	水･木　14:00～17:00	病院5階　カンファランスルーム
臨床准教授	柿沼　孝泰	月～金 13:00～17:00	病院5階　手術室、カンファランスルーム
講　　師	関根　秀介	月～金　9:00～17:00	病院5階　手術室、カンファランスルーム
助　　教	鈴木　直樹	月～金 13:00～17:00	病院5階　手術室、カンファランスルーム
助　　教	唐仁原　慧	－	－
助　　教	魚島　直美	－	－

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、リサーチマインドを有する、人間味あふれる麻酔科専門医の養成である。大学院での研究を通じて、エビデンスに基づいて良質で安全な医療を提供できる実践的な麻酔科医を錬成して診断・治療を組み立てて行く能力を養うとともに、「学則不固」の理念のもとに、新しい麻酔法や麻酔科領域における各種病態に対する新規の診断･治療法の開発や疾患概念の見直しができる柔軟な思考力、それを現実の形にするための実行力を養う。

Ⅵ. 教育プログラム

1 年次

麻酔科学・集中治療医学・ペインクリニック学・緩和医療学の基礎的な理解を通じて、エビデンスに基づく安全で良質な医療を提供できる麻酔科医を目指して研鑽を行う。英語文献を精読することを通じて世界標準の麻酔科学の知識の習得を目指す。

2 年次

臨床で直面する病態の発症機序を基礎研究に従事することで、理解を深め、各種病態に対する新規の診断・治療法の開発に繋がる柔軟な思考力、それを現実の形にするための実行力を養う。

3 年次

得られた研究結果を解析し、論文のまとめ方を学ぶ。臨床における、麻酔管理学、集中治療医学、ペインクリニック学、緩和医療学の更なる研鑽を積み標榜医・認定医取得を目指す。

4 年次

基礎研究で得られた結果を国内および、国際学会で発表する。学位論文を作成する。

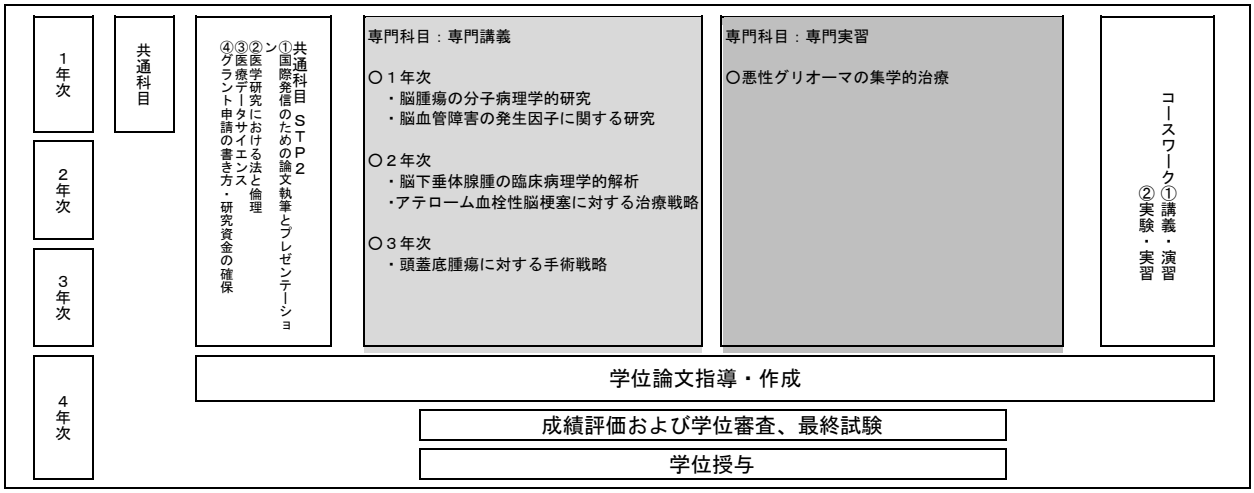
Ⅶ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	麻酔科学総論	合谷木徹、柿沼孝泰、鈴木直樹、魚島直美	1	3
2	講・演	緩和医療学総論	濱田　宏	1	2
3	講・演	ペインクリニック学総論	大瀬戸清茂、合谷木徹、唐仁原慧	1-3	3
1	験・習	麻酔科学実習	合谷木徹、柿沼孝泰、関根秀介、鈴木直樹、魚島直美	1-3	6
2	験・習	術前診察	関根秀介	1-3	6
3	験・習	ペインクリニック実習	大瀬戸清茂、合谷木徹、唐仁原慧	1-3	6

―― 脳神経外科学 ――

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	河野　道宏	火曜日　16:30～18:00	教育研究棟11階　脳神経外科医局（内線 5773）
教　　授	橋本　孝朗	火曜日　16:30～18:00	教育研究棟11階　脳神経外科医局（内線 5773）
教　　授	深見真二郎	火曜日　16:30～18:00	教育研究棟11階　脳神経外科医局（内線 5773）
講　　師	中島　伸幸	火曜日　16:30～18:00	教育研究棟11階　脳神経外科医局（内線 5773）

備考：事前連絡

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

脳神経外科学講座大学院課程においては、実験実習を通して脳神経外科学分野の指導的研究者の育成を目指す。常に科学者の目線で、臨床上生じうる諸問題へ考察し得る素養を育むことを目的とする。

【社会人大学院】

脳神経外科学講座社会人大学院課程においては、実験実習を通して脳神経外科学分野の指導的研究者の育成を目指す。臨床上生じ得る諸問題に対して、基礎的研究の面から解決策を考察し得る素養を育むことを目的とする。

Ⅵ. 教育プログラム

【一般大学院】／【社会人大学院】

1 年次

6 つの研究課題が現在の脳科学研究分野においてどの様な位置づけにあるかを理解し、研究を行うことの意義を把握する。その後、研究テーマ毎の問題立案を行い、その解決に向けた具体的な実験計画を作成し、その実験を行う上での基礎知識・技術を把握する。そして、具体的な実験プロトコールを作成する。

2 年次

研究テーマ毎の基礎実験を開始し、同時に研究テーマにおける世界的な趨勢を調査し、臨床上生ずる諸問題の解決への結びつけを検討する。

3 年次

各研究テーマの基礎実験結果を解析し、それぞれの意義づけを行う。同時に必要な追加実験を実施し、4 年次へ向けての問題提起を中心に、実験の中間報告を作成し、発表する。

4 年次

各研究テーマの基礎実験結果の最終解析を行い、結果報告（学会発表）を行う。その後、学位論文を作成し、提出する。

Ⅶ. 授業科目・内容

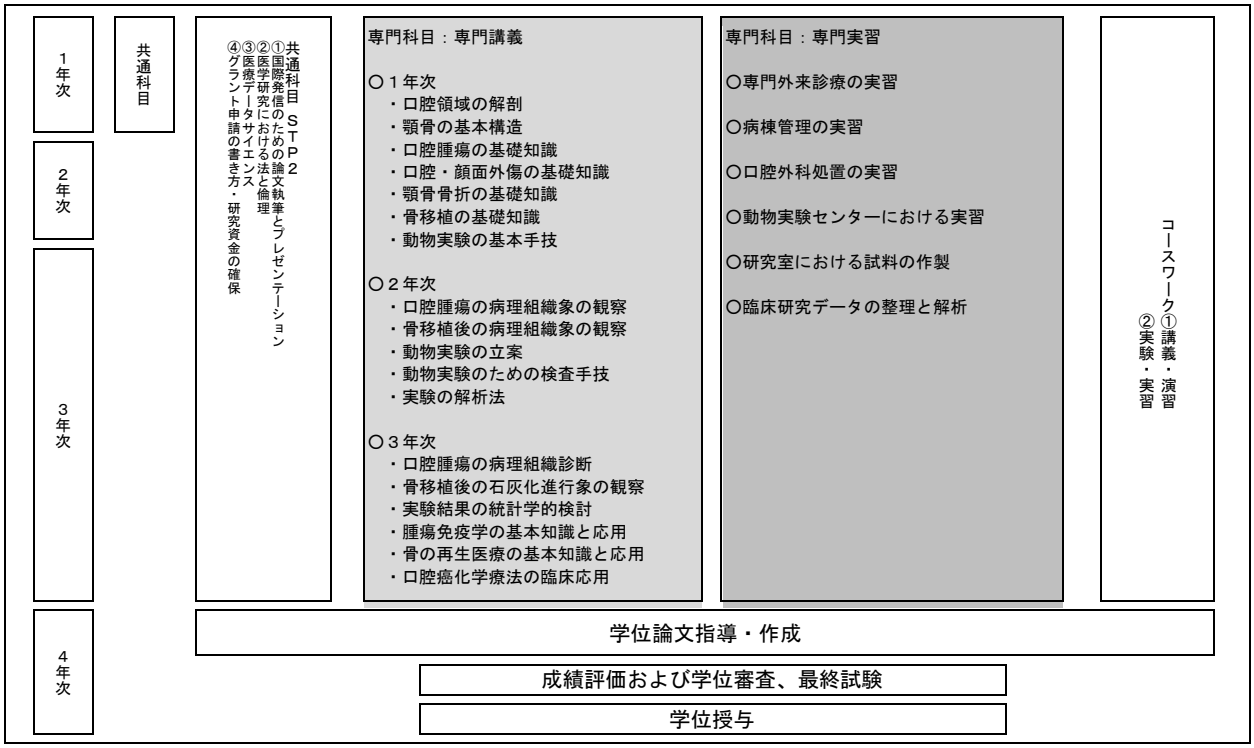
【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講・演	脳血管障害の発生因子に関する研究	橋本　孝朗	1	2
2	講・演	脳下垂体腺腫の臨床病理学的解析	中島　伸幸	2	2
3	講・演	頭蓋底腫瘍に対する手術戦略	河野　道宏	3	2
4	験・習	脳腫瘍の分子病理学的研究	河野　道宏、深見　真二郎	1-3	5
5	験・習	悪性グリオーマの集学的治療	深見　真二郎	1-3	5
6	験・習	アテローム血栓性脳梗塞に対する治療戦略	橋本　孝朗	3-4	4

―― 口 腔 外 科 学 ――

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	近津　大地	木曜日　12:30～13:00	医局 or 教授室
准 教 授	長谷川　温	木曜日　12:30～13:00	医局
准 教 授	河野　通秀	木曜日　12:30～13:00	医局
（確認中）	菅野　直美	木曜日　12:30～13:00	医局
（確認中）	山本　　泰	木曜日　12:30～13:00	医局
講　　師	金子児太郎	木曜日　12:30～13:00	医局
講　　師	杉崎　リサ	木曜日　12:30～13:00	医局
講　　師	佐藤麻梨香	木曜日　12:30～13:00	医局
助　　教	羽鳥　綾乃	木曜日　12:30～13:00	医局
病院助教	藤井　裕子	木曜日　12:30～13:00	医局

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

高度な研究手技と解析、および論文作成法を修得し、この成果を次世代の大学院生のみならず教室研究者に伝え、教室から質の高い基礎研究が継続されるよう、教室の研究指導者を養成する。また、新しい研究方法を臨床にも応用できるように、絶えず臨床への応用に配慮する目線を有する指導者を養成する。

【社会人大学院】

学位を取得するのみでなく、口腔外科専門医の資格を取得し、臨床における診断能力、手術手技、治療戦略、術後管理などに力を発揮するだけでなく、新しい治療手段や基礎研究の臨床応用にも目を向け、教室の臨床能力を高める指導的人材を育成する。

Ⅳ．教育プログラム

【一般大学院】

1 年次

到達目標を常に意識させ、コース概要に沿った教育を実践する。 基本的な口腔外科学の基礎知識や手技を修得する。 実験動物の扱いに習熟する。

2 年次

本人の希望・興味などを総合的に判断して動物実験を立案し、学位論文のテーマを決定する。 予備実験で得られた試料の作製法や解析法に習熟する。 実験動物を用いた基礎研究を開始する。

3 年次

基礎研究を継続し、試料の観察と解析、統計学的検討を行う。

4 年次

研究で得られた資料を検討し、学位論文として作成する。

【社会人大学院】

1 年次

到達目標を常に意識させ、コース概要に沿った教育を実践する。 基本的な口腔外科学の基礎知識や手技を修得する。

2 年次

本人の希望・興味などを総合的に判断して臨床研究を立案し、学位論文のテーマを決定する。 論文作成のための資料の作製法や解析法、研究テーマの基本手技に習熟する。

3 年次

臨床研究を継続し、資料の作製と解析、統計学的考察を行う。

4 年次

研究で得られた資料を検討し、学位論文として作成する。

Ⅴ．授業科目・内容

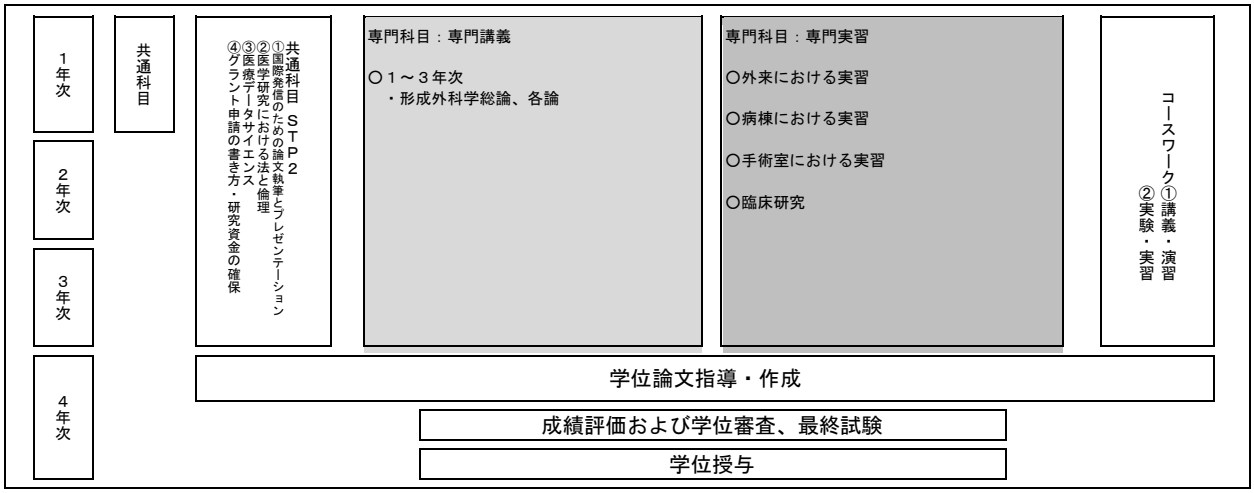
【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講･演	再生医療の基礎研究Ⅰ	近津大地、金子児太郎、杉崎リサ、羽鳥綾乃	1	2
2	講･演	石灰化進行像から見た骨の形成と破壊	近津大地、金子児太郎、杉崎リサ、	1	2
3	講･演	全身の骨代謝と顎骨への影響	近津大地、金子児太郎、杉崎リサ、	1	2
4	講･演	再生医療の基礎研究Ⅱ	金子児太郎、杉崎リサ、羽鳥綾乃	2	2
5	講･演	咀嚼運動が顎関節に及ぼす影響	近津 大地、金子児太郎、杉崎リサ、藤井裕子	2	2
6	講･演	口腔癌の手術・放射線・化学療法	菅野直美、長谷川温、河野通秀、佐藤麻梨香	2	2
1	験･習	顎関節鏡の取り扱い	河野通秀、金子児太郎、藤井裕子	1	5
2	験･習	非脱灰研磨片の作製･顕微Ｘ線像の観察	河野通秀、山本泰、佐藤麻梨香	2	5
3	験･習	病理切片の作製と診断	河野通秀、山本泰、佐藤麻梨香	3-4	4
4	験･習	担癌動物実験法	菅野直美、河野通秀、山本泰、佐藤麻梨香	3-4	4

―― 形 成 外 科 学 ――

Ⅰ．コース概要

【一般大学院】／【社会人大学院】



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名 前	オフィスアワー	場 所
主任教授	松村 一	月曜日 18:00～19:00	形成外科医局
准 教 授	小宮 貴子	月曜日 18:00～19:00	形成外科医局
准 教 授	藤井 美樹	月曜日 18:00～19:00	形成外科医局
講 師	島田 和樹	月曜日 18:00～19:00	形成外科医局

Ⅲ．人材養成の目的

【一般大学院】

医学分野における形成外科の基本的な考え方を学習する。診断方法や治療適応の判断、臨床的な治療結果を考察するとともに､形成外科の特徴である創傷治癒や組織移植の知識を深めるとともに、より良い結果をうるための新しい知見を探求する姿勢を習得する。

【社会人大学院】

医学分野における形成外科の基本的な考え方を学習する。臨床的な診断方法や治療方法の原則を学習するとともに、その基礎となる創傷治癒や組織移植の知識を得る。

Ⅳ．教育プログラム

【一般大学院】／【社会人大学院】

1 年次

身体各部の形成外科手術の基礎となる考え方、解剖について幅広く学習する。外科の基本手技を習得する。

2 年次

基礎的な病態に基づいた治療方針の立案ができる。助手として手術の介助ができる。専門的分野の研究テーマを決める。

3 年次

研究テーマに基づいた研究とデータの解析、学会発表を行う。

4 年次

発表を発展させて論文を作成する。低年次の大学院生への助言を行う。

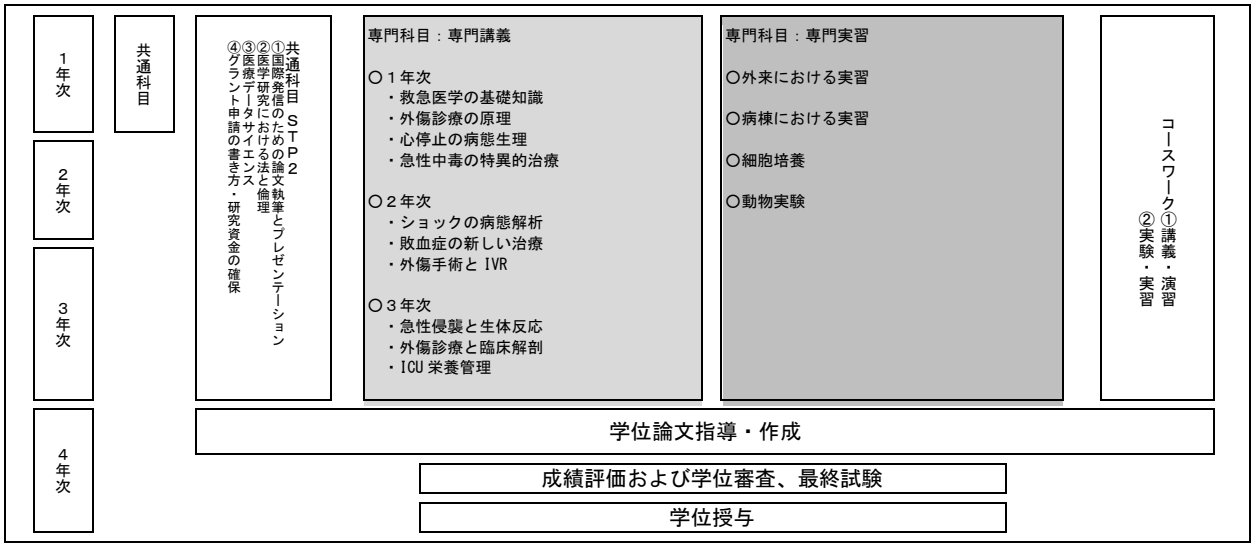
Ⅴ．授業科目・内容

【一般大学院】／【社会人大学院】

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講･演	形成外科学総論、各論	松村　一	1	2
2	講･演	形成外科学各論 －創傷治癒を促進する方法等－	藤井　美樹	1	2
3	講･演	形成外科学各論 －熱傷の病態生理、診断、治療法等－	島田　和樹	2	2
1	験･習	形成外科領域の研究計画	松村　一	1-3	5
2	験･習	創傷、瘢痕、移植術の実際	小宮　貴子	1-3	5
3	験･習	形成外科の手術手技	島田　和樹	3-4	4

—— 救急・災害医学 ——

Ⅰ．コース概要



Ⅱ．教育スタッフ・研究指導担当

職	名　前	オフィスアワー	場　　所
主任教授	本間　　宙	17:00～18:00	救命救急センター
教　　授	三島　史朗	17:00～18:00	救命救急センター／医療安全管理室
准 教 授	弦切　純也	17:00～18:00	救命救急センター
講　　師	内田康太郎	17:00～18:00	救命救急センター／医学教育学
助　　教	奥村　滋邦	17:00～18:00	救命救急センター

備考：曜日は自主自学に掲載します。

Ⅲ．人材養成の目的

本コースの目的は、科学的手法と臨床の調和・融合を目指す救急医・医療者の養成である。大学院での研究を通じて､エビデンスに基づいた論理的診断･治療方針を組み立てる能力を養うと共に、新しい診断・治療法の開発に取り組める、柔軟な思考力と具体的な実行力を育てる。

Ⅳ. 教育プログラム

1 年次

講義と、ER および ICU における実習実技を中心に、救急医学を学び研究テーマを考察する。

2 年次

テーマに沿った、臨床、動物、培養細胞を用いての研究・実験計画を立て、データの収集を行う。

3 年次

データの収集と計画の見直しを行い、成果に関しては順次学会発表を行う。

4 年次

論文作成の一方、後輩や学生の指導を通じて救急医学を学ぶ。

Ⅴ. 授業科目・内容

No	講･演 験･習	授業科目・内容	担当教員	配当 年次	単位
1	講･演	救急医学概論	本間　宙、内田康太郎	1	2
2	講･演	外傷診療総論	本間　宙、弦切　純也、内田康太郎	1	2
3	講･演	抄読会	本間　宙、三島　史朗、内田康太郎	1	2
4	講･演	症例検討会	本間　宙、弦切　純也、内田康太郎	1	2
5	講･演	Acute Care Surgery の標準診療	本間　宙、弦切　純也	3	2
1	講･演	心肺蘇生の理論的背景	本間　宙、内田康太郎	1	5
2	講･演	外傷診療の実践	本間　宙、内田康太郎	2	5
3	験･習	細胞培養法	本間　宙、三島　史朗、奥村　滋邦	3-4	4

